

2 指 令 十三年九月九日

何ノ趣聞届第三十四號ノ通告候事

但豫防心得書ハ取調伺出ヘシ

3 法制部議案 十三年六月二十九日

別紙内務省上申傳染病豫防規則ノ儀審査候處明治十二年第三十
二號布告ヲ以テ虎列刺病豫防規則改正相成候ヘ共傳染病ノ儀
ハ特ニ該病ノミニ止ラス他ノ惡病モ併セテ之ヲ豫防セサルヘカ
ラス因テ上稟之趣聽許付鑿修正ノ通告シ十二年第三十二號布
告ハ廢止相成可然尤至急ヲ要シ候モノニ付便宜布告ノ後元老院
檢視ニ被付可然哉内務部ヘ合議ノ上諸案勘査仰高裁候也

4 内務省伺 十三年七月二十四日

今般第三十四號ヲ以傳染病豫防規則公布相成候處右規則中第八
條掛リ官吏ニテ取計候病名票貼付之儀實際官吏於テ難取計節ハ
衛生委員ニ爲取扱候ハテハ差支候趣縣官ヨリ伺出有之就テハ地
方ノ都合ニヨリ衛生委員ニ爲取扱不苦旨指令仕度右ハ規則上官
吏ノ字面ニ相關シ候儀ニ付一應相伺候條至急御裁可相成度候也

5 指 令 十三年八月廿四日

何之趣ハ衛生委員ニ於テ取計ヘキ筋ニ無之候事

(以上、法規分類大全・衛生門 三ノ四)

第九十九號議案

酒造稅則案、醫麴營業稅則案、
自家飲料酒類製造定限案

元老院會議筆記 明治十三年九月六日

○第九十九號議案 酒造稅則布告按、醫麴營業稅則布告
按、自家飲料酒類製造定限布告按

第一讀會

議長 大木
喬任

出席議員

- 一番 楠田英世
- 二番 神田孝平
- 三番 東久世通禧
- 四番 佐々木高行
- 五番 山口尙芳
- 六番 黑田清綱
- 七番 箕作麟祥
- 八番
- 九番
- 十番

酒造稅則案、醫麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

四八九

- 十二番 楠本正隆
- 十三番 福岡孝弟
- 十四番 河田景與
- 十五番 安場保和
- 十六番 細川潤次郎
- 十七番 伊丹重賢
- 十八番 中村弘毅
- 十九番 岩村通俊
- 二十番 渡邊 驥
- 廿一番 鶴田 皓
- 廿二番 大給 恒
- 廿三番 齋藤利行
- 廿四番 福羽美靜
- 廿五番 柴原 和
- 廿六番 津田眞道
- 廿七番 大久保一翁
- 廿八番 伊集院兼寛
- 廿九番 中島信行
- 三十番 玉乃世履
- 卅一番 林友幸
- 卅二番

卅三番 渡邊 昇
 卅四番 河瀬 眞孝
 内閣委員 番外 太政官權大書記官 野 琢
 午前第九時五十分開場

○議長 第九十九號議案第一讀會ヲ開ク但本按ハ酒造稅則
 營業稅則及自家飲料酒類製造定限等ノ布告按アリ故ニ
 其混雜ヲ防カン爲メ先ツ酒類稅則ヨリ順次三段ニ分チテ質
 議ニ付セントス各位例ニ遵ヒ發議スヘシ

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

布告 按

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行シ從前ノ
 酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

酒造稅則

第一章 免許鑑札、稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管
 廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クベシ
 第二條 酒ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之
 ヲ製造スルヲ得ベシ

一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造
 二類 蒸溜酒 燒酎其他蒸溜酒
 三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ
 又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ
 第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其
 額左ノ如シ

酒造場一箇所ニ付 金三十圓
 酒類造石稅

一類 壹石ニ付 金貳圓
 二類 壹石ニ付 金三圓
 三類 壹石ニ付 金四圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ
 一期トス

第五條 免許ヲ請フ者ハ毎年九月三十日迄ニ管廳ニ願出ヘ
 シ右期日ヲ過クレハ免許セサル者トス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳
 ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ
 片ハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納稅 造石檢查

第八條 免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ
 第九條 造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

第二期 七月三十一日限
 十月一日ヨリ二月三十一日迄檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第三期 九月三十日限
 四月一日ヨリ六月三十日迄檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出檢査ヲ受クヘシ
 第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ
 第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類
 ト雖モ總テ管廳ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條 檢査未濟ノ酒類ハ檢査濟ノ酒類又ハ古酒買入酒
 等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
 第十四條 檢査未濟ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製スル
 時ハ造石稅ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 檢査濟ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製 第一章第二條中
 一類ノ酒ヲ二類
 二類ヲ三類
 ニ變製スル類 スル時ハ既ニ檢査濟ノ石數ニ造石稅ヲ納メ
 更ニ變製ノ石數ニ就テ造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ檢査ヲ受クヘシ且製成

酒造稅則案、釀造營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ
 直ニ管廳ヘ申出檢査ヲ受クヘシ
 第十七條 前條檢査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ
 應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シ
 タル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第三章 禁令 雜令

第十八條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒
 類ヲ問ハス其仕込タル酒も及其他仕込米及ヒ營業ニ關ス
 ル諸帳簿等ノ檢査ヲ受クヘシ
 第十九條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳ヘ申
 出其容量ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十條 醉製造及ヒ酒もと并ニ麴ヲ販賣スルヲ許サス
 第二十一條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ製造スルヲ許サス
 第二十二條 檢査濟ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消糜
 スルヲ許サス

第二十三條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス
 第二十四條 造酒 蒸溜 機器ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ
 置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請クヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フヘシ

第二十五條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十六條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戸外ニ掲出スヘシ

第二十八條 藥用ノ酒精アルコノ并ニ藥種ヲ混和スル酒類ヲ製造營業スル者モ總テ此稅則ニ從フヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許稅額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第一條ニ據テ處

知ラントナラハ大藏省酒造達心得及現行酒類稅則ヲ見ハ瞭然タラン因テ逐條ノ辯明ヲ須ヒス

○廿六番 柴原 第十五條但書ニ第十一條ノ手續ニ據ルノ文字アルモ兩條固ヨリ連絡ヲ爲サ、ルモノナリ又第三十條ニ第一條ニ據テ云々ノ文字アリ是レ亦第一條ト其氣味ヲ通セサルモノトス惟フニ第三十條中第一條ノ文字ハ前條ノ誤リナラサルカ併テ説明ヲ乞フ

○一番 殿野 第十五條第三十條ノ質問ハ他日ニ讓ランコトヲ乞フ如何トナレハ第十一條及第一條ノ文字ハ印行ノ誤リナラントスレハナリ

○廿六番 柴原 第一條ニ「酒造場一箇所毎ニ」トアルハ例ヘハ品川ニ一箇所青山ニ一箇所ノ謂カ田舎等ニハ往々自房ニ五石隣房ニ五石ヲ造ル等ノコトアリ此ノ如キモ其位置異ナルヲ以テ猶二箇ノ免許鑑札ヲ受ケサルヘカラストナスカ又第二條一類釀造酒ノ脚註ニ清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フトアリ其他トハ何ヲ指シヤ

○一番 殿野 大藏省心得達ニ掲クル一箇所一鑑札ニシテ其酒造場一箇所トハ一構内ノ精神ナリ又第二條釀造酒ノ脚註ニアル其他ハ一々指名スルノ煩ヲ省ク爲メナリ即チ濁酒ニモ中酌等アルヲ以テナリ

分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 造酒石數ノ検査ヲ受ケスシテ賣捌キタル時ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅ニ倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ但未製成ノ酒類もともろト雖モ隠蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消糜シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違犯スル者ハ壹圓ヨリ少ナカラス三拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

○一番 殿野 抑々明治八年第二十二號布告ヲ以テ舊法ヲ廢シ現行酒類稅則ヲ施行セシ以來尙數次ノ改正増補ヲ爲シ粗其順序ヲ得ルニ至リシト雖モ十年以來大藏省當該官検査ノ時ニ臨ミ實地營業上ニ就テ續々詐偽造稅等ノコトヲ檢出シ今ニシテ全體ヲ改正スルニアラサレハ遂ニ其取締ヲ爲ス可ラストス是レ本按ノ成ル所以ナリ若シ改正ノ必須ナル理由ヲ

○三十番 中島 本按稅則順序ノコトハ抑々末ナリ現行法律ニハ清酒一石ニ付稅金一圓ナリ本按ハ之ヲ二圓ト爲ス是レ何ノ要スル所アリテ然ルヤ蓋シ民人ノ切ニ感觸スルモノハ稅ヨリ甚シキハナシ明治十一年發布ノ現行法ハ其徵セサルヲ得サルノ理由アリテ然ルナリ今何ノ理由アリテ此増徴ヲ欲スルヤ請フ説明アラシコトヲ

○一番 殿野 單ニ増稅ト云ヘハ其感觸甚シキニ似タリト雖モ從來徵收セシ請賣稅ヲ廢スルニヨリ之ヲ補充スルカ爲メニ此舉ヲ要スルナリ然レトモ現行ノ免許稅拾圓ヲ三十圓ト爲スハ過多ナルカ如シト雖モ決シテ然ラス現行ノ例ニ由レハ酒類一種ヲ以テ拾圓トシ若シ五種ヲ製造セハ五十圓ヲ出サ、ルヲ得サルモノナリ故ニ今縱令三十圓トナスモ之ヲ増稅トハ云ヘカラス又一圓ヲ二圓トセシモ故ナキニアラス乃チ當初一圓ト定メシ時ト今日トノ米價酒價ヲ比セハ必ス斯クナラサルヘカラル理由ヲ存ス之ヲ要スルニ本案ヲ施行セハ若干増稅ニ至ルヤ知ルヘシト雖モ其徵收ノ金額ヲ使用スルノ目的ハ固ヨリ本員ノ與知スル所ニアラス因テ之ヲ辯セス

○十五番 安場 元來濁酒ハ國稅中ニ入レ地方稅中ニ入ル、モ亦可ナリト云フノ趣旨ナリシニ本案ハ清濁ノ別ナク直ニ國

稅中ニ加ヘントス惟フニ兩酒ノ用法甚タ異ナルヲ以テ此ノ如キハ人民ノ不便云フ可ラサルモアリ敢テ其理由ヲ問フ

○一番 股野 從來酒類ヲ六種ニ分チテ之ヲ徵稅セシト雖モ其間味淋稅ヲ納メテなをシテ造ルモノアリ又酒ノ未タ搾ラサル前ハ混濁ナルヲ以テ之ヲ濁酒ト詐稱シ以テ逋稅ヲ謀ル等其弊少々ナラス是レ獨リ管理上差支アルノミナラス從テ犯則人ヲ現出スルヲ以テ本按ハ之ヲ濶畧シ分テ三種ト爲シ其管理ノ便ト犯則者ノナカラントテ慮リテ以テ之ヲ草スルモノナリ

○十二番 楠本 抑々本邦從來ノ稅法ヲ見ルニ其重クスヘキ酒ニ輕クシテ其輕クスヘキ他品ニ重ク其間大ニ權衡ヲ失フモノアリ故ニ其輕クスヘキヲ輕クシ其重クスヘキヲ重クセントスルハ本官ノ持論ナリ本按ノ如キ其手續上ニヨルハ稍濶濶ニシテ其便ナルニ似タリト雖モ恐クハ時機ヲ失フモノト謂ンカ然レモ方今財政ノ困難ヨリ止ムヲ得シテ此ニ至リシナルヘシ因テ問フ此増額ヲ要スルハ何ノ理由アリテ然ルカ又過去ノ稅額ハ若干ニシテ本按ノ如クセハ其稅額幾干ノ見込ナリヤ併テ明了ニ說明アラシトテ乞フ

○一番 股野 今確實ニ辯明スル能ハスト雖モ酒類中最多額ナル清酒ノ一類ヲ舉ルニ十一年度ノ計算ニ由レハ凡三百九

爲メニ其稅額ヲ増スハ理ノ當然ナリ故ニ平均ヲ一石ニ取リシ所以ナリ

○廿二番 大給 第十七條ニ「前條檢査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ云々」トアリ其再ヒ酒類ニ製成スルニモ自カラ區別アリ例ヘハ一類ノ酒氣候ノ不順ニヨリ精製ニ至ル能ハス此ニ於テ火ヲ入レ再製スルハハタトヘ不充分ナルモ亦酒タルヲ得ヘシ此ノ如キハ未製前ニ一回納稅シ更ニ火ヲ入レテ再製ノ體裁ヲ得ハ再ヒ納稅セシムルノ謂カ

○一番 股野 本按第十七條ハ現行規則第五條ヲ以テ直ニ此ニ掲載セシモノナレハ敢テ答辯セズ

○三十番 中島 本官ハ未タ確然増稅ヲ要スル所以ヲ聞ク能ハス抑々課稅ノ事タルトヒ一孔錢ト雖モ之ヲ増セハ人民ノ感觸鮮少ナラス然ルニ單ニ若干額ヲ増スモ敢テ不可ナシト云フ如キ空想說ヲ以テスルハ實ニ寒心ニ堪ヘサルナリ向ニ十一年現行法ヲ議定スルニ當テヤ現任大藏卿等ト共ニ種々之カ不服ヲ唱ヘタレトモ其止ムヲ得サルノ理由アリシヲ以テ又已ムヲ得ス之ニ曲從シテ本院ノ認可スル所トナリシ今此増額ノ理由ヲ問ヘハ請實稅ヲ廢スルニヨリ其補填ニ充ルモノナリト云リ苟モ請實稅ヲ廢シ其補填ノ償タラントセハ

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

十三萬有奇圓ナリ然ルニ本按ノ如クセハ全額内七十萬圓強ノ請實稅ヲ除去シ更ニ壹石ニ壹圓ヲ増スキハ増額大略三百萬圓ニ至ルヘント思惟セラル但是レ單ニ清酒稅ノ豫算ナリ

○卅一番 玉乃 問題ノ部ト未問題ノ部トニ關係スト雖モ止ムヲ得ス牽連シテ質問セント欲ス酒造稅則第一條ニ「凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ云々」トアリ醫藥營業稅則第一條ニ「醫藥ヲ營業スル者ハ云々」トアリ是レ其爲サント欲スルモノト既ニ爲スモノトノ間ニ區別アルモノ、如シ又酒造稅則第三十二條但書ニ「未製成ノ酒類ト雖モ隱蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス」トアリ是レ本條ハ既製ニシテ但書ハ未製ノモノナリ現行稅則ニ於テモ此區別判然セサルヲ以テ說明ヲ司法卿ニ乞フ者少ナカラス本按ノ其區別ハ果シテ如何

○一番 股野 第一問ハ唯字句ノ異ナルノミ第二問ハ現行稅則第三則第七條ニヨルモノナリ

○卅三番 渡邊 第二條一類ハ二圓二類ハ三圓三類ハ四圓ト逐類一圓ヲ増スハ何ノ理ナルヤ其價直ヨリ論到スルハ當然ナルカ如キモ之ヲシテ高價ナラシムルニハ自カラ手數ヲ要スルモノナリ

○一番 股野 其手數ヲ要スルノ報酬ニハ其價直ヲ高クスル

何ソ多額ノ增收ヲ要センヤ惟フニ酒ノ世ニ必需品ニアラサルヲ以テ之ニ重稅ヲ課スルモ不可ナシトノ說ハ古今經濟家ノ固執スル所ト雖モ亦國家危急ノ秋ニアラサルヨリハ漫ニ之ヲ爲スヘキモノニアラス之ヲ要スルニ物價高貴ノ故ヲ以テ増稅スト云ハ、到底其目的ヲ知ル能ハス又國庫困難ノ爲ニ之ヲ増スト云ハ、遂ニ其底止スル所ヲ知ラサルナリ是ヲ以テ今内閣委員辯明ノ如キ僅々ノ理由ニ止マラハ姑ク本按ヲ中止スヘシ

○卅一番 玉乃 本按第十七條ハ現行法ト同一ナルヲ以テ内閣委員ハ質疑ニ答ヘスト辯スレモ現行法第五條ヲ閱スルニ本文但書トモ第十七條ト其意味ヲ反對スルカ如シ既ニ意味反對セハ何ソ其理由ヲ辯セサルノ理アラシヤ

○一番 股野 本按第十六條第十七條ハ即チ現行法ノ第五條ト同シ卅一番ノ云フ所ハ蓋シ改正前ノモノナラン是ニ由テ之ヲ觀レハ其精神毫モ差違ナキニアラスヤ

○廿二番 大給 本官向ニ述ル所ハ一類ヲ一類ニ變製スルモ猶一類ヲ二類ニ變製スルト均ク更ニ收稅スヘシト云フノ意ナリヤト問フニ在リ

○一番 股野 敢テ其類別ヲ問ハサルナリ

○卅一番 玉乃 第十三條ニ「云々其造石稅ハ總石數ヲ以テ之

ヲ納ムヘシ」トアリ第十四條ニ「云々其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ」トアリ抑々兩條ノ意味相異ナル所アリ

○番一 番 股 野 兩條ノ意味自ラ異ナリ何トナレハ第十四條ハ

検査未済ノ酒類ナルヲ以テ其稅額モ亦未定ナリ第十三條ハ之ニ反シ検査未済稅額未定ノ酒類中ニ検査既済稅額既定ノ酒類混和スルモノナルヲ以テ其總石數ニヨラサレハ之ヲ分析スルヲ能ハサレハナリ

○十二 番 補 本 第二十一條ニ質議アリ從來造酒家ハ甲乙花主

ノ依テ受ケテ其釀造ノ額ヲ定ムルヲ慣習ト爲セリ獨リ慣習ナルノミナラス造酒販賣ノ目的ナクシテ唯萬一ノ僥倖ヲ希フカ如キハ抑々良賣ノ爲サ、ル所ナリ今若シ本按ノ如ク依テ釀造ヲ禁スルトキハ從前ノ釀造ヲ減却スルヤ知ルヘキナリ蓋シ本按ノ精神タル其鑑札ヲ受ケサルモノヨリ鑑札ヲ受ケタルモノニ依テシテ釀造シ連稅ヲ圖ラントスルヲ防クニ在ルカ敢テ辯明ヲ乞フ

○番一 番 股 野 然リ之ヲ防クニ在リ

○議長 本按ノ質問ハ既ニ盡タリト認ムルヲ以テ次按ニ移ルヘシ

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時

ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ警廳賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 罰令

第九條 免許鑑札ヲ受ケス警廳ヲ營業スル者ハ科料トシテ

其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシ壹圓ヨ

リ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

○番一 番 股 野 警廳稅ハ當時之ヲ中廢シ現行法ニハ見サル所

ト雖モ明治八年度マテハ已ニ之ヲ徵收セルモノナリ而シテ今此再興ヲ要スルノ理由ハ他ニアラス近年各地方ニ於テ自家飲料ノ濁酒ヲ造ルモノ一年ヨリモ多ク其弊ノ到ル所或ハ自飲ト號シ其釀場ヲ設クル等ノモノアルニ至ル東北地方此弊ヲ見ル最モ甚クシ如フルニ警廳ノ米ヲ廢スルハ却テ酒ニ優ルノミナラス若シ造酒家ノ之ヲ販賣スルヲ廢スルハ消糜隨テ多ヲ加ヘサルヲ得ス故ニ酒稅ト併行シテ以テ其弊ヲ矯メント欲スル所以ナリ

酒造稅則案、警廳營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

布告按

警廳營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨 布告候事

警廳營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 釀造酒類ヲ營業ノ製造受賣スル者ハ其旨管廳ニ願出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

警廳營業稅 一期金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケタルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年 十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求人ノ居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳

○廿六 番 柴 原 第一條營業ノ下脚註ニ「製造受賣ノ別ナク」

トアリ酒類ニ請賣及小賣稅ヲ廢セハ警廳モ亦何ソ之ニ徵ハサル本按ノ如キハ即チ製造家ニ二重稅ヲ課スルト云フモ不可ナキニ似タリ況ヤ大酒造家ニハ必ス受賣ヲ爲スモノナニ於テテヤ蓋シ免許ヲ得スシテ恣ニ營業スル者ヲ防カントスル精神ナルカ其如何ヲ問フ

○番一 番 股 野 既ニ五十圓ノ稅ヲ納メ得テ營業ヲ爲ス者ハ恐

ラクハ多數ヲ見サルヘシ而シテ其受賣人一人ヲ増スハ之ヲ製造家ヨリ見ルトキハ更ニ一株ヲ増モノナレハ敢テ二重稅ノ名ヲ下スヘカラス況ヤ警廳ハ酒類ト異ニシテ其造石稅ヲ課セサルニ於テテヤ

○三十 番 中 島 本按ハ須ク施行ヲ中止スヘシ何トナレハ前按

ノ請賣稅小賣稅ヲ廢スルニヨリ更ニ增稅ヲ爲スハ或ハ理由ナキニアラスト雖モ今委員ノ說ヲ玩味セハ專ラ取締上ヨリ課稅スルモノ、如シ況ヤ既廢ノモノヲ再興スルニ於テテヤ蓋シ警廳ハ人世欠クヘカラサル要品ナリ獨リ要品ナルノミナラス田舎ニハ貧人多く醬油又ハ味噌ヲ造ルニ各家必ス其警廳ヲ自製スル能ハス必ス之ヲ他ヨリ買收スルヲ以テ通例トス然ルニ今請賣小賣及貧富ヲ論セス直ニ五拾圓ノ營業稅ヲ付セントスルハ豈苛酷ト云サルヘケンヤ

○一番 穀野 醬麴ハ味噌醬油製造ノ資トナスモノニアラス即「酒もと」ヲ云ナリ

○卅番 中島 醬麴ノ常麴ト異ナルコトハ聞テ得タリ然レモ本官ハ之ヲ以テ所見ヲ更ムル能ハス到底前按ト同シク不條理ノ課稅ト謂ハサルヘカラス

○議長 本按ノ質疑ハ既ニ盡キタリト認ムルヲ以テ次按ニ移ルヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

自家飲料酒類製造定限布告按

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ一ヶ年壹石 各種製造スルトキニ超ヘカラス若シ壹石ヲ超ルトキハ總テ酒造營業者ヲ以テ論スヘシ此旨布告候事

但管轄廳ヨリ臨時官員ヲ派出シ造酒ノ數料〔量〕ヲ検査セシムルコトアルヘシ

○十五番 安場 本按ハ廢棄スヘシ何トナレハ酒ノ人ニ害アルハ品行上ヨリ之ヲ論スルモ經濟上ヨリ之ヲ云モ到底其弊ヤ免ルヘカラサルモノナリト雖モ亦概論スヘカラサルモノアリ況ヤ天下ノ物一得一失ナキ能ハサルニ於テテヤ試ニ見ヨ農人工夫ノ事ニ服スルヤ晚酌ニ一飲シテ終日ノ疲勞ヲ慰

ケンヤ

○一番 穀野 十五番廿六番ハ本按ハ專ラ人心ニ感觸スル所外

其タシク而シテ實ニ行ハルヘカラサル者トナシ之ヲ廢棄セント云フト雖モ近來自家飲料ト唱フル者年一年ヨリ多キヲ加ヘ検査官ノ調査ニヨルニ今ヤ既ニ有稅百幾百萬無稅百幾萬石ニシテ其差僅々タルニ至ル故ニ若シ酒類稅則ヲ布告セハ幾分力稅額ノ増加スルニ從ヒ自飲ノ利益々増加スルハ言ヲ待タズ特リ是ノミナラス自料ニ定限ヲ立サルハ彼ハ

甲某ノ分此ハ乙某ノ分ト唱ヘ現今ノ如キ連稅ノ害ヲ滋蔓スルヤ必セリ蓋官府ハ連稅ヲシテ易カラシメ以テ之ニ罰金ヲ課スルノ目的ヲ爲スモノニアラサルナリ又或論者ハ酒ノ勞動ヲ慰スルノ功ヲ擧クルト雖モ惟フニ其益タル彼ノ害ニハ相償フモノニアラサルヘシ且其實地検査ノコトヲ論スルモ既ニ醬麴營業者ニ成規アル以上ハ其帳簿ニ誰某ニ若干ヲ賣渡スト明記スルヲ以テ兩方ヲ對照セハ掩フ可ラサルモノナリ故ニ必ス毎戸ニ臨ミ之ヲ調査スルヲ用ヒス況ヤ濁酒ハ一回ノ釀造其限リアルモノナルニ於テテヤ

○卅三番 渡邊 內閣委員ハ自飲酒釀造ノ定限ヲ立シハ蓋シ營業者ノ詐僞ヲ防クニ在リト云フニ似タリ然レニ寒鄉僻地ニ至リテモ豪農ノ類ハ素ヨリ一石ノ酒ヲ造テ自飲ニ足レリト

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

シ且之ヲ樂ンテ一日ノ勞役ニ從フ此ノ如キハ其益スル所實ニ鮮少ナラス單ニ理論ノ一偏ヨリ取縮法ヲ講スルカ如キハ無用ヲ制セントシテ却テ有益ヲ害シ其結果スル所遂ニ得失相償ハサルニ至ラン本按ノ如キ乃チ然リ宜シク廢棄スヘシ

○廿六番 柴原 本官モ亦之ヲ廢棄セントス現行法ニ營業者ニシテ自家飲料ヲ禁スルハ自ラ理由ノ存スル者アリ本按ハ直ニ其非營業者ニ向テ一石以上ノ造酒ヲ禁セントスルハタトヘ取締上ヨリ之ヲ看ルモ實際決テ行フヘカラサルコトナリ況ヤ濁酒ハ隨地毎戸之ヲ造ルモノナリ回顧スレハ煙草稅則ヲ發センニ方リ人民頻リニ驚々センモ猶地租ノ減却センコトヲランヲ頼ミ稍ク之ニ曲從セシメ以テ今日ニ至ルマテ納稅ノコトニ支障ナキハ各地方官ニ於テモ八方說諭ヲ煩ハセシ所ナリ煙草稅則ニシテ猶且此ノ如シ矧ヤ本按ノ如キハ人民ハ忽チ凡百ノ事物悉皆稅ナラサルハナント云ノ感ヲ起サンコト鏡ニ掛テ見ルカ如シ蓋シ酒造稅則ノ如キモ素是本官ノ好マサル所ト雖モ他ハ驕奢ニ屬スルモノナルヲ以テ暫ク之ヲ恕スルモ本按ニ至テハ決シテ默々ニ付スヘカラス若シ自家飲料造酒ヲ以テ類推セハ或ハ自喫ノ煙草モ亦課稅スルモ可ナラシカ此ノ如ク課稅ニ汲々タルハ豈夫レ人民ノ安堵ヲ得ヘ

スルカ如キモノニアラス之ヲ要スルニ一石ト定限ヲ立ツルハ果シテ其據ル所アリテ然ルヤ

○一番 穀野 敢テ據ル所アリテ然ルニハ非スト雖モ當該官ノ具申ト內閣ノ忖度トニ由テ成レルモノナリ從來一村ノ共造場等アリテ甚シキニ至テハ有稅ト無稅ト其額均フスル等ノ弊アリ今本按ヲ布告スルハタトヒ若干人團結シテ共造スルモ其額一石ニ越ヘサレハ敢テ妨ケナカラシ

○十五番 安場 內閣委員ハ無稅ノ額ヲ擧ケテ補稅ノ弊アリト論スルハ恐ラクハ是検査方ノ精密ナラサルニ因ルナラン夫レ法律ノ疎密ハ人心ニ從フモノナリ人心若シ黠猾ニ赴キ巧ニ法ヲ連レントセハ法亦從テ密ナラサルヘカラス然ルニ今一害アルヲ口實トシテ直ニ其得ヲ抹却セントスルハ豈不當ノ甚シキモノナラスヤ又一石ノ定限ハ忖度ニ成ルト云フモ大抵邊鄙ノ實況ヲ看ルニ一村中必ス二三ノ豪家アリテ其餘ハ水飲百姓ノ類多ク故ニ彼等ヲシテ小作セシメ又ハ之ヲ雇役シ其自家飲料ヲ釀造シテ此等ニ飲マシムルコト全國中十中八九ハ皆然リ而シテ本按ノ如クハ其二三ノ豪家モ亦終ニ之ヲ飲マシムル能ハサルニ至ラン況ヤ又米一石ニ酒一石ヲ得ルモノトセハ之ヲ一年三百六十五日ニ分割スルハ僅僅喉ヲ沾ホスニモ足ラサルニ於テテヤ

○廿四番 美藤 本日ノ議按第百九十九號ハ三布告按ヲ一括スルモノナリヤ果シテ然ラハ自家飲料ノ布告按ヲ廢スルト云モ單ニ一部ノ修正ニ止マルモノ、如シ

○議長 然リ第百九十九號ハ三布告按ヲ一括スル者ナリ故ニ第一讀會ノ規則ニヨリ發議アリテ可ナリ

○廿四番 福羽 自家飲料ノ定限ヲ立ルハ人心ニ感觸スル少ナカラサルヲ以テ本官ハ之ヲ否トス

○一番 殿野 十五番ハ前論ヲ廢テ逋稅ノ一ハ檢査法ノ密ナラサルニ因レリ今一弊アリト云テ直ニ此布告ヲ發スルハ不可ナリト云ト雖モ論者ハ既ニ前兩案ニハ同意シテ獨リ

本按ニノミ不同意ヲ表スルハ怪々ノ說ト云サルヘカラス蓋シ本按ハ當該官ノ實際ニ就テ之ヲ調査シ内閣ニ於テモ反復熟慮終ニ中庸ヲ斟酌シテ成立セシモノナリ今若シ本按ヲ施行セシハ特リ弊害滋蔓スルノミナラス前兩案モ亦全ク徒法ニ屬セシムルモノトス之ヲ要スルニ三按相率ヒテ以テ用ヲ爲スモノナレハ到底中止スヘカラサルモノナリ且逋稅ハ檢査ノ周到ナラサルニ由ルト云フモ之ヲ實際ニ徵スルニ本按ヲ舍テ他ニ道ナキモノトス

○卅三番 渡邊 本按ヲ廢スルノ說ハ一應理アルニ似タリト雖モ終ニ前二按ヲ施行スルニ至ラハ單ニ本按ノミ之ヲ廢スト

キハタトヒ前兩按可決スルモ恰モ鳥ノ翼ヲ斷カ如ク忽チ活動力ヲ失シテ終ニ徒法トナラン内閣委員モ已ニ辯明セシ如ク若シ此按ヲ中止セハ或ハ一郡内ニ共釀場ヲ設ケ賣買人皆共有ナリト云ハ、實ニ一錢ノ稅ヲモ收メスシテ可ナラン町村區郡此流弊ヲ逐ヒ以テ其惡ヲ滋蔓セハ酒類ハ皆無稅ニ歸スルモ知ルヘカラス此ノ如キハ豈徒法ト謂ハサルヲ得ンヤ故ニ本官ハ敢テ其文章ノ如何ヲ問ハヌ本按大意ニ就テ論ルハ可ニシテ不可ナシ是ニシテ非ナラスト爲ス

○議長 質疑既ニ盡キタリト認ムルヲ以テ第一讀會ハ此ニ了ル散會セヨ

午前第十一時五十分閉場

云フヘカラス然レモ一石ヲ以テ定限ト爲スハ本官モ亦見ル所アリ第二讀會ヲ俟テ之ヲ詳論セントス

○廿六番 柴原 前兩按ヲ置テ單ニ本按ヲ廢スルハ不可ナリト論スルモ本按ハ敢テ前案ト牽連スル者ニアラス但酒造稅則第十二條ニ至テハ第二讀會ヲ俟テ更ニ論スル所アラントス然ルニ内閣委員ハ或地方ニ於テハ有稅無稅ノ釀額平均セリトノ說アリ實ニ是未會聞ノコニシテ蓋シ亦隱蔽ノ致ス所ナラン果シテ然ラハ其檢査方ヲシテ緻密周到ナラシメハ可ナリ何ソ必スシモ本按ヲ施行シテ人民ノ怨尤ヲ買ハントスルヲ須ヒンヤ

○十二番 楠本 單ニ取縮上ヨリ看レハ本按以テ未タ功ヲ奏スルニ足ラスト雖モ本官別ニ所見アリ故ニ敢テ廢案ノ說ヲ爲サス蓋シ本官會テ職ヲ北越ニ奉シ能ク其自釀ノ狀況ヲ知レリ即チ之ヲ造ルニ一年三回或ハ四回ニ至リ其石數ハ一回四石ニ上ルモノアリ之ヲ全國ノ狀況ニ就テ論スルハ風俗ト寒暄ト自ラ異同アルヘシト雖モ北越ノ如キハ農家ハ酒以テ衣ニ代ヘ嚴寒大雪ヲ防クノ慣習タリ若シ今本按ノ如ク定限ヲ立ルキハ或ハ寒風ニ衣ヲ剝カル、ノ思ヒヲ爲サン其如何ハ第二讀會ヲ俟テ大ニ論セントス故ニ今贅セス

○八番 山口 廢按ノ論旨ハ到底歸着スル所ヲ知ラス抑本按ナ

○第百九十九號議按 酒造稅則布告案、釀造營業稅則布告案、自家飲料酒類製造定限布告案、

第二讀會

議長 佐々木高行 代理

出席議員

- 三番 神田孝平
- 五番 東久世通禧
- 八番 山口尙芳
- 九番 黒田清綱
- 十番 箕作麟祥
- 十二番 楠本正隆
- 十三番 福岡孝弟
- 十四番 河田景興
- 十五番 安場保和
- 十六番 細川潤次郎
- 十九番 岩村通俊
- 廿一番 鶴田皓
- 廿六番 柴原和

廿八番 大久保 一翁
 三十番 中島 信行
 卅一番 王乃 世履
 卅二番 林 友幸
 卅三番 渡邊 昇
 卅四番 河瀬 眞孝

午前第九時三十五分開場

内閣委員一番外 大藏權大書記官 田 秋 成

○議長 本日ハ議長欠席ニ因リ本官代理ヲ爲シ第百九十九號議案第二讀會ヲ開ク各位例ニ遵ヒ發議スヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

布告 按

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

○三十番 中島 信行 本官ハ第一讀會ニ方リ本按ノ不可ナル理由ヲ陳述シ以來反覆熟慮セシニ益々前說ノ動ス可ラサルヲ悟ルヲ以テ今將ニ廢按說ヲ提出セントス抑々第一讀會ニ於テ内閣委員ノ辯說ニ云ク本按成立ノ理由ハ一ハ小賣稅受賣稅ヲ廢スルニ在リ二ハ取締上ノ便宜ヲ圖ルニ在リト而シテ其増

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

○廿六番 柴原 和 第一讀會ニ於テ内閣委員ノ答辯明晰ナラサル者アルヲ以テ更ニ之ヲ問ハン即チ第十五條但書ニ第十一條ノ文字アリ又第三十條ニ第一條ノ文字アリ本官ヲ以テ之ヲ見ルニ兩條共ニ其關係ヲ示シテ其實ナキカ如シ知ラス果シテ何ノ關係アルヤ

○番一 番 戸田 秋成 第十五條ノ第十一條ハ「第十條」又第三十條ノ第一條ハ「第廿九條」ノ誤刷ナリ請フ之ヲ了セヨ

○廿六番 柴原 和 了解セリ更ニ又第一讀會ニ質疑ノ足ラサル所アリシヲ以テ今本條ヲ議スルニ方リ全篇ノ大意ヲ問ハサルヲ得サル者アリ故ニ之ヲ質疑ヲ許可アラシメテ請フ

○議長 廿六番ノ請求ハ第二讀會ニ於テハ規則外ノ事ナルヲ以テ決テ衆議ニ取ルヘシ廿六番ノ請求ヲ許スヘントスル者ハ起立セヨ

起立者五人
 ○議長 少數ナルヲ以テ廿六番ノ請求ハ消滅ス

酒造稅則案、釀造營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

稅ノ理由ヲ問ヘハ云ク小賣受賣稅ヲ廢スルニ由リ其欠ヲ補フ爲メナリト是何ノ其理由ノ淺薄鮮微ナルヤ蓋シ本邦今日ノ形勢ヲ觀ルニ人心大ニ不穩ノ色アリ而シテ其未タ勃動セサル者ハ獨リ聚斂ノ政アラサルニ由ルナリ此時ニ方リ苟モ本按ヲ施行セハ其激動ヲ促スニ至ルヤ開議ヲ答レサルヘシ回顧スルニ前年現行酒類稅則ヲ議定スルノ際本官ハ一石一圓ヲ課スルハ過多ナルノ理由ヲ痛論セント雖モ當時實ニ止ムヲ得サルノ情實アリテ遂ニ本院ノ可決スル所トナリシ蓋シ其止ムヲ得サルモノハ即英國ヨリ購入セシ三軍艦ト砲兵本廠ノ經費トヲ支辨スルカ爲メナリ然ルニ此事ニ對シ本官等ハ曰ク豫算外ニ費目ノ湧出スルハ孰ソ豫算ト謂フヲ得ヘケンヤ若シ此ノ如クシテ已マヌンハ到底理財ノ目的ヲ達スル能ハサラント言猶耳ニ存シテ忘レス惟フニ前年既ニ然リ今日豈其法ヲ確立セスシテ可ナランヤ況ヤ本按増稅ノ理由タル輕薄鮮微ノモノナルニ於テヤ是廢按セサルヘカラサル理由ノ大略ナリ

○議長 三十番ノ動議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅シ即本按ヲ可ト決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

○十六番 潤次郎 本條「一箇所毎ニ」ノ文字ハ病ナキ能ハス前會ニ於テ内閣委員ノ解釋ヲ聞クニ一箇所ハ一構内ノ義ナリト其然ラン然レモ若シ解ヲ下シテ縱ヒ同構内ト雖モ苟モ箇所トアルトハ此房ハ一類ヲ造リ彼房ハ二類ヲ造ランニ

素是其箇所ヲ異ニスルヲ以テ二箇ノ鑑札ヲ要スヘシト爲スモ未タ知ル可カラス果シテ然ラハ寧ろ酷ナラスヤ況ヤ一箇所ノ文字ヲ一構内ト解スルモノハアルヘカラサルヲヤ因テ此文字ヲ削ラントス論者或ハ言フ果シテ「酒造場一箇所」ノ字ヲ削ラハ一人ニシテ數多ノ場所ヲ有スルノ弊ヲ防ク能ハサラント是レ憂フルニ足ラサルナリ抑モ營業免許鑑札ハ人ニ附屬スル者ナルカ將タ場所ニ屬スル者ナルカ苟モ營業ノ字面ヨリ之ヲ見レハ其貧富ヲ問ハス人ニ屬スルコトハ辯ヲ俟タスシテ明カナリ若シ夫レ場所ニ屬ストセハ營業鑑札ニアラスシテ之ヲ場所鑑札ト謂ハサルヲ得ス且造稅稅ニ累加法アルヲ以テ本官ハ更ニ營業鑑札稅ハ十圓ト爲スモ猶可ナリト信ス何ソ場所毎ニ收稅スルヲ好マンヤ故ニ本條ノ修正ニ牽連シテ第三條ノ「酒造場一箇所ニ付」ノ一項モ合セテ削除スルヲ可トス

○廿六番 柴原 和 贊成ス第一讀會ニ陳セシ如ク田舎ニテハ便宜ニヨリ東隣ニ酒ヲ製シ西隣ニ燒酎ヲ釀シ南隣ニハ又味淋ヲ

造ル等ノ風習アリ若シ一箇所毎ニ三十圓トナサハ是即チ九十圓ヲ納メサルヲ得ス假令場所ヲ殊ニスルトモ既ニ造石稅ノ累加法アレハ豈場所毎ニ鑑札稅ヲ要センヤ之ヲ要スルハ乃チ酷ナリトス

○議長 十六番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○一番 戸田 修正説ノ起ルヤ思フニ本條ノ精神ヲ疑フニ在ルカ如シ蓋シ酒造場一箇所トハ即チ何町何番地ノ謂ニシテ

敢テ其房壁ヲ隔ツル等ヲ以テ各個之ヲ課稅スト云ニアラス故ニ若シ原按ノ誤解ナキヲ保タストセハ其精神ニ由リ文字ヲ修正セハ可ナリ全ク一個所ノ文字ヲ削ルニ於テハ例ヘハ本所ニ一ヶ處深川及ヒ赤坂ニ一ヶ所ヲ置クモノアルモ知ルヘカラス又親ノ名義ヲ假リテ子弟其營業ヲ爲シ通稅ヲ謀ルモ期シ難シ故ニ其文字ノ如何ニ關セス必ス一個所毎ノ精神ハ存セサル可ラス且又現行法ハ營業稅十圓ナルニ一躍シテ二十圓ヲ増加スルハ不可ナリトノ論アレハ是大ニ然ラサルモノアリ何トナレハ現行法ノ十圓ハ一種類十圓ナルヲ以テ若シ六種類ヲ製造セントセハ遂ニ六十圓ヲ出サ、ルヘカサルニ至ラン是ニ由テ之ヲ觀レハ一躍二十圓ヲ増加スト云フハ恐クハ速了ノ斷ト謂ハサルヘカラス修正ハ不可ナリ

○十六番 細川 内閣委員ノ陳述スル所ハ一理ナキニアラス

不可ナリ

○十二番 楠本 免許鑑札ヲ受クルハ營業ノ爲メナリ本條ヲ分解スルハ凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨

管廳ニ願出ヘシ但酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシトノ意味ナリ蓋シ本按ハ稅ヲ増スト取扱フ便ニスルトヲ本トスルモノナレハ既ニ造石稅アレハ敢テ免許鑑札ヲ簡所ニ與フルヲ要セストス十六番ノ説ハ是ナリ

○卅一番 玉乃 本官ハ八番ニ同意ス茲ニ酒造稅則改正ノ主義

ハ何クニ在ルヤヲ討究シ其主義果シテ増額ニ在リトセハ三十圓ノ稅額ハ何ニ據テ之カ制限ヲ立シヤヲ疑難センニ恐クハ明確ナル答ヲ爲ス能ハサラン更ニ箇所ニ就テ論センニ反對論者若シ之ヲ以テ酷ナリトセハ何ソ營業稅ヲ増徴スルヲ爲シヤ寧ロ一錢タモ之ヲ徴セサルニ如カス且又免許鑑札ハ人ニ與フルトスルハ一鑑札ニテ數多人ノ營業ヲ爲スノ弊アリ此弊ヲ防クニハ箇所ニ與フルノ外ナキナリ何トナレハ一人ニテ三場ヲ營業スルニ三鑑札ヲ要スルハ太タ不幸ニ似タリト雖モ一人一鑑札ヲ有シテ許多ノ場所ヲ專有スルト比較セハ増稅ノ本則ニ依リ箇所ニ課スルヲ以テ是ナリトス更ニ一步ヲ進メテ其酷ナラサルノ例ヲ舉シニ茲ニ船二隻ヲ有スル者モ車二輛ヲ有スル者モ共ニ一隻一輛ノ稅ヲ收メテ可

酒造稅則案、釀造營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

ト雖モ元來場所ニ課スルハ其本質ヲ失フ者ナリ現行法ノ一種類毎ニ課稅スルモ亦誤レリ蓋シ免許札ヲ人ニ與フルハ本按第三條ニモアルカ如ク安穩ニ營業セシムル爲メノ証左ナリ然ルヲ若シ箇所々々ニ課スルトセハ例ヘハ一區地ニ造酒場ヲ設ケンニ免許稅三十圓造石稅ヲ其種類ニ徵シテテ猶固有ノ地租地方稅ヲ徵ス是レ特リ重稅ナルノミナラス其精神亦奇恠ナラスヤ内閣委員ハ現行法ノ六種ニシテ六種ノ免許稅ヲ徵スルニ比スレハ箇所ノ徵收ハ却テ寬ナルカ如シト云フト雖モ若シ之ヲ箇所ニ課セハ豈現行法ノ種類ニ課スルモノト差アラシヤ故ニ鑑札ヲ人ニ與フルハ假令一人ニシテ全國中ニ酒造場ヲ置クトモ是營業鑑札ノ主義ニヨルモノニシテ毫モ妨ケアルコトナシ蓋シ是立法ノ主意ナレハナリ

○八番 山口 本官ハ酒造場一ヶ所毎ニトアルヲ以テ本按ノ主

眼トス夫レ人ニ與ヘテ地ニ與ヘサルハ營業ノ免許ナリト云フト雖モ若シ箇所ニ與ヘスシテ人ニ與フルトセハ其人ハ全國ヲ通シテ營業スルモ僅々三十圓ヲ上納セハ可ナランカ天下豈此ノ如キノ理アラシヤ第廿六條ニハ「酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ」トアリ是當務官ノ之ヲ審査シテ其許否ヲ爲スノ精神タルヤ疑ヲ容レサル所ニシテ人ヲ主トセサルヲ悟ルニ足ラン故ニ十六番ノ修正ハ

ナリト云ヘハ必ス二隻二輛ノ稅ヲ收メサル可ラス是ヲ以テ今箇所毎ニ之ヲ徵スルモ理ノ當ニ然ルヘキ處ナリ

○議長 十六番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ十六番ノ修正ハ消滅シ即チ原按ニ決ス次條ニ移ルヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒 燒酎其他蒸溜シタルモノヲ云フ

三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

○十五番 安場 本條ヲ修正セン乃チ酒類ヲ分テ左ノ四類トシ

「一類清酒一類濁酒」トシ更ニ二類ヲ加ヘントス蓋シ本案ノ成ルヤ專ラ官民ノ煩雜ヲ省クニ在リテ其主義ハ稍々美ナリト雖モ亦苛酷タルヲ免レサルモノアリ何ヲ以テカ苛酷ト云フ清濁酒ノ別ナキ是ナリ原來本官ハ苛稅ノ一點ニ在テハ其意殆ト廢案論ニ左袒セルモ遂ニ其然ラサルモノハ夫ノ請賣稅小賣稅ノ煩雜ヲ省クト財政ノ困難ナルトニ反省スル所アレハナリ故ニ前説ノ如ク修正シテ寬苛其宜シキヲ得セシメ

ントス

○三番 神田 贊成

○議長 十五番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○一番 秋成 本官ニ清濁酒稅ヲ混同セシハ其理由アリテ然ルナリ蓋シ現行法ニ清酒稅ハ一石一圓濁酒稅ハ同ク三十錢トシ其輕重太シキヨリ濁酒釀造ノ額ハ年々多キヲ加ヘ清酒ノ額ハ從テ寡キヲ致シ爲メニ稅額ニ影響ヲ及ス少カラス加之元來清濁酒トモ其未タ搾取セサル間ハ共ニ混濁ナルニ由リ之ヲ檢査ヲ爲スニ臨ミ往々清酒ヲ詐稱シテ濁酒トシ以テ通稅ノ奸ヲ逞フスル者アリ此ノ如キハ決シテ寬假スヘキ者ニアラス惟フニ三十錢ノ稅額ヲ一躍二圓ニ上ルトセハ稍酷ニ似タレモ清酒中ニモ亦上中下ノ價格アリ即チ下ハ八九錢ニ止マルモ上ハ三十錢ニ上ル者アリ濁酒ト雖モ其上ナル者ハ夫ノ清酒ノ下ナルモノニ優ルアリ此ニ由テ彼ヲ推セハ今ニ酒稅ヲ同ウスルモ敢テ其不公平ト稱スルヲ得サルナリ仍テ分別スルハ不可ナリトス

○廿六番 榮原 酒類ヲ分テ四類トシ一類清酒二類濁酒トナサハ原按ノ脚註ハ之ヲ削ルノ意ナルカ又第三條ニ至リ類ニ從ヒ造石稅ノ増減アリ是亦如何ソヤ

○十五番 安場 脚註ハ固ヨリ之ヲ削ラントス第一讀會ニ方リ

故ハ濁酒ハ多ク自家飲料ニ關係スルヲ以テ賣買上其區別ナキモ大ナル不可ナカランカ蓋シ檢査上下販賣上下其詐偽ノ弊アルヲ防カントスルニハ寧ロ區別ナキノ優ルニ如カス

○十五番 安場 卅三番ハ濁酒ハ自釀ニ多ク販賣ニ少シト云ヒ且營業者ノ連稅ヲ防クニハ二酒ノ區別ヲ立テサルヲ可トス

ト論スト雖モ其連稅ヲ憂フルカ爲メニ強テ異類ヲ同類ニ結合スルハ亦不可ナラスヤ假令二三ノ連稅アラシムルモ醬麴販賣ノ多寡ヲ查照セハ是自カラ掩フ可ラサラン聞ク奥羽兩州ノ民ノ如キハ縱ヒ自釀セサルモ廉價ノ酒ニ供給ヲ仰クモノ多シト此ノ如キハ晉ニ奧羽ノ民ノミナランヤ都會ト雖モ下等人民ニ至テハ皆然ラサルハナシ故ニ其價ヲ廉ナラシメント欲セハ固ヨリ二類ノ差等ヲ立テサル可ラス

○十番 繁作 本官ハ十五番ト修正ノ精神ヲ同ウシテ其文字ヲ異ニス本官ハ乃チ一類濁酒二類清酒ト爲サント欲ス蓋シ小ヨリ大ニ及ヒ寡ヨリ多ニ及フハ物ノ順序ナレハナリ

○廿六番 榮原 若シ十五番ノ說消滅セハ本官ハ一類清酒二類濁酒三類燒酎ノ修正說ヲ提出シ而シテ第三條ニ至ラハ二類ノ造石稅ヲ五十錢ト修正セント欲ス惟フニ此ノ如クナラサレハ稅則ノ權衡ヲ得サルヘシ内閣委員ハ切ニ密賣ノ事ヲ説クト雖モ蓋シ何ノ道ヲ以テスルモ密賣ハ到底防ク可ラサル

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

一類ノ脚註ナル其他トハ何ヲ指スカト質問セシニ一々指名ノ煩ヲ厭フニ在リト云ヘリ今ヤ更ニ陳シテ云ク檢査ニ臨ミ清ヲ濁ト詐稱スル等ノ弊アリト本官以爲ク清酒ヲ搾取スルハ敢テ一日一夜ニ爲シ得ヘキモノニアラスト然レモ若シ脚註ヲ削リテ清濁ノ區域ヲ判然スル能ハストセハ澄ミテ色ナキ者ヲ清トシ濁リテ色アル者ヲ濁トセハ可ナラン我邦往年釀酒ノ景況ヲ觀ルニ清濁其品ヲ異ニスルハ論ヲ俟タス濁酒ハ多ク農人ノ需用ニ供スル者ニシテ其勞働ヲ慰スルノ功鮮

少ナラス故ニ幕政以來濁酒ヲ以テ無稅トセリ降テ維新ノ後ニ至リ濁酒ハ府縣稅ニ入ル、モ可ナリトセシハ善ク人情世態ヲ斟酌セシモノト云フヘシ夫ノ濁酒ノ年月ニ増加スルカ如キハ決シテ憂フルニ足ラス其清ヲシテ濁ト詐稱セシムルハ乃チ檢査ノ精密ヲ欠クニ由レハナリ要スルニ精密ノ論ヲ以テ之ヲ請求セハ終ニ濁酒ハ禁斷セサル可ラサルニ至ラン故ニ分別スルヲ要スルノミ第三條ノ場合ハ同條ニ至リテ所見ヲ陳ヘントス

○廿六番 榮原 一類二類ニ脚註ヲ要セサルヲハ聞クヲ得タリ然ラハ三類四類ハ原按ノ二類三類ヲ襲用スル乎

○十五番 安場 然リ

○卅三番 渡邊 本官ハ清濁ノ區別ナキモ敢テ妨ケナシトス其

ノミ

○十五番 安場 本官ハ敢テ自家ノ說ヲ固執スルニアラス各位

若シ其精神ニ差異ナクシハ文字ノ如何ハ之ヲ問ハサルナリ

○一番 秋成 第一讀會ニ方リ説明ノ遺漏ヲ補ヒ以テ各位ノ

參考ニ供セントス抑々一類中ノ「其他」ハ麥酒及葡萄酒等ヲ含ミ二類中ノ其他ハ泡盛等ノ如ク凡テ其實ノ厚薄ニヨリテ其名ノ異ナルモノヲ含ム而シテ三類中ニハなをし本なをし等アリ即チ本なをしナル者ハ味淋ノ淡薄ナル者ニシテ檢査ノ際動モスレハ其名ヲ詐稱シテ連稅スルノ弊アルヲ以テ其詳解ヲ下セシナリ或議官ハ清酒ヲシテ濁酒ノ看ヲナサシメ檢査ヲ受クル後其故ニ復スルヲ復タ容易ニアラスト論スレモ營業者ノ之ヲ爲スハ敢テ難事ニアラス若シ之ヲシテ僅僅ノ斗量ナラシメハ其詐欺ヲ檢出スルハ却テ易カルヘキモ斗量多數ニ上ル者ハ直ニ舟漕車送シテ遠ク地方ニ移スヲ得ヘシ之ヲ要スルニ檢査ノ法ヲ得シハ僅ニ二年間ニシテ尙續續犯者ヲ現出スルニ至レリ抑々本按ノ成ルヤ其區分ヲ明ラカニシ以テ刑措ヲ用ヒサラントスルニ在ルナリ豈増稅ノミ之望マンヤ

○議長 十五番ノ修正ヲ可トスルモノハ起立セヨ 起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ十五番ノ修正説ハ消滅ス
 ○十番 實作 前ニ豫言セシ如ク「一類濁酒二類清酒」ト修正シ而シテ原按「二類」ヲ「三類」トシ同ク「三類」ヲ「四類」ト爲サント欲ス

○三番 神田 贊成

○議長 十番ノ修正賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ十番ノ修正ヲ可トスルモノハ起立セ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ十番ノ修正ハ消滅ス

○廿六番 柴原 内閣委員ハ一類中ノ其他ハ麥酒等ヲ含ムト辯

解セリ然ハ則チ西洋酒ノ如キハ盡ク之ヲ含ムトスルカ明治十一年第廿八號布告酒類稅則第一則第二條ニハ清酒濁酒白酒味淋燒酎銘酒ト一々明了ニ揭示セリ本按ニハ所謂其他ト云フノミ敢テ起草ノ趣旨ヲ問フ

○番一 番 戸田 然リ之ヲ含メリ

○廿六番 柴原 本官モ豫メ陳述セシ如ク「一類清酒二類濁酒三類燒酎」トシ原按「三類」ヲ「四類」ト爲ントス蓋シ

清濁酒ノ混同ス可ラサル理由ハ第一讀會以來本官等ノ屢々痛論スル所ト雖モ其他云々ノ中ニハ麥酒等ヲモ含ムノ精神

有セサルモノナリ

○卅一番 玉乃 甘酒モ亦「アルコール」性アルハ化學上動ス

可ラサルノ實跡アリ

○番一 番 戸田 果シテ然ラハ修正シテ甘酒ハ此限ニ非スト云

フカ如キハ議者ノ隨意ニ任センノミ

○議長 廿六番ノ修正ハ賛成者ナキヲ以テ消滅シ即原按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付 金貳圓

二類壹石ニ付 金三圓

三類壹石ニ付 金四圓

○三十番 中島 本官ノ廢按説ハ不幸ニシテ消滅セシニヨリ薄カ酷ヲ變シテ寬ト爲スノ修正ヲ爲シ本條ノ稅金ヲ「酒造場一箇所三十圓及一類一圓二類二圓三類三圓」ニ作ラントス此ノ如クセハ清濁差等ノ主旨ニモ背カス又人民ノ感覺モ之

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

ナリト爲サハ最モ修正セサル可ラサルナリ惟フニ方今麥酒葡萄酒等ノ製造品ニ課稅セサルハ外國輸入ヲ防クノ意ニ基クモノナランカ然レモ只其他ト云ノ二字中ニ麥酒等モ悉ク含有スヘシトノ見解ヲ下スモノ決テ之ナキヲ信スルナリ

○卅三番 渡邊 廿六番修正ノ主意ハ麥酒等ニ課稅スルハ工業勸誘ノ道ニ違フトスルニ在リヤ又單ニ清濁酒ノ等差ヲ立ルニアリヤ

○廿六番 柴原 要スルニ清濁酒ノ區別ヲ立ルニ在リ

○卅一番 玉乃 本官ハ茲ニ内閣委員ニ質疑セサレハ修正ノ是非ヲ決スル能ハサルモノアリ前會ニ於テ内閣委員ハ一類中

ノ其他ハ中酌等ナリト辯シ今又釀造セシ者ハ都テ之ヲ含ムト云ヒ殆ト前説ト支離スルモノ、如シ此ノ如キハ縱ヒ其明文ナキモ其制限ハ必ス之レナカルヘカラサルモノニ似タリ敢テ問フ甘酒ノ如キハ如何

○番一 番 戸田 甘酒ハ之ヲ含マス

○卅一番 玉乃 甘酒モ亦釀造物ナリ然ルヲ之ヲ含マスト云ハ

ハ「其他」ノ二字ヲ解スルニ意味茫トシテ人智ノ能ク及フ能ハサル所トナラン

○番一 番 戸田 釀造ノ字句ニ拘泥シ甘酒ニ酒名アルヲ舉テ「其他」ノ意味ヲ論スト雖モ甘酒ハ蓋シ「アルコール」質ヲ

ヲ寬フスルヲ得ヘシ

○三番 神田 贊成ス一躍加倍ノ酷ナルハ三十番ノ言ノ如シ抑

抑本按ハ増稅ヲ欲シテ却テ減稅ノ基ヲ開ク者ナリトス何トナレハ米價貴トク稅額高キキハ自ラ自釀倍加シテ之カ爲メニ營業家ノ減少スルヲ以テナリ又眼ヲ轉シテ自釀ノ景況ヲ觀レハ貴重ノ時間ト資本トヲ消費スルモ猶且之ヲ倍加スルニ至ルハ蓋シ稅額ノ苛酷ニ應シテ酒類自カラ其價ヲ増スニ

ヨリテナリ然ハ則チ其貴重ノ時間ト資本トヲ有害無益ノ製造ニ消費セシムルハ本按之カ媒介ヲ爲スニ非ラスシテ何ソヤ不經濟ノ甚シキモノト謂フヘシ

○議長 三十番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス然ルニ時正午ナルヲ以テ一旦散會セヨ

正午閉場

午後第一時開場

病氣

九番

黑田 清綱

○番一 番 戸田 午前問題トナリシ三十番ノ修正ハ實ニ驚愕ス

ヘシ夫レ現行法ノ營業稅十圓ハ一種十圓ナルヲ以テ若シ六

種ヲ營業スルキハ即チ六十圓トナルコトハ本員已ニ辯セシカ如シ又受賣小賣稅ノ額ヲ十一年度ニ徵スルニ七十四萬七千四百一十一圓アリ十二年度ハ未タ其明細ナルヲ知ル能ハスト

雖モ想フニ檢査ノ密ナルニ依リ百萬圓ニ下ラサルヘキニ本
按ハ全ク之ヲ廢スルモノナリ然ルニ三十番ノ修正ニ依レハ
實地ニ一種ヲ製造スル者ナキヲ以テ之ヲ三十圓トスルモ營
業稅ハ其實現行法ヨリ減シ尙遺右稅ニ之ヲ減スルヲ以テ細
カニ其收支ヲ計算スルキハ歲入ヲ増サントスル改正ノ爲メ
ニ却テ之ヲ減スルニ至ラン抑々本按ハ素ト減稅ノ爲メニス
ルモノニアラス歲入ヲ補フカ爲メナリ故ニ修正ノ如クセン
ヨリハ寧ロ此案全体ヲ廢棄スルニ如カス該養成者ハ云ク稅
額ヲ増スハ即チ歲入ヲ減スルノ基ナリト其然リ苟モ一部ノ
經濟書ヲ讀ム者ハ豈之ヲ知ラサランヤ然レモ此ノ事タルヤ
亦時ト所トヲ察セサルヘカラス當初一石ニ一圓ヲ課セン稅
則ハ則チ一石ヲ十圓ト假定シ其十分ノ一即チ一圓ト規定セ
シモノナリ然ルヲ今若シ十圓ノ元價ニ其五分一即チ二圓ヲ
課セハ或ハ過酷ノ譏ヲ免レサルヘキモ今日ノ價格ハ上テ平
均一石二十五圓トナレリ故ニ其十分ノ一即チ二圓五十錢ト
爲スモ現行法ノ割合ニ比スレハ敢テ不可ナキモ猶之ヲ寬メ
テ二圓ト爲セリ且明治四年ニ釀酒ノ禁ヲ解クヤ世人ハ其
資本ノ有無ヲ願ミス漫然造酒ノ業ニ就キシハ專ラ造酒者ト
指稱セラル、ノ名譽ヲ博セント欲スルニアリ是ヲ以テ或ハ
中道ニシテ廢シ或ハ廉賣シテ倒ル、ノ類枚舉ニ追アラス是

多ト謂フヘケンヤ之ヲ匡救スルニモ亦手數ヲ要セサルヘ
カラス然リ而シテ一方ニ向テ課稅品ヲ遠觀スルニ今ヤ酒稅
ヲ舍テ亦何物カアル政府ハ事業中途ニシテ止ムモノアリ未
タ着手セサル者アリ縱ヒ不急ノ土木ヲ起サ、ルモ到底支障
ノ道アルナキヲ如何セン加之本年ハ地租改正ノ期限ニ達セ
シモ政府ハ仁慈ヲ以テ尙五年ヲ延期セリ若シ此延期ヲ爲サ
スンハ歲入ハ必ス其額ヲ増加スヘシト雖モ尾州春日井郡ノ
如キハ漸ク客年ニ終リ越前七郡ノ如キハ猶未タ終ラサル等
アリ旁以テ之ヲ緩恕セリ且向ニ地租ヲ二分五厘ニ減セラレ
將來新刑法等ノ施行ニヨリ司法省ノ定額モ増サ、ル可ラサ
ルアリ財政ノ困難豈容易ナランヤ三十番ノ修正ハ寧ロ謬レ
ルノ甚シト云フヘシ

○三十番 中島 信行

內閣委員ハ今始メテ假面ヲ脱シテ眞面目ヲ現
出セリト雖モ未タ以テ本官ノ前説ヲ變動スルノ力ナシトス
何トナレハ向ニ十一年施行ノ稅則ニヨレハ百萬圓内外ヲ増
加スルノ目的ナルモ實際ニ於テハ收額二百萬圓ニ上レリ故
ニ今受賣稅小賣稅ヲ廢スルモ決シテ當初ノ目的ヲ損セサレ
ハナリ然ルニ內閣委員ハ十一年ノ酒價ヲ取テ今日ニ比シテ
之ヲ辯スト雖モ當時ノ米價ハ果シテ若干ナリシヤ蓋シ酒ハ
米價ニ從フモノナリ今一石ノ酒價二十五圓ナルモ其價格ヲ

酒造稅則案、釀造營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

終ニ濫造ノ勢ヲ成セリ蓋シ其資本アル多釀家ニ至テハ是等
小釀家ノ滅殺ヲ望ムヤ切ナリ何トナレハ同業ノ殖スルト廢
スルトハ自家ノ利益ニ關スルノ大ナルヲ以テナリ論者或ハ
云ク本員ノ言ノ如クンハ下等會社ハ終ニ酒ヲ飲ムヲ得サル
ニ至ラント豈其然ランヤ其故ハ多釀家ナルモノハ敢テ一文
一錢ニ關スルモノニアラスシテ目ヲ大局面即チ石量ノ巨額
ニ注ク者ナレハナリ又三十番ハ十一年現行稅則ヲ議定セン
景況ヲ説キ以テ本按ヲ駁撃セリ當時本員モ職ニ本院ニ在リ
シヲ以テ能ク之ヲ熟知セリ則チ本按モ十一年ノ規則ト同軌
ノ理由ニ基ケリ其理由ハ更ニ辯ヲ俟タスシテ各位ノ知ル所
ナラン夫レ十二年度ノ歲出入ハ増減ナシ本年度ノ豫算表モ
其表面ニ據ルキハ亦増減ナキニ似タリト雖モ其實豫算外ニ
官省府縣ノ要求スル所ノ金額八百萬圓アリ是レ何ヲ以テ應
スヘキヤ豫算表ニハ三百萬圓ヲ剩スト雖モ内二百萬圓ハ紙
幣切斷ニ充ツルナリ況ヤ紙幣ノ下落ニ依リ實貨ニ比スレハ
六ト四トノ割合トナルヲ以テ之ヲ乘除スルキハ五千萬圓ノ
紙幣ハ實貨三千萬圓トナリ現ニ二千萬圓ヲ減却スルニ於テ
ヲヤ蓋シ紙幣ノ落價ハ罪ヲ其増發ニ歸スルノ論者アレモ今
銀行紙幣等ヲ合シテ之ヲ通計スルキハ壹億四千萬圓ニ過キ
ス之ヲ全國人民ニ賦スレハ一人纔力ニ四圓強ナリ豈紙幣過

存スルモノハ乃チ元質タル米價ノ高貴ナルニ依レハナリ是
ニ由テ之ヲ算セハ十一年ノ今日ト今日ノ十一年ト敢テ其收
支ニ出入アルコトナシ惟フニ營業ノ何タルヲ論セス利益少ク
シテ損耗多キニ從フ者ハアラサルヘシ若シ其營業者ヲシテ
課稅多クシ損益相償ハサランメハ其人產ヲ破ルニ至ルヤ知
ル可キノミ是之レヲ國家敗滅ノ基ト云フ何トナレハ一家一
身ハ即チ國家ノ元素ナレハナリ故ニ爲政者ハ須ク目ヲ一方
ニ偏スヘカラス苟モ國用不足ヲ以テ稅ヲ課セントナラハ宜
ク全國ノ力ヲ計テ之ヲ爲スヘキナリ是ヲ之レ爲サシテ輕
輕目前ノ利ヲ計リ漫然歲出入相償フノ法ヲ講セントスルハ
到底能ハサルコトナリ夫レ租稅ヲ徵スルノ要ハ將來ヲ慮リテ
今日ヲ支フルニ在リ豈今日ハ今日ナリト云フカ如キ姑息ノ
情實ヲ以テスヘケンヤ若シ今日ニ困難アラハ宜シク一大英
斷ヲ以テ姑息ノ情實ヲ排撃シ不拔ノ基礎ヲ立テサルヘカラ
ス否ラスンハ只租稅ヲ重テ國債ヲ積ンテ而シテ後敢止セン
ノミ本官此言ヲ爲ス豈偶然ナランヤ政府益々其本ニ反ラサ
ルヤ

○十五番 安塚 保和

本官モ本條ニ修正説アリ大意ハ三十番ニ同ウ
スト雖モ稅額ニ満足セサルモノアリ故ニ若シ三十番ノ修正
消滅セハ更ニ之ヲ提出セントス

○八番山口 三十番等ノ論者ハ喋々全國ノ大經濟ヲ説クモ是レ豈本按ニ要スル所ナランヤ畢竟其論ノ歸着スル所ハ苛税ナリトノ一點ニ過キサルナリ抑本按ノ成ルヤ内閣委員ノ言ノ如ク實ニ財政ノ困難ヲ救フニ在リ而シテ之ヲ救ハントセハ其課税スヘキ物品ヲ求メサルヘカラス今之ヲ求ムルニ乃チ酒類ヲ以テ適當トセリ蓋シ向ニ一升ノ酒價十錢ナリシ時ニ方リ其十分一乃チ一錢ノ税ヲ課セシ原則ニヨレハ今酒價二十五錢ト假定セハ之ニ課税スルニ二錢五厘ノ税ヲ以テシテ可ナリトス然レモ此五厘ヲ除キ二錢ト爲ス者ハ蓋シ政府寬裕ニ出ルモノトス而シテ其税タル間税ニシテ且之ヲ釀造者ニ限リ彼ノ請賣小賣税等ヲ廢止スルニ至リシハ實ニ美法ト謂ハサル可カラス蓋シ我國酒税ノ鮮薄ナル歐洲各國ニ會テ其比ヲ見ス彼ノ各國ニ於テ之ニ重税ヲ課スルハ抑々何ノ爲ナリヤト討究スルニ酒ハ惡德ヲ養成スルノ具ナルヲ以テナリ而ルニ我邦古來ノ風俗タル會テ飲酒ノ時刻ヲ定メス飽醉狂飲夜以テ日ニ繼クモノアルモ毫モ恠シマサルナリ歐洲ノ如キ之ニ反シ殊ニ日曜ノ休養日ニハ其實質ヲ禁斷スルノ制アリト云リ凡ソ風俗ヲ矯正スルカ爲ニハ酒ノ如キハ二十倍ノ税ヲ課スルモ或ハ不可ナキニ似タリ然レモ政府ノ之ヲ爲サ、ル者ハ順序ヲ追テ然ルナリ且本按ハ間税主義ニシ

テ納税者ハ其價ヲ酒ニ課スルヲ以テ費消者ノミ一合ヲ飲メハ一厘ヲ出シ二合ヲ飲メハ二厘ヲ納ムルノ理ニ歸着スレハ決シテ營業者ノ痛痒ニ關セサルナリ然ニル現行法ノ一厘ヲ今二圓トスルヲ以テ直ニ指シテ苛税ナリト云フハ恐ラク見解ノ淺薄ナルニ由ランカ果シテ修正説ノ如クンハ本按ノ精神ヲ悟ラサルノミナラス此ノ如キハ寧ロ廢按ヲ勝レリトス今此説ニシテ已ニ賛成者アリ且問題トナリタルハ本官尙ニ怪訝ニ堪サルナリ若シ是等淺薄ノ理由ニヨリ本按ヲ修正シ以テ上奏スルニ至ラハ又以テ他日悔悟ヲ生セシムルナラント信ス願クハ三十番ノ如キ奇説ニ惑ハサランコトヲ

○卅三番 渡邊 本官ノ意モ八番ニ同シ惟フニ一圓ヲ二圓ト加倍セシハ未タ其理由ヲ知ル能ハスト雖モ蓋シ我邦ノ酒税タル敢テ今日ニ出現スルニアラスシテ其萌芽ハ遠ク明治ノ初年ニ在リ即舊幕府ノ専ラ農稅ニ課スルノ主義ヲ舒ヘ他物ト平均セシメタルノ順序ヲ見テ知ル可シ故ニ輕重ノ理ヨリシテ本按ヲ見ルハ大ニ是ナルカ如シト雖モ亦固然ナキ能ハス因テ時機ヲ得テ將ニ修正説ヲ提出セントス

○議長 三十番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ三十番ノ修正ハ消滅ス

退場 三十番 中島 信行

○十五番 安場 保和 凡ソ天下ノ事皆順序アリ目下本邦開化ノ地位ハ歐米文明ノ比ニアラス故ニ彼ノ各國人員ノ比例ヲ以テ我ニ對シ或ハ其慣習ヲ移シテ直ニ分頭割等ヲ爲サントスルハ順序其當ヲ得サル者トス夫レ酒煙稅ヲ將來ニ重クス可キハ素ヨリ不可ナシト雖モ亦適當ノ順序ヲ踏マサル可ラス已ニ本年預約ノ改正地租徵收ヲ延期セラレシモ亦慣習ヲ動カスノ容易ナラサルニ依レハナリ酒稅亦然リ豈俄然一躍之ヲ加倍スルノ理アラシヤ故ニ本官ハ受賣小賣稅ヲ徵スルハ官民共ニ不便ナルニヨリ其源ニ遡リテ增稅ノ精神ニ從ヒ「一類一圓五十錢二類二圓五十錢三類三圓五十錢」ト修正セントス此ノ如クンハ實ニ增稅ノ目的ヲ達スルノミナラス人民ノ感觸モ亦甚シカラサラン而シテ内閣委員ノ陳述セシ如ク清酒ノミニシテ能ク四百萬圓強ヲ得ルノ場合ニ達スヘシト信ス冀クハ賛成アラシコトヲ

○廿一番 鶴田 贊成

○議長 十五番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス
○外 秋成 戶田 稅額増減ノ事タルヤ悉ク精算上ヨリ來ラサル可ラス抑々明治十一年度ノ徵收酒類總稅額ハ五百〇八萬九百二十九圓九十二錢八厘ニシテ内營業稅卸小賣稅百〇八萬

酒造稅則案、釀造營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

圓三千五百〇五圓釀造稅三百九十九萬七千四百二十四圓九十二錢八厘ナリ而シテ卸賣小賣稅營業稅トヲ兩分セハ七十餘萬圓トス十一年度既ニ然リ其十二年度ニ至レハ其額増進シテ正ニ百萬圓ニ上ルアルヲ信スヘシ然ルニ論者ハ此卸賣小賣稅ヲ廢スルノ如何ヲ論セス只營業稅ヲ酒類ニ課セスシテ其場所ニ課スルニヨリ單ニ皮表ノ見ヲ以テ苛ナリトシ造石稅ヲ減セントスルハ不可ノ甚シキ者ナリ夫ノ漫ニ順序ヲ唱ヘ其奇貨トシテ引証スル所ノ地租改正ノ時至テ機至ラサルカ如キト同シク之ヲ語ルヘカラス一石廿五圓ノ酒ニ二圓ノ稅ヲ課スルハ眞ニ順序適當ノ稅法ニシテ之ヲ時至リ機モ亦至レル者ト云ハサルヘカラス

○議長 十五番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ十五番ノ修正ハ消滅ス
○卅三番 渡邊 本條ノ三類「四圓」ヲ「三圓」ニ修正スヘシ其理由ヲ述シニ凡ソ物ハ單ニ高價ナリト云テ之ニ重稅ヲ課スルハ不可ナリ例ヘハ夫ノ鉄ノ如シ生鉄ハ決シテ高價ナラサルモ精製ヲ得テ始メテ價ヲ生ス然ルヲ其要セシ努力ヲモ

顧ミス高價ナリトシテ直ニ重稅ヲ課スルハ不可ナリ況ヤ味淋ノ如キハ奢侈物ニ似タルモ亦割烹等ニ要用ナルハ他ノ醬

鹽等ト異ナラサルニ於テヲヤ

○議長 卅三番ノ修正ハ賛成者ナキヲ以テ消滅シ即原按ニ決シ本會ハ爰ニ畢ルヘシ散會セヨ

午後第二時十四分閉場

元老院會議筆記 明治十三年九月十日

○第一百九十九號議案 酒造稅則布告案、警廳營業稅則布告案、自家飲料酒類製造定限布告案

第二讀會 九月九日ノ續

議長 佐々木高行 代理

出席議員

- 三番 神田孝平
- 四番 水本成美
- 五番 東久世通禮
- 八番 山口尙芳
- 十番 箕作麟祥
- 十二番 楠本正隆
- 十三番 福岡孝弟
- 十四番 河田景興

午前第九時三十五分開場

○議長 本日ハ議長欠席ニ由リ本官代理ヲ爲シ第一百九十九號議案第二讀會酒造稅則布告案第四條ヨリ開議ス各位例ニ遵ヒ發議ス可シ

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第五條 免許ヲ請フ者ハ毎年九月三十日迄ニ管廳ニ願出ヘシ右期日ヲ過クレハ免許セサル者トス

○廿六番 柴原 內閣委員ニ問フ現行法ハ乞願ノ期限ヲ定メス本案ハ第四條第五條共ニ定限アリ蓋シ政府ハ造酒家ノ減却ヲ企圖スルニ在ルカ前ニ內閣委員ハ其増加ヲ欲スルノ精神ナリト揚言セリ惟フニ造酒ハ金穀ノ融通ニ關スルコト少カラズ而シテ其融通ハ特ニ氣ニアリ是ヲ以テ造酒モ亦多クハ十一月十二月ノ交ヲ以テ其時トス若シ本案ノ如クシハ自然影響ヲ金穀ノ融通ニ及ホシ増額ノ精神ハ變シテ減額ノ結果トナラン知ラス何ノ理由アリテ定限ヲ立ルヤ

○番 戸田 已ニ免許稅ヲ三十圓ト爲セハ勢ヒ免許權ヲ重カラスメサル可ラス之ヲ重クスルニハ其期限ヲ定ムルニアラスンハ不可ナリ若シ何時ヲ論セス之ヲ乞願スルヲ得ルトセハ例ヘハ茲ニ五箇ノ造酒家アリ年々ノ比較ヲ以テ當年賣捌高ノ豫算ヲ立テ此期限中ニ乞願ノ順序ヲ履ミ之ニ着手スルナルヘシ然ルニ定限ナクシテ爾後乞願者ノ輩出スルアラハ前ノ五家ハ大ニ當初ノ目的ヲ空フスルニ至ル果シテ然ラハ免許權ノ確實タルハ安クニ在ルヤ故ニ免許稅ヲ三十圓ト

酒造稅則案、警廳營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

- 十五番 安場保和
- 十六番 細川潤次郎
- 十九番 岩村通俊
- 廿一番 鶴田皓
- 廿六番 柴原和
- 廿七番 津田眞道
- 廿八番 大久保一翁
- 卅一番 玉乃世履
- 卅二番 林友幸
- 卅三番 渡邊昇

內閣委員 番外 大藏權大書記官 戶田秋成

セハ大ニ其權ヲ重クシ且之ヲ保護セサル可カラス又一且免許權ヲ得テ中途ニ廢棄スル者アリ然ルニ茲ニ免許ヲ得サル者ニシテ更ニ營業セント欲スル者アラハ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ルナリ現行法ニハ乞願ノ期限ナキヲ以テ寧ロ二十錢ノ手数料ヲ出シテ賣買讓與ヲ爲サンヨリハ新ニ之ヲ乞願スルノ優ルニ如カストシ賣讓ノ行ハレサルハ却テ營業者ラシテ失望セシムルノ因トナレリ之ヲ要スルニ本按ハ不十分ナルニ似タルモ實ハ十分ノ意味ヲ含ム者ナリ

○廿六番 柴原 起草ノ趣意ヲ聞キ却テ修正セサルヲ得サルノ理由ヲ生セリ本條ハ宜ク警廳營業稅則第三條ノ例ニ準ヒ本條ヲ「一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ免許稅ハ直ニ管廳ニ願出ヘシ」ト爲スヘシ此ノ如クセハ獨リ増稅ノ精神ニ合フノミナラス警廳營業稅則ト彼是相對シテ戻ルコト無シ又賣買讓與ノ事ハ警廳營業稅則第六條ニモ掲クル如ク素是レ約束ニ成ル者ナレハ必ス期限ノ有無ニ拘ラサル可シ畢竟內閣増稅ノ精神ト營業者ノ便否ト熟慮スレハ定限ヲ立ルハ不可ナリトス

○五番 東久世 贊成

○卅一番 玉乃 贊成 廿六番ニ應否ヲ表スルニ先ク更ニ內閣委員ニ問ハントス往年民部省ニテハ乞願人其大數ニ滿レハ之ヲ

制限スルノ主權ヲ有セリ本案ハ敢テ其取捨ヲ爲サス蓋シ期限内ニ乞願スル者ハ悉皆之ヲ許容スルノ精神ナリヤ

○番一 番 戸田 然リ

○卅一 番 玉乃 秋成 果シテ然ラハ本官ハ廿六番ヲ賛成ス抑モ内閣委員ノ本條ノ意ハ免許權ヲ固ウスルニ在リト云フハ頗ル當ヲ失スル者ト謂フヘシ何トナレハ夫ノ愛知縣下兵庫縣下ノ如ク各地ニ醸造者アリテ甲ハ當年某額ヲ製造シ乙ハ今歲幾許ヲ醸成スト各々天下ニ廣告スル者ニアラサレハ全國ニ通シテ其豫算ヲ立ルハ到底爲シ得可ラサルナレハナリ既ニ豫算ヲ立ル能ハストセハ何ノ免許權ヲ固ウスルヲ得ヘケンヤ是本官カ廿六番ヲ賛成スルノ大意ナリ

○議長 廿六番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十 番 麟祥 廿六番ノ修正ハ第八條ト連帶セサル可ラサル者ノ如シ如何

○廿六 番 榮原 第八條ハ本官之ヲ削ラント欲スルナリ

○十 番 麟祥 本官ハ主義ヲ廿六番ニ同フスト雖モ別ニ其條項ヲ移換セント欲スルモノアリ若シ廿六番ノ說消滅セハ更ニ之ヲ提出スヘシ

○卅三 番 渡邊 内閣委員ハ本案成立ノ所以ヲ説明スルニ第一讀會ニハ受賣稅小賣稅ヲ廢スルニ由ルト云ヒ第二讀會ニハ

○廿六 番 榮原 贊成

○八 番 山口 本官ハ反對說ヲ持セリ蓋シ是レ奇說ナルヘント雖モ之ヲ陳述セントス惟フニ論者ノ本條ヲ削リテ現行法ヲ存セントスルハ自由營業ノ精神ヨリ出ルナランカ抑々本案ニ制限ヲ立ルハ何ノ故ナリヤ現在ニテハ其修正ニ從フモ或ハ妨ケナキニ似タレト翻ツテ免許稅ヲ課スルハ何ノ理由ナリヤト思考セハ其制限ナカルヘカラサル所以ハ自カラ釋然タラン已ニ酒賣ノ如キハ自由ニ營業セシムルモ可ナリトセ

○廿六 番 榮原 贊成

○八 番 山口 本官ハ反對說ヲ持セリ蓋シ是レ奇說ナルヘント雖モ之ヲ陳述セントス惟フニ論者ノ本條ヲ削リテ現行法ヲ存セントスルハ自由營業ノ精神ヨリ出ルナランカ抑々本案ニ制限ヲ立ルハ何ノ故ナリヤ現在ニテハ其修正ニ從フモ或ハ妨ケナキニ似タレト翻ツテ免許稅ヲ課スルハ何ノ理由ナリヤト思考セハ其制限ナカルヘカラサル所以ハ自カラ釋然タラン已ニ酒賣ノ如キハ自由ニ營業セシムルモ可ナリトセ

○廿六 番 榮原 贊成

○八 番 山口 本官ハ反對說ヲ持セリ蓋シ是レ奇說ナルヘント雖モ之ヲ陳述セントス惟フニ論者ノ本條ヲ削リテ現行法ヲ存セントスルハ自由營業ノ精神ヨリ出ルナランカ抑々本案ニ制限ヲ立ルハ何ノ故ナリヤ現在ニテハ其修正ニ從フモ或ハ妨ケナキニ似タレト翻ツテ免許稅ヲ課スルハ何ノ理由ナリヤト思考セハ其制限ナカルヘカラサル所以ハ自カラ釋然タラン已ニ酒賣ノ如キハ自由ニ營業セシムルモ可ナリトセ

○廿六 番 榮原 贊成

○八 番 山口 本官ハ反對說ヲ持セリ蓋シ是レ奇說ナルヘント雖モ之ヲ陳述セントス惟フニ論者ノ本條ヲ削リテ現行法ヲ存セントスルハ自由營業ノ精神ヨリ出ルナランカ抑々本案ニ制限ヲ立ルハ何ノ故ナリヤ現在ニテハ其修正ニ從フモ或ハ妨ケナキニ似タレト翻ツテ免許稅ヲ課スルハ何ノ理由ナリヤト思考セハ其制限ナカルヘカラサル所以ハ自カラ釋然タラン已ニ酒賣ノ如キハ自由ニ營業セシムルモ可ナリトセ

○廿六 番 榮原 贊成

○八 番 山口 本官ハ反對說ヲ持セリ蓋シ是レ奇說ナルヘント雖モ之ヲ陳述セントス惟フニ論者ノ本條ヲ削リテ現行法ヲ存セントスルハ自由營業ノ精神ヨリ出ルナランカ抑々本案ニ制限ヲ立ルハ何ノ故ナリヤ現在ニテハ其修正ニ從フモ或ハ妨ケナキニ似タレト翻ツテ免許稅ヲ課スルハ何ノ理由ナリヤト思考セハ其制限ナカルヘカラサル所以ハ自カラ釋然タラン已ニ酒賣ノ如キハ自由ニ營業セシムルモ可ナリトセ

○卅一 番 玉乃 八論ノ論述ハ其自稱ノ如ク實ニ奇說ト云ヘシ

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

財政困難ニ之レ基クト云ヒ今又免許權ヲ重クスルノ說アリテ三回其說ヲ變スルモノ、如シ故ニ本官大ニ其主義ノ在所ヲ知ルニ苦シム夫子必ス一ニ居レ

○番一 番 戸田 第一讀會ニ小賣受賣稅ヲ廢スルトノ説明ハ本案ノ精神ニシテ第二讀會ニ財政ノ困難ヲ說キシハ蓋シ其精神ヲ擴充スルニ過キス之ヲ約スルニ吾道一以テ之ヲ貫ケリ

○卅三 番 渡邊 說明ヲ聞クモ終ニ本案ノ精神ヲ明了スルヲ能ハサルナリ

○番一 番 戸田 決議ノ前ニ方リ猶一言セン本條ニ九月三十日迄ニ顯出云々トアルハ實地不都合アルニ似タリト雖モ大体其期限ヲ定ムルト否ラサルトハ必ス宜キヲ制シテ差別アル者ナリ

○議長 廿六番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ廿六番ノ修正ハ消滅ス

○十 番 麟祥 本條ヲ刪除シ其意味ヲ第八條ニ添加シ醫藥稅則ト同一ノ体裁ニ倣フヲ可トス

○十二 番 楠本 贊成

○議長 十番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

其說ヲ聽クニ敢テ何月何日迄ニ酒ヲ造ル可シト云フニアラス然ルニ願出者ハ其胸算已ニ熟スルヲ以テ之ヲ乞願スルニ猶之ニ對シ汝ハ万般ノ器械ヲ製スルヲ得ルヤト問フカ如キハ實ニ無要ノ配慮ナリト云ハサルヘカラス又内閣委員ノ言ノ如クンハ實額ヲ匿シテ加倍ノ虚額ヲ開申シ爲メニ公唱ノ額ヲ減シ著ク收稅ノ減額ヲ來スヘシ何トナレハ其願出者ノ意ニ謂ラク本年ハ灘地方ニハ若干石ノ酒ヲ造ルヲ以テ予ハ多數ヲ造ル能ハスト雖モ已ニ第廿五條ニヨリテ臨時之ヲ止ムルヲ得ルモノナレハ寧ロ虚額ヲ公唱スルモ不可ナシトシ法律自カラ其目的ヲ達スル能ハサルニ至ラン蓋シ減額ヲ以テ精神トセハ本官更ニ言ナシト雖モ苟モ増額ヲ欲スルモノトセハ修正說ノ如クナラサル可カラス之ヲ要スルニ原案ニ從フキハ政府ハ目的ヲ達スル能ハス造酒家モ其目的ヲ達スル能ハス而シテ需求者モ亦迷惑スルニ至ルナリ

○卅三 番 渡邊 或論者ハ元來酒ハ奢侈品ナルヲ以テ其壓度ヲ極ムヘント云フト雖モ本官ハ必ス其損益ヲシテ平均セシメサル可ラストス蓋シ尾張神戸大坂ノ如キ各々其位置ハ隔離スルモ其連絡ニ至テハ常ニ絶ヘサレハ甲乙ノ造石若干如何ノ如キハ斷シテ知ルヲ得ヘキモノトス其歐洲ノ事ハ姑ク措キ世ニ利益ナキノ營業ニ從事スル者ハ決テ之アラサルヘシ

意フニ一法ヲ制スルモ人民ノ感觸如何ヲ見其利多クシテ害少クハ正ニ之ヲ斷行シテ遲疑セサルヘキナリ

○八番 山口 更ニ前言ヲ再陳セン本案ハ現ニ一期中ハ其何時ヲ問ハス之ヲ届出レハ直ニ許可ヲ得ルノ方案ナレハ決シテ不自由ナルニアラス夫レ自由貿易自由營業ハ素ヨリ美事ナリト雖モ亦制限ヲ要スルコトアリ苟モ三十圓ノ免許稅ヲ收ムルトセハ豈之ヲシテ價格ナカラシメスシテ可ナランヤ其價直ヲ與フルニハ只容易ニ他ニ許ルサ、ルニ在ルノミ本官ハ只原則ニ據テ本條ヲ重スルノミ決シテ奇ヲ好ムニアラス其奇說ト自稱セシハ流行自由說ニ反スルヲ以テナリ

○番一 秋成 卅一番ハ第廿五條ヲ引証シテ自家撞着ノ評語ヲ下スト雖モ既ニ現行法第二則ノ第四條ニ於テ實地其支吾ナキヲ見ルカ故ニ更ニ一步ヲ進メテ免許ノ制限ヲ立テタルナリ惟フニ營業者ハ必ス密ニ探索シテ他人ノ醸造石高ヲ知ルヲ勤ムルヤ知ルヘキナリ

○卅一番 玉乃 世履 内閣委員ハ現行法已ニ然レハ今期限ヲ立ルモ敢テ支吾ナシト云フト雖モ已ニ現行法ニシテ差支ナシトセハ素ヨリ之ヲ禁スルヲ須ヒス例ヘハ茲ニ令ヲ出シテ云ク期ヲ忘ル可ラスト然ルモ尙之ヲ忘ル、キハ如何スヘキヤ理豈此ト異ナランヤ

リ例ヘハ朋友相會スルニモ毎月第三土曜日ト規定スレハ其便利ナルハ彼ノ規定ナキニ優ルヤ萬々ナラン故ニ期限ヲ定ムレハ官ハ其期限ノ時ニ至テ乞願幾百人鑑札幾百枚番數幾百號ト定メ混雜ノ煩ヲ免ルヘシ夫レ政ヲ爲スハ人民ノ便ヲ想フヲ第一トス已ニ人民ノ便ヲ想フハ先ツ自己ノ便ヲ計リ繁ヲ去テ簡ニ就カサル可ラス是人ノ溺ヲ救フニハ豫メ自己ノ溺ヲ救ハサルヘカラサルト一般ニシテ即チ救フコトヲ得ルカ故ニ先ツ之ヲ救フノ方法ヲ講スルモノナリ

○廿六番 柴原 和 十六番ハ第四第五條ハ五ニ首尾ヲ相爲スト云ヒ官便ヲ先ニシテ民便ヲ後ニスト云テ本案ヲ護スト雖モ抑抑第四條ハ明治八年ノ布告中ニモ亦已ニ之ヲ掲ゲテ單行セリ若シ他ハ首尾相爲サ、ルヲ以テ不可ナリト云ハ、醫藥稅則ナル營業免許期限ノ首尾モ亦酒造稅則ト并行シテ首尾ヲ爲サシメサル可ラス要スルニ九月三十日迄ニハ必ス願出サル可ラスト爲スノ理ナシ又地方ニハ郡役所等アリテ牒簿ノ整齊ナルハ一目瞭然ナリ殊ニ營業者ハ果シテ九月三十日ヲ待タスシテ何時ニ願出ルモ亦知ル可ラス夫ノ寒國ノ如キハ十一月下旬ニ至ラサレハ決シテ收獲ヲ見上加フルニ造酒家ハ自己ノ作米ヲ待ツノミナラス融通ニ依ルモノ多ク其融通ハ重ニ九月後ニアルヲ以テ自カラ冬氣ニ至ラサルヲ得ス故

○番一 秋成 本員ノ現行法ヲ引証セシハ卅一番カ第廿五條ヲ引証シテ自家撞着ト評セシニ對スルノ言ナリ卅一番ハ其レ誤解ナラサルカ

○卅一番 玉乃 世履 内閣委員ハ本官ノ說ヲ誤解セリ蓋シ本官ノ第廿五條ヲ引証セシハ法律ニ期限ヲ定ムルキハ乞願者ハ必ス第廿五條ニ遁路ヲ取ルヲ以テ法律自ラ困シムヲ致スヲ憂ルニ在リ

○十六番 細川 潤次郎 本官ハ原按ニテ不可ナシトス何トナレハ第四條ニ免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トストアリテ願フヲ得ヘシト願フコト能ハスト云フニ論ナク輪廻シテ九月三十一日トナレハ即チ次期ニシテ直ニ願出ルコトヲ得レハナリ惟フニ本案第四條ハ本條ト連絡シテ首尾ヲ爲ス者ニテ是蓋シ經驗ニ由テ然ルモノナラン或ハ云ン官民共ニ之ヲ爲ス豈期限ヲ要センヤト然レモ苟モ收稅ニ就テハ精密ノ検査ヲ爲サ、ル可ラス之ヲ爲スニハ帳簿ニ據ラサル可ラス而シテ其帳簿ハ亦其届出ニ據ラサル可ラサルヲ以テ若シ其期限アルキハ敢テ怠慢ノ憂ナカラントス或議官ハ金穀融通ノ胸算ヲ述ルト雖モ其胸算ハ九月ニ之ヲ爲ス能ハサルニアラス之ヲ要スルニ期限ヲ定ムルハ官ノ便ナルハ言ヲ俟タス人民モ亦怠慢ノ憂ヲ免カレ恰モ兩便ノ法案ナ

ニ本案ハ減額ノ精神ト爲サハ即チ可ナリ果シテ増額ノ主旨ナリセハ本官ハ以爲ラク官便ヲ想ハシヨリハ先ツ民便ヲ想ハサルヘカラスト

○十六番 細川 潤次郎 廿六番ハ頻リニ融通ノ事ヲ説クト雖モ蓋シ世上二季或ハ月末ヲ以テ決算ノ慣習トナスアルモ九月三十日ハ大晦日ニアラス何ソ大ナル差支アラシヤ又收獲ノ事ヲ引テ修正ノ理ヲ言フト雖モ本按ハ必ス九月三十日迄ニ皆造ス可シト云フモノニアラス廿六番ノ辯解ハ恐クハ不當ナラン

○廿六番 柴原 和 九月三十日ハ固ヨリ大晦日ニアラス然レモ免許出願ノ初日ヨリ三十圓ノ營業稅金ハ已ニ之ヲ納メサルヲ得サレハ此期限ヲ定ルハ不可ナリトスルナリ

○十番 巖崎 十六番ノ老煉ナルモ救自溺而後救他溺ノ例言アルハ已ニ本按ノ人民ニ不便ナルヲ曉ルモノ、如シ其心誠ニ然ラハ豈夫レ期限ヲ定ムルヲ要センヤ

○三番 神田 現行稅則ニハ免許願ノ期限ナシト雖モ石數届出及検査ヲ受ルハ期限ヲ十月ト確定セリ本案ハ免許願ニ期限アレモ第十條石數届ケ及検査ヲ受ルニハ期限ナシ若シ修正ノ如クハ十番ハ第十條ヲ如何スルヤ

○十番 巖崎 免許鑑札ヲ乞フト石數ヲ届出ルトハ自ラ趣ヲ殊

ニスルヲ以テ續テ第十條ニ至ラハ亦之ヲ論セントス但石數
届ハ散テ之ヲ要セストナスナリ

○十五番 安場 三番ノ石數屆期限ヲ廢スレハ差支アル可シト
ノ說ニ對シテ一言セシ本官ヲ以テ之ヲ見レハ縱ヒ第五條ヲ
削ルトモ第八條ニ免許稅納ノ事アリ第廿五條ニハ石數ノ項
アルヲ以テ第十條トハ更ニ關係ヲ有セサル者トス

○議長 十番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ十番ノ修正ハ消滅シ即チ原案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳
ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ
キハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

○十番 藤野 本案「前條ノ」ノ三字ヲ削リ「都テ」ノ二字ヲ
壞セント欲ス蓋シ前條ノ字ハ法律文ニ於テハ多クハ直前ヲ
指ス者ナレハ本條ヲ玩味スレハ其關係ハ獨リ第十條ニ止マ
ラサルヲ以テナリ

○十二番 楠本 賛成

○議長 十番ノ修正ニ賛成アルヲ以テ問題ト爲ス

○廿六番 柴原 本官ハ原案ニテ不可ナシトス蓋シ前條ハ即チ
第十條ノ造酒ノ石數ヲ承ケタル者ナリ

○十番 藤野 廿六番ノ如キ見解ヲ下ス者アリ是レ本官ノ修正
ヲ要スル所以ナリ惟フニ検査ト皆造トハ其事相異ナル者ナ
リ

○廿六番 柴原 敢テ検査酒ヲ皆造スルニアラス皆造スヘキ酒
ヲ検査スルヲ明カナリ

○八番 山口 前條トハ即チ検査ヲ受ケタル石數ヲ指ス者ナリ
而ルニ之ヲ都テト修正スルハ皆造ト文字ヲ重複スルモノ

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

○議長 全會一致ナルヲ以テ原案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第二章 納稅 造石検査

第八條 免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

○十番 藤野 鑑札ノ下ニ「ヲ」字ヲ加ヘントス

○議長 十番ノ修正ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス乃チ原案ニ決
ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第九條 造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ三月三十一日迄検査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期 七月三十一日限

四月一日ヨリ六月三十日迄検査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ皆造検査濟石數ニ係ル稅額并前納額ノ殘數

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

アリ故ニ十番ノ修正消滅スルアラハ本官ハ更ニ前陳ノ意味
ヲ以テ修正ヲ提出セントス

○議長 十番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ十番ノ修正ハ消滅ス

○八番 山口 原案ニテ解ス可ラサルニアラスト雖モ亦其疑惑
ナキヲ保セサルナリ故ニ「前條ノ石數ハ八月三十一日迄ニ
皆造スヘシ」ト修正スルヲ可トス

○三番 神田 賛成

○議長 八番ノ修正ニ賛成アルヲ以テ問題ト爲ス

○十六番 細川 内閣委員ニ問フ前條ノ酒類トハ三類別ノ酒
ヲ指ス乎果シテ然ラハ其味淋タルト燒酎タルトヲ論セス必
ス八月三十日迄ニ皆造セサルヲ得サラン惟フニ雜祭ニ用フ
ル白酒ノ如キハ前夜ニ製スルニ非サレハ其風味ヲ損スト云
是等ハ如何スルヤ

○一番 戸田 雜祭ニ用フル白酒ノ如キハ來年ノ期內ニ入ル
外ニ秋成

○八番 山口 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以
テ一期トス然レハ其十月一日ハ已ニ次期ナリ豈妨ケアラン
ヤ且思フニ自家用ハ格別ナラン

○十六番 細川 白酒ノ如キハ十日乃至廿日ヲ過クレハ或ハ腐敗ス若シ之ヲ造ルハ何時ヲ論セサルヘキモ愛ニ検査官ノ臨檢ヲ煩ハスヲ如何セン要スルニ本官ノ此言ヲ爲スハ蓋シ皆造ノ文字ニ對シテナリ

○番一 秋成 白酒必ス十日廿日ノ間ニ腐敗スト斷言ス可ラス是坊間販ク所ノ者ヲ見テ知ルヘキナリ且其検査ヲ申出ルハ其管廳ナリト雖モ管廳ハ亦之ヲ郡區戸長等ニ委任スルヲ以テ便宜ニ之ヲ検査セシメ敢テ遲滯ノ憂アルコトナシ尤モ本案ヲ實施スルニ至ラハ更ニ檢作取扱手續書ヲ制定スルノ考案ナリ

○十六番 細川 熟考スルニ酒類トアルモ石數ト爲スモ同一理ナリ故ニ本官ハ原案ヲ可トス

○八番 山岡 必スシモ原案ハ不可ナシト雖モ苟モ前條トアリテ其連絡ヲ見レハ即チ石數ニ係ルヲ以テ法文ノ体裁ニ背カサランヲ欲シテナリ

○十五番 安場 八番ノ所謂石數トハ酒ヲ造ルヘキ米ノ石數ナルカ將タ醸造セシ酒ノ石數ナルカ

○八番 山岡 酒ノ石數ナリ

○十二番 正隆 内閣委員ニ問フ已ニ八月三十一日迄ニ皆造スヘシトアレハ九月ハ忽チ検査ノ月ニシテ其間僅ニ一月ヲ介

時已ニ午ヲ過クルヲ以テ一旦散會セヨ

午後零時三十分閉場

午後第一時二十分開場

依病 四番 水 本 成 美

○議長 午前ノ續會ヲ開クヘシ

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

○議長 本案ヲ可トスルモノハ起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ屈出ノ上他ノ酒類ニ變製スル時ハ造石稅ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

酒造稅則案、葡萄酒營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

スルノミ此ノ如キハ濁酒モ亦一年一度ノ外ハ醸造スルコト能ハサルノ理ナリ偏ニ疑フ造石稅ヲ納ムルハ三期ニシテ其検査ヲ受ルハ獨リ九月ニ限ルハ如何

○番一 秋成 十二番ハ検査ノ方法ヲ疑フ者ノ如シ蓋シ十月一日ヨリ翌年八月三十一日迄ニ皆造シ一期毎ニ收稅委員巡回シテ検査スルヤ明白ナリ而シテ其検査ノ期日ヲ公示セサルハ是即チ検査ノ秘訣ナリ

○十五番 安場 内閣委員ニ問フ第十條ノ石數ハ米ノ石數ナルカ將タ酒ノ石數ナルカ其他ニ散見スル者亦同シキカ從來唱呼スル所ノ石數トハ米ナリ本案石數ハ果シテ何物ヲ云ヤ

○番一 秋成 酒ノ石數タルコトハ第三條ニ由テ知ルヲ得ヘシ

○卅三番 渡邊 本官ハ原案ヲ可トス文章上ニテハ前條ノ字或ハ妥當ナラサルカ如キモ前條ニ造酒ノ石數トアレハ亦妨ケナントス

○八番 山岡 本案ハ都テ石數ヲ以テ骨子トス若シ卅三番ノ說ノ如クハ前條ノ字モ不用ナリ故ニ本案ノ精神タル石數ノ字ヲ置クヲ以テ允當ナリトス

○議長 八番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ修正ハ消滅シ即チ原案ニ決ス

○十番 義作 第十五條變製ノ註解ヲ本條ニ移シ而シテ他ノ註解ヲ削ラント欲ス蓋シ前後ノ順序ニヨリテ然レハナリ

○卅一番 玉乃 贊成

○議長 十番ノ修正ハ贊成者アルヲ以テ問題トナス

○十六番 細川 十番ノ修正ハ間然スルコトナシ仍テ之ヲ贊成ス

○議長 十番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ十番ノ修正ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十一條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ

直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ

應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シ

タル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

○議長 本案ヲ可トスルモノハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十八條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒

類ヲ問ハス其仕込タル酒も及其他仕込米及ヒ營業ニ關ス

ル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

○議長 本案ヲ可トスルモノハ起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第十九條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前官廳へ申

出其容量ノ検査ヲ受クヘシ
但賣買等ハ其時々管廳へ届出ヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第三章 禁令 雜令

第二十條 酢製造及ヒ酒もと并ニ麴ヲ販賣スルヲ許サス

○十二番 楠本 内閣委員ニ問フ元來酒造家ハ併セテ酢ヲ製造

スルノ風習アリ本案ハ亦其販賣ヲ併セテ之ヲ禁スルノ謂ナ

ルカ且又酒もとト麴トハ其製法ニ於テ之ヲ甄別スルヲ得ヘ

キ乎本官聞ク所ニヨレハ酒もとハ麴ノ未タ黄色ニ變セサル

ノ際ニ及テ之ヲ製スト又聞ク武州ニハ單純ノ酒もと麴屋ア

リト然レモ之ヲ全國ニ照ストキハ其單純ナル酒もと麴アル

ニアラス必ス味嗜麴ヲモ含ムモノナリ本官曾テ調査セシ所

ニ據ルニ東京ニハ本郷等ノ土地ニテ六十戸アリシモ今ヤ減

シテ四十戸ニ下レリ而シテ此四十戸ハ皆味嗜麴ヲモ併セ製

スル者ナリ今本案酒もとト麴トノ分別ヲ明ニスルハ検査上

果シテ爲スヲ得ヘキノコナリトスルヤ

○十一番 戸田 酢ノ製造ヲ酒造家ニ禁スルハ固ヨリ其理由ア

外 秋成

検査ノ次ニハ一桶ナルモ検査後能ク二桶トナルヲ以テナ

○卅三番 渡邊 本官ハ「製造」ノ二字ヲ削除セント欲ス蓋シ

酢ヲ販賣スルヲ禁スルハ不可ナシト雖モ之カ爲メニ併セテ

自家用料ノ製造ヲモ禁スルハ苛酷ナルヲ以テナリ

○十二番 楠本 贊成ス其理由ハ若シ酢ノ製造ヲ禁スルハ其詐

欺ヲ杜クナリト云ハ、白酒味淋亦何ソ擇ハンヤ故ニ刪ルヘ

シトス

○議長 卅三番ノ修正ハ贊成者アルヲ以テ問題トナス

○三番 神田 内閣委員ノ言ニ云ク麴ノ販賣ヲ禁スルハ麴ヲ酒

もとニ和スレハ酒其度力ヲ増スヲ以テ之ヲ防クカ爲メナリ

ト果シテ然ラハ縦ヒ之ヲ販賣セサルモ自製ノ麴ヲ和スルハ

容易ノコナリ況ヤ又他ニ購買ノ道アルヲヤ豈其販賣ヲ禁ス

ルノ故ヲ以テ些ノ痛痒ヲ覺ヘンヤ

○十一番 戸田 麴ノ販賣ヲ禁スルハ自家飲料ノ地ヲ爲スニ在

リ若シ夫レ購買ヲ禁スルニ至テハ法律ノ克ク爲ス所ニアラ

ス三番ハ若シ本案ヲ不充分ナリトセハ適當ノ修正ヲ加ヘテ

可ナリトス

○十二番 楠本 内閣委員ハ酢ノ製造ヲ禁スルハ其醸法ノ酒ニ

匹似シテ鑑別シ難キヲ以テ地方官ノ申告アルニ依レリト云

リ何ソヤ蓋シ從來酢ヲ造ルニハ脱粟米ヲ用ヒシト雖モ今ヤ

否ラス精米ヲ用ヒテ之ヲ製シ其醸法亦酒ト異ナルコトナシ故

ニ其着手後八十八夜ヲ過キテ俗ニ所謂火當ナルモノヲ爲サ

サル間ハ其酒タルト酢タルトヲ辨知スルコト能ハス爲メニ檢

査官ヲ欺キ酒ヲ酢ナリト詐稱シテ以テ違稅ヲ計ルノ弊アリ

各地方官ニ於テモ此弊ヲ發見シテ以テ大藏省ニ申告セリ是

レ酒造家ニ之ヲ販賣スルヲ禁スル所以ナリ又酒もとハ乃チ

次案ノ贅麴ニシテ彼ノ單純ノ麴即チ味嗜製造ノ料トハ大ニ

別ナリ其販賣ヲ禁スルハ自家醸造ニ供スル者ナリト公稱シ

テ之ヲ密賣スルヲ防クニアレハナリ又麴ノ販賣ヲ禁スルハ

酒もとト其辨別ヲ爲スニ難クシテ検査ノ累トナレハナリ

○十二番 楠本 更ニ問フ酢酒ノ辨別ヲナスノ難キト云ハ、味

淋ト酢トノ分別ヲ検査スルハ如何シテ之ヲ爲スヤ

○十一番 戸田 味淋ト酢トノ辨別ハ八十八夜ヲ俟タス其下手

ノ初ニ於テ之ヲ知ルヲ得レハナリ

○十五番 安場 酒もとト麴トノ辨別アリト云ハ、麴ハ何ノ用

ヲ爲スモノナリヤ

○十一番 戸田 味嗜醬油等ノ製造ニ用ヲ爲スモノナリ

○十五番 安場 然ラハ何ヲ以テ麴ノ販賣ヲ禁スルヤ

○十一番 戸田 麴ヲ酒もとに混和スルハ其度力ヲ増シ隨テ

外 秋成

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

フト雖モ其鑑別ニ苦ムヲ以テ之ヲ禁スルニ至リテハ無乃不可ノ甚キモノナリ況ヤ自家用料ノ酢ハ實地ニ僅々ナルヲヤ又況ヤ検査官タル者其鑑別ヲ爲ス能ハスンハ是レ其職ヲ空フスル者ナルヲヤ之ヲ要スルニ此ノ如キ些事ニ干渉スルハ恐クハ政府ノ得策ニアラサラン故ニ修正スヘシ

○廿六番 柴原 卅三番ヲ賛成ス内閣委員ノ言ハ所謂自家撞着ヲ免レス何ソヤ麴ノ販賣ヲ禁スルハ酒ニ度力ヲ加フト云フヲ以テナリ且酢ノ製造ヲ禁スルハ詐詭ヲ防クニアリト云ヘ凡果シテ然ラハ麴ノ製造ハ何ソ之ヲ禁セサルヤ是其言自家撞着ニアラスンテ何ソヤ

○十五番 安場 製造ノ二字ヲ削ルハ卅三番ト意見ヲ同フスト雖モ本官ハ亦麴ニ就テ異論アリ故ニ卅三番ノ修正消滅スルアラハ爰ニ修正ヲ提出セント欲ス

○八番 山口 本官ハ修正ニ同意スル能ハス然レモ亦本案ヲ不可トス蓋シ削除ノ説ナリ何トナレハ都會ノ如キハ往々專業者アルモ田舎ニ至テハ全ク然ラス酒造家ニシテ麴製造ヲ兼スルノ風アルハ一般皆然リ其自家飲料ヲ製スル者ハ必ス之ニ由テ購買ス今ヤ現ニ醸造ノ季節ニ臨メリ若シ本案一發セハ既ニ着手シタルモノアリテ地方廳ハ陸續指令ヲ仰クニ至ラン本案若シ自家用料ノ酒ヲ禁スルノ精神ナリトセハ或ハ

ルモ亦然ラサルヲ得サルナリ況ヤ酒もとト麴トノ鑑別ハ實ニ爲シ能ハスシテ之ヲ禁スルカ爲メニハ其關係途ニ味噌醬油ニ覃及スルノ恐レアルニ於テヲヤ

○議長 十五番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○十番 巖作 内閣委員ニ問フ已ニ販賣ヲ禁シ若シ之ヲ犯スモノアラハ其處分ハ第三十二條ニ據ルカ又問フ別ニ營業兼業ヲ爲スヲ得ルヤ

○十一番 戸田 之ヲ罰スルハ第三十四條ノ明文ニ據ル又兼業ノ事ハ本條ニ許サストノ明文アルニヨリ其爲スヲ得サルハ明了ナリトス

○卅三番 渡邊 酢製造及酒もとノ販賣ヲ禁シテ麴ヲ不問ニ置クハ何ノ理由アリテ然ルカ

○十五番 安場 本條ハ酒類ノ取締ナリ故ニ麴ノ販賣ヲ許サ、ルハ之ヲ酒もとニ和合スレハ釀酒ノ度力ヲ増スニ由レハナリ然レハ麴ノ自用ヲ禁セハ其効アルヘキモ徒ニ販賣ノミヲ禁スルハ他ニ購求ノ道アリテ毫モ効能ナキヲ以テナリ

○十二番 楠本 十五番ノ修正ハ酢及酒もとヲ製造スルヲ禁スルニアラス其之ヲ販賣スルヲ許ルサ、ルナリ卅三番ハ誤解アラサルヤ

○卅三番 渡邊 十二番ノ説明ヲ聞キ本官ハ前説ノ誤解ニ出ル

酒造稅則案、醬麵營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

可ナルヘキモ是亦道フヘクシテ行フヘカラサルナリ更ニ實際上ニ就テ之ヲ云フモ豈麴アリテ取締ノ爲ス能ハサルノ理アランヤ今一室内ノ麴ヲ見テ之ヲ折半シ彼ヲ販賣部トシ此ヲ自用部トナサハ検査ヲ爲ス可決シテ難カラサルヘシ是等ノ理由アルニヨリ本官ハ之ヲ削除セント欲スルナリ

○卅三番 渡邊 八番ハ削除ノ説ヲ發スト雖モ若シ之ヲ削除セハ實地必ス検査上ノ支障ヲ生スヘシ惟フニ造酒家アルノ地ハ人家絶無ノ境ニアラスシテ多少炊烟ヲ發スルノ所トス故ニ造酒家麴ヲ販賣セサルモ自用酒ヲ釀スニハ敢テ差支アルニハアラサルナリ

○議長 卅三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ 起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ卅三番ノ修正ハ消滅ス

○十五番 安場 本官ハ本條ヲ「酢製造及ヒ酒もとヲ販賣スルヲ許サス」ト修正セントス内閣委員ハ麴ヲ禁スルハ自家用料ニ關係スルヲ以テナリト云ヘ凡徒ニ其販賣ヲ酒造家ニ禁シ其製造ヲ禁セスハ何ノ効力カ之アランヤ況ヤ其販賣ヲ禁スルモ自家用料取締ノ用ヲ爲サ、ルニ於テヲヤ是レ本官カ麴ヲ削除スル所以ナリ

○十二番 楠本 賛成ス惟フニ麴ヲ削ルハ内閣委員ノ説明ニ據

ヲ知ル故ニ釀テ十五番ヲ賛成ス
○議長 十五番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ 起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ十五番ノ修正ニ決ス

○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス
第三十一條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ製造スルヲ許サス

○八番 山口 本官ハ前條ヲ削除セント欲セシニ已ニ十五番ノ説ニ可決セシヲ以テ亦之ヲ如何トモスルコト能ハス然レモ本條ハ必ス之ヲ削除セサル可ラス何トナレハ他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ製造スルヲ許サストスルハ注文ヲ受ルコト能ハハレハナリ已ニ取締上ニ於テ營業自用皆其順序アリ豈本條ヲ要センヤ蓋シ之ヲ削ルハ立案家モ必ス同意ナルヘキヲ信ス

○十二番 楠本 賛成
○議長 八番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○卅三番 林友 本案ノ依托ハ届出ノ外ニ依托ヲ受ケタル者ト見ユ然レハ本案ハ不可ナシトス

○卅三番 渡邊 卅二番ノ説ノ如シ若シ依托ヲ受クルコトアラハ其依托ノ石數ヲ届出シムルモ可ナラン然ラスシテ本案ヲ削除セハ或ハ恐ル酒造家ハ依托ノ名義ヲ以テ逋稅スルアルニ

至ラシコヲ

○八番 山口 法案ヲ議スルニハ前後照査セサル可ラス本案ハ
禁令ニシテ免許ノコニアラス抑々其醸造高ハ之ヲ未然ニ届
出サル可ラス又検査ハ自家用ニモ及フ者ナレハ依託ノ品モ
亦然ラサルヘカラサルニアラスヤ此ノ如ク前後ヲ照査セハ
思ヒ必ス半ニ過キン

○廿六番 柴原 本官ハ卅二番ノ説ニ左袒シテ問題ニハ反對ナ
リ第十二條ニ「自家用料又ハ云々ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ
受ケ云々」トアリテ他ノ依託ノコニ及ハス故ニ本條ヲ削ル
キハ他ノ依託ヲ受ルノコヲ制スル能ハサラン

○卅三番 渡邊 若シ八番ノ説ノ如クンハ届出ノ高ハ検査ニ臨
ミ差異アルモ是レ依託品ナリト公唱セハ之ヲ如何トモスル
能ハサラン故ニ本條ハ削ルヘカラサルナリ

○番一 秋成 卅三番卅二番ハ能ク本案ノ意ヲ獲タリト謂フ
外ハ蓋シ依託醸造ヲ名トスルノ弊ハ今日已ニ輩出シ殆ト防
禦スカラサルノ勢ナリ故ニ地方官ニモ此脱稅ノ道ヲ杜絶セ
ンコトヲ上申セリ是レ本案起草ノ原由ナリ

○八番 山口 卅三番ハ若シ検査ニ臨ミ造石高増加スルアラハ
之ヲ如何ト論スレモ之ヲ爲スニハ已ニ第十條ノ明文アルア
リ且内閣委員ハ今日ノ流弊ヲ顧慮スト云フト雖モ本案ニ依

不明了ナラハ恰當ノ修正ヲ爲スハ可ナリ之ヲ削除スルハ不
可ナリ

○卅一番 玉乃 依託ノ意味果シテ代造ナリトセハ本按ニ對シ
本官ハ更ニ容喙セズ

○十五番 安場 削除ノ説ハ穩當ナラスト雖モ本官ハ別ニ説ア
リ故ニ八番ノ修正消滅セハ更ニ之ヲ提出スヘシ

○八番 山口 抑本按ハ釀酒規則ニシテ依託ノコニアラス故ニ
依託ト非依託トヲ論セス必ス其造石ノ届出ヲナサ、ルヘカ
ラス現行法ニハ自家用料ニ定限ナキヲ以テ本條ノ如キモ亦
要用ナルヘシト雖モ本按ハ既ニ其制限アリ豈此ノ如キ贅疣
ヲ要センヤ

○卅二番 林友 依託トハ自飲ノ爲メナルカ將タ販賣ノ爲メナ
ルカ之ヲ約言スレハ依託ヲ受ケテ酒類ヲ造ルヲ許サストノ
意ナリ故ニ文章ヲ修正シテ「依託ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ
許サス」ト爲サハ分明ナラン若シ本條ヲ削除スルキハ遂ニ
其眞理ヲ失フニ至ラン

○廿六番 柴原 本官ハ已ニ卅二番ニ同意セリ惟フニ本條ヲ削
除セハ或ハ他ノ依託又ハ贈物ト唱フル如キニ際シ其處分法
ナカラン果シテ然ラハ遂ニ法律ノ精神ヲ害スルニ至ランヲ
恐ル故ニ穩妥ノ修正ヲ得テ原案ノ意味ヲ失ハサランコトヲ望

酒造稅則案、釀造營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

ルキハ自家用料モ一石ヲ超ユレハ其検査ヲ受クル等却テ他
ノ營業者ニ均キ取締ヲ受ルヲ以テ夫ノ依託ヲ名トシテ連稅
ヲ圖ルノ弊ヲ生スルノ理ナシ已ニ此取締アリ造酒家豈他ノ
依託ヲ甘受センヤ故ニ本條ヲ存スルキハ併セテ花主ノ注文
ヲ受クル能ハサルノ看ヲナシ遂ニ迂回ノ法律トナラン

○卅三番 渡邊 八番ノ説ノ如クンハ違犯者ニ向ヒ何ヲ以テ造
石ヲ隱蔽セシヤト詰責センニ彼レ對テ某額ハ依託ニ依テ造
ル者ナリ故ニ之ヲ届出サリント云ハ、之ヲ不問ニ付セント
スルカ此時ニ當ラハ其將タ何ノ詞ヲ以テ之ヲ罰セントスル
ヤ

○卅一番 玉乃 本官ハ内閣委員ニ問ハント欲ス蓋シ委員ハ第
二讀會ニ方テハ沈黙ヲ守ルモ可ナリトシ議員ノ問ニ答ヘス
ト明言スト雖モ思フニ自己ニ利アルキハ之ヲ答ヘ不理ナル
キハ之ヲ答ヘサル如キハ討論上大ニ支障ヲ生スルヲ恐ル知
ラス委員ハ能ク本官ニ答フヘキヤ若シ答フヘシトセハ本條
ニ依託トアルハ代造ノ意ナルカ八番ノ修正モ徹頭徹尾理由
ナキニアラサル者ノ如シ其主意如何

○番一 秋成 能ク戲謔シテ虐ヲ爲サストハ其レ卅一番ノ謂
ナルカ巧ニ弄言ヲ吐テ内閣委員ニ發議セシメント欲ス本條
ハ卅卅一番ノ所謂代造ヲ云フモノナリ然レモ本條若シ意味

○議長 八番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ修正ハ消滅ス

○十五番 安場 本條都テトスルキハ文章不穩ナルヲ以テ本官
ハ「釀造石高届出外他ノ依託ヲ受ケ酒類ヲ製造スルヲ許サ
ス」ト修正セント欲ス

○十三番 福岡 贊成

○議長 十五番ノ修正ハ贊成者アルヲ以テ問題トナス

○番一 秋成 十五番ノ修正ハ猶不可ナル所アリ何トナレハ
第十條ニ「造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ」
トアリ而シテ第二十五條但書ニ「但種目變換并見込石數ノ
増減等ハ其時々届出ヘシ」トアリ然ルニ若シ十五番ノ修正
ノ如クンハ一定不變ノ基礎ナルヲ以テ營業者ノ不便又云フ
ヘカラサラ

○十五番 安場 本官ノ修正ハ敢テ第廿五條増減ノ文字ニ影響
ナシトス

○卅一番 玉乃 更ニ十五番修正説ノ朗讀ヲ乞フ

○十五番 安場 本官ノ修正ハ「釀造石高届出外他ノ依託ヲ受
ケ酒類ヲ製造スルヲ許サス」是ナリ尤モ文字ノ如何ハ各位

ノ判決ニアリト雖モ精神ニ至テハ動カスヘカラサルモノトス

○一番 戸田 醸造石高届出外トナスキハ依托ノ字ヲ解シテ

外 秋成 註文トスルノ念ヲ増スヘシレ明了ヲ欲シテ却テ不明了ニ

失スル者ナリ各位希クハ賛成ナカラシム

○十五番 安場 保和 本條ノ支障ヲ救フニハ已ニ第二十五條ノアル

アリ然レモ亦不充分ナルヲ感ス故ニ尙至盡ノ修正アラハ本

官モ亦得意セント欲ス敢テ自説ヲ主張スルニアラス

○三番 神田 孝平 十五番ノ修正ニ從ハンヨリハ寧ロ本案ヲ勝レリ

トス

○十番 箕作 麟祥 本官ハ八番ノ削除説ニ左袒セシモ不幸ニシテ消

滅セリ若シ十五番ノ修正消滅セハ更ニ一説ヲ提出スヘシ

○議長 十五番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ十五番ノ修正ハ消滅ス

○十番 箕作 麟祥 本官ハ茲ニ十分ナル文字ヲ有セサルヲ以テ或ハ

卅二番ノ説ヲ偷ムニ似タリト雖モ「都テ依托ヲ受ケ酒類ヲ

代造スルヲ許サス」ト修正セント欲ス

○十二番 楠本 正隆 十番ノ修正ハ讀者ノ疑問ヲ推クニ足ルヲ以テ

賛成ス

十三番 福羽美壽

十四番 河田景興

十五番 安場保和

十六番 細川潤次郎

十九番 岩村通俊

廿二番 大給恒

廿六番 柴原和

廿七番 津田眞道

廿八番 大久保一翁

卅一番 玉乃世履

卅二番 林友幸

卅三番 渡邊昇

内閣委員 番外 大藏權大書記官 田 秋 成

午前第九時五十二分開場

○議長 本日ハ議長他ノ公務アルニヨリ本官代理ヲ爲シ第百

九十九號議案第二讀ノ續會ヲ開ク而シテ朗讀ハ便宜ヲ以テ

二條或ハ三條ヲ連帶スルコトアルヘシ但動議アルニ於テハ毎

條決ヲ取ルヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十二條 検査未済ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

○議長 十番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題トナシ直ニ決ヲ

取ラン十番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者九人

○議長 多數ナルヲ以テ十番ノ修正ニ決シ本日ハ茲ニ閉會ス

明日例刻ヨリ續會ヲ開カン散會セヨ

午後第三時五十分閉場

元老院會議筆記 明治十三年九月十一日

○第九十九號議案 酒造稅則布告按、醫藥營業稅則布告

第二讀會 九月十日

議長 佐々木高行

代理

出席議員

三番 神田 孝平

五番 東久世 通禧

八番 山口 尚芳

十番 箕作 麟祥

十二番 楠本 正隆

藥スルヲ許サス

第二十三條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十四條 造酒搾り器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ

置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請クヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出

再封ヲ請フヘシ

○十六番 細川 潤次郎 第二十四條「請クヘシ」ノクノ字ヲ「フ」

ト修正スヘシ

○三番 神田 孝平 賛成

○議長 十六番ノ修正ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○卅一番 玉乃 世履 賛成

○議長 他ニ動議ナクシテ第二十二三條ノ決ヲ取ラン原按ヲ

可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス續テ第二十四條十六

番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ十六番ノ修正ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十五條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込

ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十六條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳

ヘ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標

札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

○議長 原按ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十八條 藥用ノ酒精アルコト并ニ藥種ヲ混和スル酒類

ヲ製造營業スル者モ總テ此稅則ニ從フヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケシテ製造シタル者ハ其酒類

及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許稅額二倍ノ金額ヲ科シ之

ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ

併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代

價ヲ追徵スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據

テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ

金額ヲ科スヘシ

○廿二番 大給 第二十八條ハ删除スヘシ何トナレハ藥用ニ供

スル酒類ハ一滴能ク貴重ノ生命ヲ救フノ功アリテ實ニ有益

無害ノ者ナリ固ヨリ製造營業稅ヲ課スヘカラス且其製造モ

亦數萬石ニ上ル者ニアラス豈之ヲ以テ有害無益ノ酒類ト同

一視ス可ケンヤ回顧スルニ明治十二年内務大藏兩省ノ達ニ

モ「從來酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣藥免許鑑札下附

致來候向モ有之候處右ハ醫藥ニ供スル別紙記載ノ品類ヲ除

クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スルモノハ假令藥品ヲ配伍スト

雖モ總テ酒類稅則ニ據リ課稅可致就テハ是迄下付致居候鑑

札ハ返納致サセ可申云々」トアリテ其別紙ノ第一ニ酒精ヲ

置ケリ此酒精ナルモノハ即チ本按所謂藥用ノ酒精ナリ試ニ

看ヨ彼ノ甘硝石精、ホフマン氏鎮痛液ノ如キハ一滴千金ノ

功能アルモノナルニ其實酒類ニ近キヲ以テ之ニ保命酒養老

酒ト同ク卅圓ノ稅ヲ課スルハハ遂ニ有害無益ト有益無害ト

ノ區別ナキ者タルニ至ラン故ニ本條ハ删除シテ可ナリトス

○廿六番 紫原 贊成

○議長 廿二番ノ修正ニ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○卅一番 玉乃 世履

廿二番ヲ贊成ス蓋シ東京ハ開化ノ中心ニシテ

戶戶既ニ甘硝石精ヲ貯フルノ景況ヲ現スルモ猶往々漢醫ニ

依頼スルモノアルヲ見ル東京且然リ況ヤ寒郷僻地ニ至テハ

漢醫猶ホ七八分ノ多キヲ占ムルヲヤ夫レ甘硝石精ハ「アル

コール」ニ硝石精ヲ混和シタル者ニシテ其人命ヲ救フヤ實

ニ少々ナラス然ルヲ一概ニ酒精ヲ含ムトシテ之ニ三十圓ヲ

課セハ萬一官立病院ノ醫員等地方ニ派出スルニ方リ一患者

アランニ僅々ノ甘硝石精ヲ得ハ忽チ其命ヲ救フヲ得ヘキ

ニ藥舖ハ納稅ノ苛ナルニ苦ミ之ヲ貯ヘ之ヲ製セサレハ遂ニ

救フヘキノ命モ救フ可ラサルニ至ラン豈遺憾ナラスヤ本官

ハ是等ノ理由ヲ以テ廿二番ヲ贊成ス

○八番 山口 尙芳

本條起草ノ意ヲ察スルニ近來流行スル所ノ補血

酒或ハ健胃酒ト唱ヘ些少ノ藥品ヲ混和シテ以テ藥酒トナシ

其實銘酒ニ同キモ名ヲ變シテ連稅ヲ爲スノ弊ヲ矯ムルニ在

リトス恐ラクハ論者ハ本案ノ意ヲ誤解スルモノナラン

○卅一番 玉乃 世履

八番ノ說ハ修正ノ反對ニ似テ非ナル者ナリ蓋

シ八番ハ之ヲ銘酒ト誤リシモノナルヘシト雖モ更ニ熱讀セ

ハ其藥用ノ酒精ノ字ニテ意味了然タラン今廿二番ノ朗讀セ

シ明治十二年内務大藏兩省ノ達ニモ酒精ヲ藥酒中ノ冒頭ニ

置ケリ兩省ノ達書既ニ此ノ如シ豈動カス可ンヤ是ニ由テ之

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

ヲ觀レハ八番モ猶吾黨ノ贊成者ナリ

○十二番 楠本 正隆

廿二番ヲ贊成ス本官會テ地方官タリシ時藥用

酒稅ヲ免除センコトヲ大藏省ニ申稟セシニ同省ニハ其藥用非

ニ衛生局長ノ保證ヲ得テ其區別ヲ立テ始メテ之ニ免稅スル

コトヲ得昨年二月ニ於テ其旨ヲ布達センコトアリ然レハ今日ニ

至テハ官民共ニ之ヲ領承シ決シテ連稅ノ爲ニ非藥酒ヲ藥酒

ト詐稱スルノ憂ナシトス假ヒ之アリトスルモ法律豈許スヘ

ケンヤ藥酒ハ多量ニ製造濫用スル者ナキニ於テヤ惟フニ

本按ハ一般ノ釀造酒ヲ網羅セントスルノ精神ヨリシテ誤テ

此極ニ至リシモノナラン

○八番 山口 尙芳

本文若シ藥用ノ酒精ヲ製造云々トアラハ修正ノ

說或ハ是ナリ苟モ藥用ノ酒精并ニ藥種ヲ混和スル酒類トア

リテ並ノ字ハ及ノ字ト同意ナレハ是ヲ以テ見解ヲ下サハ酒

類ノ字即チ本條ノ骨子ニシテ酒精ト藥種トヲ混セン酒類ト

云フノ意味判明タリ然ルニ若シ之ヲ削レハ甘草ヲ銘酒中ニ

混和スルモノモ直ニ連稅スルコトヲ得ヘキニアラスヤ此類尙

多シ本條ハ決シテ刪ルヘカラス

○卅三番 渡邊 輕々

輕々ニ讀過スレハ廿二番ノ說或ハ然リト雖モ

克ク本條ノ精神ヲ叩ケハ「酒類ヲ製造營業スル者モ」ノ十

一字ヲ主トシ「藥用ノ酒精ノ五字」ハ客ナリ即チ藥用ノ酒精ト藥種トヲ混和スル酒類ヲ製造スル者ヲ云フノミハ番ノ説是ナリ若シ本條ヲ削除セハ本官ハ奸商ノ輩出センヲ恐ルナリ

○卅一番 玉乃 世履 本條ハ廿二番ノ見解ヲ舍テ他ニ讀法ナシ例ハ「ビール」ハ麥酒ナリ麥酒ハ「ビール」ナリト云フカ如シ本條ニ酒精ノ字アリ第二類ニ燒酎アリ酒精ハ燒酎ト同物ナリヤ決シテ否ラス何ヲ以テ之ヲ言フ按中已ニ其名ヲ異ニセリ名ノ異ナルハ即其實ノ同シカラサレハナリ況ヤ現行法ニ酒精ハ酒ニ非ストアルニ於テヤヤ而シテ其藥酒ノ成分ヲ問ヘハ酒精亦其一部ニ居ル即酒精ニ硝石精ヲ混和スレハ甘硝石精トナルナリ然ルモ強テ之ヲ藥用ニアラサルノ酒ナリト云ハ、本文ノ如キ書法ニテハ到底讀ム能ハサルナリ

○卅三番 渡邊 蓋シ藥用ノ酒精モ一種ノ藥ナリ他ノ藥種モ亦皆一種ノ藥ナリ故ニ兩様分析セハ或ハ同一ナルヲ覺フ内閣委員ニ問フ起草ノ趣旨果シテ如何

○一番 戸田 秋成 酒精ノ藥用飲用ニ供スルハ其度ノ強弱ニヨルヘシト雖之ヲ甄別スル甚タ難シ近來ハ鶏肉ケレー酒ト唱ヘ又ハビツトルト稱スル等ノ酒類盛ニ世ニ行ハル、モ之ヲ分析セハ其分子ハ皆酒ニシテ所謂保命酒等ト一般ノモノナリ

ニ之ヲ爲スヲ得ヘキモノナリ然ルニ甘草ヲ混和シテ藥酒トスルノ類ヲ驅リ苟モ酒ト稱スル流動體ノモノハ其何タルヲ論セス一々之ニ課税スト云フハ畢竟人命ヲ輕ンスト云フモ不可ナカラン思フテ此ニ到ラハ本官ハ全會一致シテ刪除説ニ決ス可キヲ信スルナリ

○八番 山口 抑々「藥用ノ酒精」ノ五字ハ故ニ掲ケサルモ可ナルニ似タリ然ルニ之ヲ掲ケンハ第二條中三類ノ注ニ銘酒味淋云々トアリテ藥用酒ニ及ハサルニ依テナラン惟フニ本條ハ銘酒トスルモ尙可ナルカ如シ只其然ラサルハ三類ノ酒ヲ汎稱スルニ在レハナリ蓋シ立案者ハ藥酒ハ多ク「アルコール」ニ取ルヲ以テ特ニ藥用ノ酒精ト掲ケンモノナラン故ニ解ヲ下シテ酒精ヲ混和スル云々又ハ藥種ヲ混和スル云云ト見ハ反對論者モ更ニ容喙ヲ要セサルヘシ

○卅一番 玉乃 世履 八番ハ口ニ反對ヲ稱スルモ其心ヲ推ハ反テ刪除説ナリ何トナレハ其説ニ云ク第二條中三類ノ注ニ銘酒味淋云々トアリテ藥用酒ニ及ハサルニヨリ之ヲ此ニ掲出セリト是レ八番ハ本條ヲ銘酒トナスニアラスシテ何ソヤ果シテ銘酒ナリトセハ何ノ爲ニ本條ニ掲出セシヤ法律ハ此ノ如キ曖昧ナル者ニアラサルナリ

○卅三番 渡邊 本官ハ内閣委員ノ言ヲ聞キ前論ノ誤謬ナルヲ酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

蓋シ銘酒ノ事ハ已ニ前條ニ掲クルヲ以テ故ニ再出スルハ又贅物ニ似タリト雖モ廿二番ノ朗讀セル内務大藏兩省ノ違害消滅セサルノ間ハ故ニ本條ヲ掲ケスンハ或ハ誤解アラランヲ恐ル、ナリ

○廿二番 大給 恒 内閣委員ハ酒精ト燒酎ト其度ノ強弱ヲ知ルハ難シト辯スレモ是自ラ區別ナキハ能ハス若シ其區別ナントセハ豈其名ノ異ナルアラシヤ惟フニ甘草ヲ混和シテ藥酒ト稱スルモノ、類ヲ以テ一滴人命ヲ救フノ甘硝石精等ニ推及シ之ヲ收稅部中ニ入ル、ハ不經モ亦甚シカラシヤ況ヤ其酒タルト否ラサルトハ已ニ大藏内務ノ公令之ヲ明示スルニ於テヤヤ

○十二番 楠本 正隆 藥種ヲ混和シ藥酒ト稱シ以テ逋稅ヲ計ルコト能ハサルハ他ニ實藥規則ノアルアリ假ヒ藥酒ト稱スルトモ豈之ヲ避クヘケンヤ必スヤ検査委員ハ其免許狀ヲ見テ尋常一般ノ酒ト割判スルハ易々タルヘク主任官モ亦甘草等ヲ混和シタルヲ以テ直ニ藥酒トシ輕々其免許鑑札ヲ附與スルコトアルヘカラス然ラハ則チ詐欺逋稅ヲ爲サントスルモ到底得ヘカラサルモノトス

○十番 實作 本官ハ内閣委員ノ辯明ヲ聞クニ及テ始メテ刪除ノ勝レルヲ知レリ且其藥用タルト否ラサルトノ分別ハ容易

曉レリ故ニ機會ヲ得テ更ニ自己ノ修正ヲ提出セント欲ス

○十六番 潤次郎 原按ヲ可トス惟フニ藥用ノ酒精及藥種ヲ混和スル酒類ト解セスシテ單ニ藥種ヲ混和スル酒類ト解セハ三類ノ範圍ヲ出テサラン既ニ三類ノ範圍ヲ出テストセハ納稅ハ藥舖或ハ醫員之ヲ辨スルカ決シテ然ラサラン之ヲ辨スル者ハ必ス製造人ナリ元來本條ハ内閣委員ノ辯セシ如ク三類ノ範圍内ニ在ルヘシト雖モ或ハ藥酒ヲ混和シテ逋稅スルモノアルノ弊ヲ防クカ爲ナリ而シテ藥用ノ酒精ハ其度ノ強弱ヲ辨スル何ノ難キコトカ之アラシト三十度乃至九十度ノ強キヲ「アルコール」ト稱スルヤ推テ知ルヘシ蓋シ第三類ニ藥用酒ノ事ナキハ元來藥品ト命名スル者ハ酒造規則ヲ以テ論スルノ限ニアラサレハナリ

○卅三番 渡邊 人命ヲ救フヘキモノニ課税スルハ不可ノ甚シキ者ナリ況ヤ本按ハ酒稅規則ナルニ之ニ藥稅規則ノ看ヲ爲スハ不可ナルニ於テヤヤ惟フニ酒屋ニシテ豈藥ヲ造ルノ暇アラシヤ知ル可シ藥ヲ造ルハ其藥舖ナルコトヲ

○十六番 潤次郎 卅三番ハ吾心ヲ得タリ各位モ藥品ニ疑問アルニヨリテ云々スレモ藥用ノ酒精并ニ藥種ヲ混和スルノ酒類トアルヲ見ハ藥品ニアラスシテ其酒類ナルコトハ自ラ了然タラン

○議長 第二十八條廿二番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ第二十八條ハ廿二番ノ修正ニ決ス更ニ第二十九條第三十條原按ヲ可トスル者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決シ本會ハ茲ニ閉ツ後會ハ明後十三日ニ開ク可シ散會セヨ
正午閉場

元老院會議筆記 明治十三年九月十三日

○第百九十九號議案 酒造稅則布告按、醫藥營業稅則布告按、自家飲料酒類製造限布告按
第二讀會 九月十一日

議長 佐々木高行 代理

出席議員

- 一番 楠田 英世
- 三番 神田 孝平
- 五番 東久世 通禧

内閣委員 番外大藏權大書記官 戸田 秋成
午前第九時四十五分開場

○議長 本日ハ議長欠席ニ依リ本官代理ヲ爲シ第百九十九號議案第二讀會ノ續キヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ
書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十一條 造酒石數ノ検査ヲ受ケスシテ賣捌キタル時ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造酒石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造酒石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ
但未製成ノ酒類もともろト雖モ隠蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消糜シタル者ハ其石數ニ係ル造酒石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違反スル者ハ壹圓ヨリ少ナカラス三拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

○議決 本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ルヘシ

○十番 鑿詳 本官ハ第三十四條ノ下ニ假規則ト題シ第五章第酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造限案

三十五條ヲ増補セントス其文ハ「第五章假規則第三十五條葡萄酒并麥酒ヲ釀造スル者ハ免許鑑札稅ヲ納ム可シト雖モ造酒石稅ハ當分ノ内之ヲ免除ス」ト爲サント欲ス

○議長 抑々問題ニ與セス更ニ修正ヲ爲サント欲セハ論條未決ノ前ニ於テ豫メ發議スルヲ成規トス然レモ今十番増補說ノ如キハ元論條ニアラス又次條ニモアラス未タ此ノ如キ發議ノ慣例アルヲ知ラサルニヨリ之ヲ各議員ノ衆議ニ問ハントス

○十番 鑿詳 若シ成規ナシトセハ唯議長ノ特權ニ任スヘキノミ

○議長 今茲ニ十番ノ増補說アリ稍ヤ成規ニ觸ル處アルヲ以テ之ヲ衆議ニ決セン

○八番 山口 建言ス抑々論條決定ノ後ニ臨テ廢棄ハ増補等ノ發議アルハ本官未タ曾テ之ヲ聞カス若シ議長ノ意見ヲ以テ一時臨機ノ決ヲ敢ルハ妨ケナキカ如キモ「ハニ」之ヲ各議員ノ決ニ附セハ恐ラクハ向後ノ慣例法トナラン議事ノ整頓ハ素ヨリ議長ノ特權ナリトスルモ各官ノ意見ハ充分討論セシメラレンコトヲ欲ス

○議長 十番ノ増補說ハ縱ヒ理由アリトスルモ尙第三讀會ヲ待テ發議スルモ未タ晚シトセス強テ其說ヲ制止スルニハア

ラサレレ只其無限ノ發議ヲ嫌フナリ然レモ十番ノ此議ヲ發スルハ未タ成規ニ熟セサルノ致ス所ナレハ今日ヲ限り發議ヲ許スヘキ否ヤノ決ヲ取ラント欲スルナリ

○八番山口 取捨ハ議長ノ特權ナレハ敢テ蛇足ヲ添フルヲ須ヒスト雖モ只一時ノ臨機法ニシテ將來ノ例法トナラサラン

トヲ欲スルノミ

○議長 素ヨリ然リ從來右等ノ規則ニ就テハ往々異議アル所ナリ因テ一時ノ活法ヲ用井特別十番發議ノ許否ヲ衆議ニ決セントス之ヲ採用スルヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ十番ノ發議ヲ許ス

○十番 麟祥 却説已ニ陳述スルカ如ク本官ハ第五章假規則第三十五條「葡萄酒麥酒ヲ釀造スル者ハ免許鑑札稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ當分ノ内之ヲ免除ス」トノ一項ヲ加ヘン

ト欲スルナリ蓋シ此事タルヤ現行規則中ニハ其明文ナキモ大藏省ノ取扱心得規則ニハ既ニ此旨ヲ掲載セリ抑々法律ヲ執行スルニ方リ行政官ニ於テ其取扱規則ヲ設クルハ至當ナリト雖モ其規則タル只是法令ヲ執行スルノ手續ニ止マリテ固ヨリ之ヲ一般ニ公示スル法律ニ非ス然ルニ其法律ニ掲ケサル葡萄酒麥酒等ノコトヲ彼ノ規則ニ載セ而シテ本按ニハ却

造品ニ稅ヲ課スルハ却テ其輸入ヲ促スノ理ナリ豈不都合ナラヌヤ

○一番 楠田 本官モ十番ノ説ニ同意ス已ニ第二條ノ第一類中ニ葡萄酒麥酒等モ包括スルノ原則ナリトセハ豈拔テ之ト區

別セサルヲ得ンヤ然レモ物産ヲ獎勵スルヲ主眼トセハ免許鑑札稅モ併セテ賦課セサルヲ可トス仍テ更ニ内閣委員ノ再辯ヲ煩ハサントス

○議長 十番ノ説ニ贊成者アルヲ以テ問題トナス

○卅三番 渡邊 本官ハ葡萄酒麥酒ハ第二條第一類ニ入ラサル

モノト思考ス何トナレハ布告按ニ從前ノ布告ハ廢止ストアリ且明治八年第二百二十二號布告ニハ葡萄酒麥酒ノ項アルヲ見ス本按ハ則チ其代用ナル者ナリ何ソ其類アランヤ然リト雖モ若シ之ヲ第一類中ニ入ル、モノナリトセハ本官ハ斷シテ免許稅ヲモ併免スヘキモノトスルナリ

○廿六番 柴原 本官ハ十番ノ説ニ疑ヒナキニアラス向ニ内閣

委員ハ葡萄酒麥酒等ハ第一類中ニ在リト辯明スト雖モ是卅三番ノ説ノ如ク斷シテ其謬ナルヲ知ル何トナレハ八年ノ布告中ニ其之ナキヲ以テナリ仍テ該酒類ニ限り免許稅モ亦之ヲ課セサルモノトス已ニ然リ又何ソ別條ヲ立スルヲ須ンヤ

○番一 秋成 卅三番廿六番ノ駁議ニ就テハ答辯セサルヲ得

酒造稅則案、釐餉營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

テ之ヲ掲ケサルハ亦不備ナラスヤ且内閣委員ノ説明ニ由レハ此類ハ第二條ノ第一類ニ入ル、モノナリト云ヘリ果シテ然ラハ其稅額ヲ收入スルモノナルヤ明カナリ然ルニ葡萄酒麥酒ノ如キ元是レ外國ノ輸入品ニシテ目下輸出入ノ議ニ於テハ宛モ世上ノ一問題タリ之ヲ要スルニ彼ノ輸入ノ數ヲ減少セント欲セハ務メテ自國ノ製造ヲ獎勵スルニ如カス故ニ此ノ如キハ單ニ之ヲ取扱手續キニ掲クルヲ須ヒス公然法律ニ明載スルヲ可トス蓋シ本官ノ假規則ト稱スルモノハ數十年ノ後ニ至ル迄其造石稅ヲ納メサラシムルノ意ニアラス乃チ其輸入品ヲ制スルニ至ルヲ以テ期トスレハナリ仍テ通常免許鑑札稅ハ之ヲ納メシムルモ當分其造石稅ヲ免除セント欲スルノミ

○卅一番 玉乃 贊成ス蓋シ其理由二箇アリ第一ニハ大藏省等

時宜ニ依リ特ニ省中限リノ取扱規則アリテ太政官ノ布告ニ反對シ之カ爲メ遂ニ人民ヨリ裁判ヲ仰クニ至ルノ恐レアレハ寧ロ葡萄酒等ノ如キハ公然之ヲ法律ニ明掲シ以テ此等ノ障碍ヲ防制スヘシ第二ハ輸出入ノ事タル目下社會ノ一大問題ニシテ殊ニ慨ム條約ノ改正未タ整頓セス治外法權ハ尙恢復スル能ハス故ニ輸入品ノ一タル葡萄酒麥酒ニ保護稅ヲ課セント欲スルモ亦得ヘカラサルノ時ニ在テ直ニ自國ノ製

ス卅三番ハ八年第二百二十二號布告ニ葡萄酒等ノ沙汰ニ及ハサレハ其代用タル本按ニハ決シテ之ナキ管ナリト云フハ推

諷モ亦甚シ且廿六番ハ前則中明文ナキヲ以テ内閣委員ノ言ハ斷然謬誤ナルヲ知ルト云フハ豈妄斷ト云ハサルヘケンヤ蓋シ葡萄酒麥酒等モ素ヨリ釀造ノ酒類ナリ既ニ釀造ノ酒類トセハ第二條第一類ナル其他ノ字中ニ含蓄スルヤ明カナリ然ルニ一ハ舊法ニ之レナクハ本按モ亦之レナカルヘシト推諷シ一ハ内閣委員ノ説明ハ誤謬ナリト斷定スルハ抑々何ノ理由ナリヤ本員ハ其レ之ヲ解スル能ハス

○卅三番 渡邊 委員ハ本官ノ旨意ヲ誤解セリ抑々酒造規則ハ

酒類稅則ノ代用ナリ既ニ本按ノ出ル以上ハ明治八年酒類稅則ノ廢止スルハ論ヲ俟タス然ハ則チ其之ニ關スル種々ノ布達等モ亦皆廢止スルモノタルハ知ルヘキノミ

○八番 山口 十番ノ增補按ハ大ニ可ナリトス廿六番卅三番等

ノ見解ハ太タ誤レリ夫レ明治八年大藏省達第七十六號第三條ノ取扱心得書中ニ葡萄酒ノ事ヲ記載セリ然ルニ今其酒類稅則ヲ改正シテ酒造規則ヲ頒布スル上ハ彼ノ取扱心得書ノ如キハ原則ト共ニ廢止スルモノナレハ本按第二條第一類中ニ葡萄酒麥酒モ含有セリトノ説明ハ本官最モ之ヲ信スルナリ故ニ十番ノ修正説ノ如ク假規則ヲ增補スルヲ至當トス其

理由ハ已ニ十番卅一番ノ舌頭ニ盡セルカ如ク葡萄酒輸入品ヲ防カントセハ自國ノ製造ヲ盛大ニスルニ如カス

○廿二番 大給 十番修正ノ旨意ハ嘉スヘシト雖モ他ニ不充分ナル所アルヲ以テ遽ニ賛成スル能ハス抑々法律ハ其精神ノ貫徹スルヲ以テ主腦トス然ルニ酒造規則ノ末尾ニ於テ更ニ假規則ノ一條ヲ追加シ當分ノ内云々ト掲ケル如キハ太夕律文ノ體裁ヲ欠ケリ此ノ如キハ寧ロ別途ニ布達スルモ可ナラシ故ニ之ニ同意スル能ハサルナリ

○廿六番 榮原 第二條第一類其他ノ字義ニ付テ内閣委員ノ駁撃ヲ得タリ然ルニ若シ葡萄酒等ノ如キモ其他ノ字句中ニ包括スルモノトセハ本官別ニ論スル所アリ即チ葡萄酒麥酒ハ稅則中ニ入レサルヲ宜シトス又八番本官ハ本按ヲ誤解スト云フモ本官ハ只原則ニ據リ葡萄酒麥酒ヲ本按中ニ入ル、ヲ好マサルヲ以テ即チ製造稅免稅トモ全ク併セ課セサルヲ欲スルノ精神ナリ固ヨリ誤解スルニアラス

○十五番 安場 第二條第一類ニ麥酒等ヲ包含スルハ其他ノ字ニテ知ルヘシトノ說アレモ太夕曖昧ノ辯ト云ハサルヘカラス若シ果シテ之アリトセハ何ソ明瞭ニ揭示セサルヤ今十番ノ修正ハ總當ナルニ似タレモ尙一番ノ說ノ如ク一步ヲ進メテ免稅稅モ併セ課セサルヲ可トス仍テ尙シ十番ノ說廢棄ニ

サルヲ以テナリ仍テ本官ハ茲ニ附則ノ目ヲ以テ本按ノ大尾ニ附シ夫ノ自家飲料ノ如キ亦之カ附則ニ加ヘテ至當ナラン故ニ若シ十番ノ說消滅ノ機會ヲ得ハ本官ハ更ニ之ヲ提供セントス乃チ十番ノ發議ニ同意セサル所以ナリ

○卅一番 玉乃 十六番陳述ノ旨趣モ亦一理由アリト雖モ是レ十番ノ說ト大同小異ニシテ尙シ之カ爲メニ目下ノ問題消滅セハ甚ク遺憾ナリトス例ヘハ茲ニ一ノ脚氣病者アリテ漢醫獨リ之カ治療ヲ司リ他ニ獨佛等ノ名醫兩人アリテ共ニ之ヲ診察スルニ漢醫ハ始終麥飯小豆ヲ食ハシメテ以テ得意ト爲スモ他ノ二醫ハ一ハ健胃ノ要ヲ說キ二ハ補血ノ利ヲ述フル如ク纒カニ其見ヲ異ニスルヨリ遂ニ分歧シ自ラ手下スニ由ナク靦然漢醫ノ姑息法ヲ破ル能ハスハ豈其レ遺憾ナラスヤ今十番十六番等ノ說ハ大同小異ニシテ恰モ漢醫治療ノ如キ原按ニ反スル二醫ノ良按ナルモ若シ合一スル能ハスンハ到底全ク反對ナル原按ニ敗ラル、ノ恐レアルヲ以テ已ムヲ得ス茲ニ此一諭ヲ舉テ各位ノ注意ヲ煩ハサントス

○卅三番 渡邊 十番ノ說ニ葡萄酒麥酒ヲ釀造スル者ハ概テ富有者ナレハ營業稅ヲ課スルモ妨ケナント云ト雖モ本官ノ見ル所ハ決シテ否ラス抑々酒造家ハ其外見頗ル富饒ナルモ其内實必ス然ラサルモノ多シ加之葡萄酒麥酒ノ釀造ハ吾邦ニ於

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

至ラハ更ニ自己ノ修正說ヲ提出セントス

○十番 實作 縱ヒ委員ノ辯明ナキモ其他ノ二字ヲ掲ケ且八年大藏省取扱手續ニ載ルヲ以テスレハ則チ此中ニ包含セルヤ疑ヲ容レズ且廿六番等ハ鑑札稅ヲ併セ課セサルヲ可トストノ說アリト雖モ葡萄酒亦釀造ルナレハ其釀造稅ヲモ賦セスト云フハ彼是不平均ナルヘシ又廿二番ハ本條ヲ挿入スルノ位置ヲ不可ナリトスルモ亦他ニ入ルヘキノ所ナシ故ニ之ヲ最後ニ置キタルナリ蓋シ該條素ヨリ假規則ニシテ條中已ニ當分ノ内トアレハ之ヲ條尾ニ入ル、ヲ以テ至當ナリトス何ソ之カ爲メニ法律ノ體裁ヲ缺クヘケンヤ若シ葡萄酒麥酒モ釀造物ナリト云ハ、之ニ十分ノ稅ヲ賦ス可キモ只當分ノ内其稅ヲ課セスト爲サハ是ニ假規則ノ目ヲ付スルヲ可ナリトス或議官ハ鑑札稅モ免スヘシト切論スト雖モ素是造石稅ト同シカラス且縱ヒ何石ヲ造ルモ三十圓ニ止マリ特ニ麥酒等ヲ釀造スルハ通常多ク資力アル者ナレハ該稅ノミ課取スルモ敢テ妨ケナキナリ

○十六番 細川 十番ノ說ハ其意可ナリト雖モ本官ハ稍々趣ノ異ナル所アルヲ以テ直ニ同意スル能ハス如何トナレハ本按ハ已ニ三十四ヶ條ヲ以テ其罰則ニ至マテ悉ク結成セリ然ルニ其末項ニ於テ更ニ假規則ヲ補入スルハ甚ク體裁ヲ得

テ猶稀ナル營業ニシテ其經驗熟達スルニ自ラ多小ノ歲月ヲ閱シ其間幾許ノ失敗ヲ來シ焉ソ易々利益ヲ生スルヲ得ンヤ然ルニ若シ初メヨリ直ニ三十圓ヲ賦課ストセハ是レ營業ヲ制止スルト一般ナリ此等ノ事情アルヲ以テ本官務メテ其稅ヲ免除シ大ニ之ヲ勸誘セント欲スルナリ

○八番 山口 十六番ト十番ト旨趣ニシテ聊條款ノ位置ニ少異アルノミ實ニ卅一番ノ杞憂ノ如ク預少ノ支離ヨリ恐クハ十番ノ良說モ消滅シテ遂ニ一般否トスル所ノ原按ニ可決スルニ至ラン豈遺憾ナラスヤ故ニ本官ハ勉メテ支葉ノ同異ヲ去テ切ニ大體ノ一致ヲ爲サシメンコトヲ希望ス

○議長 十番ノ說ニ同意者ハ起立セヨ
起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ十番ノ說ハ消滅ス

○十五番 安場 前ニ陳述スル如ク本官ノ修正ハ鑑札造石兩稅トモニ課セサルヲ可トスルナリ請フ賛成アラントラ

○十二番 楠本 賛成

○議長 十五番ノ說ニ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○十一番 秋成 葡萄酒麥酒ノ事ハ現行法律ニ之ナキモ既ニ取扱手續中ニ明載シ現ニ其稅ヲ徵スルニ毫モ妨ケアルコトナシ知ラス今何ノ理由アリテ全ク之ヲ無稅ニ付セントスルヤ此

ノ如キハ造釀者ヲシテ幾分利益セシムル所アルヘシト雖モ政府ヨリ平等ニ之ヲ見ハ其無稅トナルノ理ハ最モ看出ス能ハサルナリ

○十五番 安場 保和 内閣委員ハ無稅ト爲スノ理由ナシト云ヘモ若シ其理由由輸入ヲ平均スルノ點ニアラハ即チ其由ナキニラス且政府從來懇誘勸獎以テ國產ヲ興起セントスルモ未タ其効ヲ見サルモ目下課スル所ノ稅ヲ免除セハ特ニ一時ノ獎勵ノミナラス大ニ將來産業ヲ旺盛ナラシムルノ地步ト云フヘシ

○一番 楠田 英世 本官別ニ思考アリ抑々産業ヲ獎勵スルハ其時宜ヲ量ラサル可ラス方今葡萄酒麥酒ノ如キハ固ヨリ輸入品ニシテ吾國未タ以テ其製造熟達ニ至ラス今之ヲ興隆セント欲スレハ特リ免稅ノミナラス財産ナキ人民ニハ其勸獎ノ爲メ官ヨリ資本ヲ貸與シ之ヲ醸造セシメ其成功ヲ奏スルノ日ニ於テ初メテ課稅ヲ議スルモ決シテ晩シトナサス是本官カ毎ニ希望スル所ナルヲ以テ豫メ之カ説ヲ爲シ以テ問題ノ興廢如何ヲトス

○外一番 秋田 輸出ノ平均國產ノ繁殖等ノ點ヨリ論到シ之ヲ骨子トシテ今鑑札稅ヲモ併免セント云フニ至テハ無乃大簡ナカランカ前二十番ノ説ハ原按ノ主義ニ反スト雖モ其理

安場 十番 麟祥 廿六番 柴原 ヲ以テ委員トシ其報告ヲ待テ開會セン散會セヨ

午後零時第二十分閉場
午後第一時二十分開場

退席 一番 楠田 英世
同 十七番 伊丹 重賢
同 廿二番 大給 恒

○議長 酒造稅則ノ末條增加ノ説ハ午前ノ會議ニ於テ委員ニ托シタレハ之ヲ其修正報告ノ後ニ讓リ本會ハ醫麴營業稅則布告按ヨリ逐條議ニ付スヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

醫麴營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候事

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

酒造稅則案、醫麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

由明晰ナルニヨリ本員ニ於テモ心筋カニ之ヲ可トセリ然ルニ今十五番ハ其極點ニ進ミ之ヲ無稅ニ付セントスルハ縱ヒ其國產獎勵ニ小利アルモ決テ稅法斯ノ如クスヘカラサルナリ故ニ本員ハ更ニ十番ノ中庸說ヲ挽回セラレンコトヲ望ム

○十六番 柴原 和 十五番ヲ贊成ス已ニ消滅シタル彼ノ十番ノ説ノ如キハ寧ロ本按ニ登錄セサルヲ可トス然ルニ委員ハ既ニ十番ノ説ニ同意セリト明言スルハ思フニ是原按ノ不満足ナルヲ省悟スルモノナランカ若シ如今ノ問題消滅セハ遂ニ不満足ナル原按ニ可決センコトヲ恐ル仍テ更ニ修正委員ヲ設ケ本按ヲ附托セラレンコトヲ建議ス

○十七番 重賢 贊成

○十八番 玉乃 贊成

○十九番 渡邊 贊成

○二十番 昇 贊成

○廿一番 大給 贊成

○議長 前二十番ノ發議ハ既ニ消滅セシモ更ニ十五番ノ修正説ヲ生シ此ニ問題ノ決議ヲ取ラント欲スルニ方リ廿六番等ノ建議アリ仍テ其發議ニ依リ本條ハ修正委員ニ托セントスルニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ委員ヲ設クルコトニ決シ乃チ十五番

醫麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 醫麴 釀造酒類 類ヲ營業 製造受賣 スル者ハ其旨管應ニ願出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醫麴營業稅 一期金五拾圓

○十二番 楠田 正隆 本官ハ本按ノ稅額ヲ修正セントス抑々醫麴ハ酒ノもとナレハ之ヲ酒ト同一ニ看做シ相當ノ課稅ヲ付セントスルハ至當ナリ然レモ本按ヲ熟視スルニ却テ酒造稅額ヨリ過多ナルヲ覺フ加之夫ノ自家飲料ニモ加稅スルハ抑々未會有ノ事ナラスヤ故ニ斯ノ如キハ偏重不均ト云ハサル可カラス且實際ヲ考フルニ其酒家ヨリ求ムル所ノ麴ハ稀少ニシテ自家釀造ニ供スルモノ却テ多キニ居レハ一期中其所得スル純利金モ亦二百三百圓ニ上ルハ恐ラクハ難カルヘシ是ニ由テ之ヲ觀レハ豈五十圓ノ稅額ヲ課スルヲ得ヘケンヤ起草者或ハ謂シ今醫麴稅ヲ薄クスレハ自釀ノ數倍蓰シテ釀造家ノ營業ハ爲メニ衰頹スルニ至ラン故ニ醫麴ノ數ヲ減セサルヘカラスト或ハ然ラン然リト雖モ夫ノ自家用料ニ迄法律ヲ以テ干渉スルハ元ヨリ不可ナルモノナリ依テ酒造鑑札稅

ト同ク之ヲ三十圓ニ修正セントス

○十五番 安場保和 十二番ノ説ヲ賛成シテ併テ其不備ヲ補ハントス人或ハ醬麴ニハ造石税ナキヲ以テ之ヲ矛盾トシ五十圓ノ

税目ヲ支持スヘシト雖モ實地純益ノ少キヨリ終ニ其得失相補フニ足ラサルヲ如何セン加之別ニ請賣小賣税アリ又以テ酒ノ造石税ト匹敵スルヲ得是本官カ該説ヲ賛成スル所以ナリ

○議長 十二番ノ説ニ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○外一番 秋田 本税五十圓ヲ三十圓トスル十二番ノ修正ハ或ハ其理由ナキニ非スト雖モ斯ク税額ヲ制定シタルハ又深キ理由アリテ然ルナリ夫レ醬麴ヲ酒造家ヨリ講求スルノ稀少ナルハ從來營業者ハ皆自家ニテ之ヲ造製スルヲ以テ慣習トスレハナリ故ニ今醬麴ヲ講求スルモノハ全ク自家醸造ノ爲ノミナリト云モ不可ナキナリ然ルニ其税額ヲ夫ノ酒造鑑札税ニ對シテ之ヲ課セントスルハ其説或ハ可ナルニ似タレモ抑テ課税ノ旨趣タル四箇ノ理由アリ其一ニハ茲ニ自家醸造ノ制限ヲ立シニハ寧ろ麴業ノ節減ヲ要セサルヘカラス其二ニ酒造家ニ醬麴營業ヲ許サストスレハ此業全ク專賣ノ權ヲ占有スルニ至ルナリ其三ニ其所得ノ純利金ハ之ヲ酒造家ニ比較スレハ同日ノ談ニアラサルナリ其四造石税ヲ免除スルナリ

右理由ニ依テ之ヲ見ルキハ一期五十圓ノ税額ハ敢テ酷苛ト云ヘカラサルノミナラス必ス斯ノ如ク爲サハルヘカラサルモノナリ願クハ此意ヲ諒セラレンコトヲ

○八番 山口尙芳 本官モ亦修正説アリ本按醬麴請賣者ニ五十圓ノ

免許税ヲ取ラントスルハ抑テ不可ナリ如何トナレハ請賣等ヲ爲ス者ハ概ネ目下貧民ノ勞力ヲ以テ生計ヲ營ミ多クハ恒産ナキ者ナレハ之ニ課税スルハ恰モ勞力ニ税スルト一般ナリ又五十圓ノ税額モ亦甚タ適當ナラス委員ノ説明ニヨレハ醬麴ニハ造石税ナキヲ以テ之ヲ課スルモ妨ケナシト云フカ如シ知ラス何ノ理由アリテ之ニ造石税ヲ課セサルヤ僅ニ十石ヲ作ルモノモ或ハ數百石ヲ作ルモノト同視シテ之ニ平等ノ税ヲ賦セントスルハ豈不公平ナル法度ナラスヤ然レモ十二番ノ之ヲ減シテ三十圓トスルノ説モ税法ニ於テ不是ナリ其故ハ本按ノ原則ハ其一石未滿ノ造酒ハ全國人民誰ニテモ之ヲ造ルヲ得ルモノトスレハ彼ノ現行規則酒類一種營業税十圓ニ擬シ然ルヘキ權衡ヲ取テ之ニ造石税ヲ課セシト要ス是其石税ハ酒石税ヲ折半シ一石一圓トセハ彼是相對シテ平均其宜ヲ得ンカ仍テ若シ如今ノ問題消滅セハ更ニ之ヲ提出セントス

○卅一番 玉乃世履 本官モ修正セント欲スル所アリ故ニ十二番ノ

説ヲ是ト爲サス然レモ亦之ニ關係ヲ持ツモノニモ非ス乃チ本按ノ字句ニ於テ間然スル所アルノミ今其説ヲ陳シ本税則第一條ニハ「營業スル者ハ」トアルニ夫ノ酒造税則第一條ニハ「營業セント欲スル者ハ」トアリテ其意味稍々差異ヲ生ス其「スル者ハ」トハ現在ノ場ヲ言ヒ「セント欲スル者」トハ未來ノ時ヲ云フモノニシテ兩按對照セハ太夕妥當ナラストス仍テ之カ修正ヲ爲サント欲スルナリ蓋シ是レ問題ノ外ニ涉リタレト特ニ其發論ヲ許サレンコトヲ希望スルナリ

○議長 問題消滅ノ上發論スルハ妨ケナシトス

○外一番 秋田 八番ヨリ豫メ修正ノ意見ヲ陳セラレシニ思フニ八番ハ醬麴ノ何物タルヤ誤解センモノ、如シ仍テ之ヲ

辯明セント欲ス

○議長 内閣委員ノ發言ヲ停止ス若シ八番ノ説問題トナルニ至ラハ其時之ヲ辯明スヘシ

○廿六番 榮原和 十二番ノ説ヲ賛成ス抑々本官ハ向ニ第一讀會

ニ當リ自家飲料ノ原按ヲ不是トシ之ヲ廢棄センコトヲ述ヘタリ然ルニ内閣委員ハ却テ之ヲ増税ノ精神ナリト説明ス惟フニ當時財政上ノ困難ヨリ止ヲ得ス此按ヲ草ストセハ一抹廢按スルモ亦忍ヒサル所アルヲ以テ更ニ修正ノ説ニ同意セリ

酒造税則案、醬麴營業税則案、自家飲料酒類製造定限案

然ルニ委員ハ猶一步ヲ進メテ或ハ之ニ倍蓰スルモ可ナリト云フニ至テハ實ニ苛酷ノ精神ト云ハサルヘカラス蓋シ醬麴ハ酒家自ラ製造スル者ニシテ全ク自家飲料ノ爲メニ製スル所ナレハ其造出高モ亦稀少ナルヤ知ルヘシ既ニ此ノ如キモノトセハ之ヲ十圓ニ減スルモ或ハ不可ナシト雖モ先ツ一步ヲ讓リ酒税ト同ク三十圓トナスヲ中庸ノ修正トナスナリ

○外一番 秋田 全體本税ヲ課スルノ旨趣ハ造石税ヲ課セサル

ト其利益酒ヨリ過多ナルトニ原スレハ詳細茲ニ論及セハ其至當間然ナキヤ必セリ仍テ之ヲ酒造家ニ比シ以テ五十圓ト爲スモ亦中庸ヲ執ルモノナリ然ルニ若シ之ヲ減シテ三十圓トセハ忽チ原則ノ權衡ヲ失シ收税ノ本體ニ影響ス殊ニ税率ハ皆其原ク所アリテ精密算勘上ヨリ配付スルモノナレハ希クハ各位深ク茲ニ注意アラシム

○卅三番 渡邊昇 本税ヲ五十圓ト定メシハ全ク酒造家ノ比較上

ヨリ來ルモノナレハ肯テ不可ナシトス然レモ若シ之ニ造石税ヲ課スルニ至ラハ減税セサルヘカラス是レ彼ニ増セハ此ニ減スヘキノ道理アレハナリ然ルニ醬麴營業ト酒造家トノ權衡ヲ用フルハ至當ナリト雖モ其請賣者ト製造家ト同一ノ税ヲ課スルハ最モ不可ナリ此ノ如キハ固ヨリ辯別セサルヘ

カラス仍テ問題消滅セハ別ニ修正説ヲ提出セントス

○十六番 潤次郎 原按ニテ可ナリ夫レ警麴稅ハ既ニ明治八年

ヲ以テ之ヲ設クルト雖モ遂ニ廢スヘキノ理由アリテ廢止セ
リ然ルニ今之ヲ課セントスルハ又自ラ理由アリテ然ルナリ
試ニ一例ヲ舉ンニ八年ニハ自家飲料ノ如何ヲ問ハス今ヤ乃
チ之ヲ問フ是レ其課稅セサルヘカラサル一因ナリ且巳ニ酒
稅ヲ增加スルニ至ラハ勢ヒ止ムヘカラサルモノトス然レモ
之ヲ酒ト均ク造石稅ヲモ併セ取ルトセハ必ス稅額ノ苛酷
ニ耐サルノ恐アリ仍テ彼此折中シテ茲ニ五十圓ノ免許稅ヲ
課スハ太タ穩當トシ其造石稅ノ如キハ課セサルヲ可ナリト
ス

○八番 山口 十六番ハ原按主持ノ説ヲ爲セリ豈一辯ヲ加ヘサ
ルヲ得ンヤ夫レ從來實行スル所ノ酒ノ請賣小賣稅ハ今之ヲ
免シ獨リ警麴ニノミ請賣稅ヲ賦シ殊ニ營業者ト同一ノ稅額
ヲ課セントスルハ何ノ理由ソヤ既ニ陳セシ如ク警麴ノ小賣
ハ夫ノ酒ノ小賣ヨリ輕易ニシテ貧民モ亦之ヲ成ヌヲ得ル者
ナリ然ルニ彼ハ巳ニ免シ此ハ免セストナスハ豈原則ニ悖ル
モノナランヤ内閣委員ハ警麴ニハ別ニ造石稅ヲ付セサレハ
五十圓ヲ以テ至當ナリト云ト雖モ本按ノ如キハ營業小賣ノ
分限ヲ立テス難易貧富ノ差別ヲ問ハス齊ク五十圓ト制定セ

尙芳

○十二番 楠本 卅一番ハ目下警麴製造ニ費ヤス所ノ米料過多
ナルヲ憂ルノ點ヨリ遂ニ本按ヲ可トスルノ説ヲ喋々スルモ
是恐クハ偏見ノ説タルヲ免レサランカ如何トナレハ自家釀
造ノ一方ノミヲ防止セハ却テ營業酒家ニ於テ之ヲ費ヤスノ
多キヲ致ス是自然ノ理勢ナレハナリ且縱ヒ米價ノ最高點ニ
達スルトモ酒奴ノ常ニ一升ヲ飲スル者ハ勢ヒ其料五合ニ減
セサルナリ故ニ本官ハ將ニ其説ヲ以テ坐上ノ空論且却テ米
ノ消費ヲ助クルモノト云ントス

○一番 戸田 如今十二番ノ説ニヨレハ縱ヒ米價ハ最高點ニ
進ムモノハ依然トシテ酒量減セサルヘシト云ヘリ若シ果シ
テ然ラハ稅額ハ四十圓トスルモ又五十圓トスルモ決シテ影
響ナキモノトス思フニ十二番ハ增稅説ノ贊成ノ一員ナリト
云フヘシ

酒造稅則案、警麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

シハ到底其所以ヲ看出ス能ハス且既ニ五十圓ノ稅金ヲ出サ
シムルカ如キハ苟モ百金以上ノ資本アル人ニ非サレハ其五
分ノ稅金ヲ收獲スルヲ得ス是レ商家ノ通利ナリ然ルニ今之
カ如何ヲ問ハス直ニ之ヲ課セントセハ愁訴歎願ノ徒ハ陸續
途ニ載テ酸鼻ニ堪サラシムルヤ必セリ看ヨ現ニ各營業稅ハ
其最多ノ者ニシテ漸ク十五圓ニ過キサルニ非スヤ知ラス警
麴商ハ何ノ因アツテ斯ル酷律ニ害メラル、ヤ故ニ本官斷シ
テ云ン果シテ本按ヲ實施スルニ及ハ、日ナラスシテ破産廢
業ノ者續々輩出スヘシト是ヲ以テ本官ハ切ニ現行規則ノ酒
一類稅金十圓ノ制ニ倣ヒ營業稅ヲ十圓トナシ別ニ造石稅ヲ
課セント欲スルナリ此ノ如クハ却テ全體ノ稅額ハ増進スル
モ畢竟富家ノ營業ニ影響スルノミニシテ夫ノ小賣行商ノ爲
メニハ大ニ幸福ヲ得ヘシ是又官民ノ兩便ナリトス

○卅一番 世乃 本官ハ問題ノ説ヲ否トス茲ニ略其理由ヲ説ン
ニ方今我國ニ於テ第一ノ困難ナルモノハ米價ノ騰貴是ナリ
而シテ其米價ヲ平準セントセハ米ノ消費ヲ減少スルニ如ク
ナキナリ故ニ之ヲ減少スルハ其騰貴ヲ抑制スルノ具タルハ
諸人ノ異口同稱スル所ナリ但其米ヲ消費スルノ一大源因ヲ
問ヘハ麴酒ニ外ナラサルナリ是ヲ以テ本官ハ最初ヨリ反復
此按ヲ見ルニ毫モ課稅ノ重キヲ覺ヘス却テ稅金ノ上ラサル

○議長 十二番ノ説ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ十二番ノ修正説ハ消滅ス

○卅三番 渡邊 更ニ本官ノ修正説ヲ陳ントス向ニ八番ノ造石
稅ノ説ハ誠ニ公平ナルモノ、如クナレモ元來此同本稅則ヲ
改正スルノ主意ハ酒ハ奢侈物ナリトノ原則ニ起因セシ者ナ
レハ警麴モ同ク其稅ヲ課スヘキニ似タレモ亦少ク差等ナキ
能ハサルヲ以テ遂ニ原按ノ如クセンモノナリ故ニ其警麴製
造家ニ五十圓ノ稅ヲ課スルハ太タ至當ナルモ夫ノ請賣小賣
者モ均ク之ヲ課セントスルニ至リテハ亦不可ナシトセス且
既ニ酒ハ受賣卸賣共ニ一切免稅トセリ警麴豈特リ之ヲ課ス
ルノ理アラシヤ蓋シ之ヲ實際ニ徵スルニ田舎ニ於テハ多少
ノ麴屋ナルモノアリト雖モ有力者ハ纔ニ屈指ニ過キサルナ
リ況ヤ其請賣等ヲナス者ノ如キハ概略貧民ノ所業ナルニ於
テヤヤ因テ本官ハ酒ニ受賣小賣ノ稅ヲ免スルノ原理ニ基キ
警麴モ亦其請賣稅ヲ全免セント欲ス仍テ其字句ヲ削ルヲ可
トス

○三番 神田 贊成
○議長 卅三番ノ修正ニ贊成者アルヲ以テ問題トナス
○卅二番 林 友幸 決シテ請賣ノ字句ヲ削ルヘカラス何トナレハ
トス

凡ソ何物ニ限ラス小賣請賣等ハ却テ製造主ヨリ其利益多キモノナリ加之諸賣品皆請賣小賣ノ稅アリ然ルヲ特ニ醬麴ノミ之ヲ課セストナスハ最モ不可ナリ蓋シ夫ノ酒ノ受賣小賣ハ別ニ理由有テ之ヲ免セシナリ混視スヘカラス

○卅三番 渡邊 卅二番ノ說ニヨリ本官ハ益ト前說ヲ固クセリ夫レ醬麴請賣者ノ類ハ其製造者ヨリ行商ニ用フル道具等總テ貸與スルヲ以テ常トシ必竟微々タル力食ノ細民ナルニ猶且之ニ課稅シテ夫ノ酒ノ小賣卸賣者ニ免除スルハ何ノ理由ノヤ其酒ト云醬麴ト云ヒ受賣小賣ニ於テ別ニ彼是異同アルノ理由ハ決シテアラサルナリ刪除ヲ可トス

○十五番 安場 保和 本官ハ當初十二番ノ說ニ同意セシカ不幸ニシテ消滅セシ上ハ寧ろ原按ニ勝レル請賣ノ字句刪除ノ說ニ贊成セサルヘカラス

○卅一番 玉乃 原按ヲ可トス其所以ハ已ニ陳スル如ク無用物ハ務メテ禁止スルノ目的ナレハ夫ノ請賣ノ如キモ之ニ課稅シテ其業漸次ニ減少スルヲ欲スルナリ別ニ喋々ヲ須ヒス

○三番 神田 孝平 本官ハ會テ自家飲料ヲ減減セント欲スルノ熱心ナルヲ以テ本按ノ稅額モ肯テ不可トナス然レ既ニ酒ノ請賣稅ヲ廢スル上ハ醬麴モ亦同ク之ヲ廢セサルヘカラスノ理由ヲ生ス仍テ卅三番ニ同意ス但卅三番ハ其文章ノ如何

府ニ得ルハ多キニ至ラン仍テ本問題モ亦不同意ヲ表セサルヘカラス

○卅三番 渡邊 八番ノ所說ノ如キハ到底實際ニ行フ能ハサルモノナリ假ヒ之ヲ十年ノ後ニスルモ若シ家釀ノ數ヲ調フルノ法ヲ立ルカ如キハ其手數煩ヲ加ヘ該稅ヲ課スルヨリ却テ許多ノ費用ヲ要スルナルヘシ蓋シ是レ言フヘクシテ行フ可カラサルノ說ナリ

○八番 山口 卅三番ハ本官ノ說ヲ誤認セシモノ、如シ假ヘハ醬麴ハ酒ヲ造ルニ方リ其米ト比シテ幾分ヲ要スルヤト言ハハ必ス三分ノ一ヲ要スルナルヘシ仍テ本官ハ一石ニ一圓ヲ收メシムルト云フハ決シテ比例ナキ杜撰ノ說ニアラス且醬麴ハ別ニ其營業者アリテ素ヨリ酒屋ニ關スルモノニ非サレハ其調査モ亦容易ナルノミ是等ハ決テ懸念スルニ及ハサルナリ

○議長 卅三番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ
起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ卅三番ノ說ハ消滅ス

○八番 山口 別ニ建議セントス本條ニ對シ各修正ハ皆既ニ廢棄セシモ本條固ヨリ穩當ト爲サス因テ更ニ委員ニ附托シテ修正アランヲ希望ス

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

ヲ論セス請賣ノ字ヲ廢スト論スト雖モ本官ハ之ヲ補ヒ其文字ハ「製造シテ營業セント欲スル者」ト改正セント欲スルナリ故ニ一言此事ニ及フコ爾リ

○議長 一字ト雖モ差異アレハ同論ト認ムルヲ得ス是レ議事ノ成規ナリ卅三番ハ文字ヲ如何スルヤ

○三番 神田 孝平 本官聽ク所ヲ以テセハ其說已ニ製造ノ字ヲ存スルモノトセリ故ニ之ヲ贊成セシナリ

○十五番 安場 保和 本官モ亦贊成者ノ一名ナリ故ニ問フ卅三番ハ醬麴ヲ製造シテ營業セント欲スル者云々ト修正スルノ意ナリヤ如何

○卅三番 渡邊 然リ

○八番 山口 若シ問題ノ說ヲシテ實地ニ行ハシメハ大ナル不都合ヲ生スヘシ何トナレハ其說ニハ同ク五十圓ノ免稅稅ヲ存スル者ナレハ營業者ニ於テハ必ス其重稅ニ耐ヘス續々廢業スル者多カラン果シテ然ラハ僻地ニハ自飲家釀ヲ爲ス能ハサルヨリ苦情百出亦如何トモスル能ハサルヲ信スレハナリ此ノ如キハ殆ト家釀ヲ禁止スルト一般ニシテ豈苛酷ト云ハサルヘケンヤ故ニ本官ノ言フ如ク五十圓ヲ減シテ十圓トシ別ニ造石稅ヲ課スルキハ是所謂間稅ニシテ營業者ハ知ラス識ラス收稅ナスモ現ニ其感觸少ナキヲ以テ却テ收獲ヲ政

○十二番 楠田 贊成

○議長 卅一番モ尙修正ノ說アリヤ

○卅一番 玉乃 然リ

○議長 然ラハ八番ノ建議ニ決ヲ取ラン之ニ同意者ハ起立セヨ
起立者十三人

○議長 多數ナルニ依リ八番ノ建議ニ決シ十二番 楠田 十九番 岩村 廿七番 津田 眞道 以テ委員トシ尙ホ其報告ヲ待テ之カ議ヲ開カン尤明十四日ハ例刻ヨリ此次條ノ會ヲ開クヘシ本日ハ散會セヨ

午後第三時四十分閉場

元老院會議筆記 明治十三年九月十四日

○第九十九號議案 酒造稅則布告案、醫藥營業稅則布告案、自家飲料酒類製造定限布告案

第二讀會續 九月十三日

議長 佐々木高行 代理

出席議員

三番	神田孝平
四番	水本成美
五番	東久世通禧
八番	山口尙芳
九番	黒田清綱
十番	箕作麟祥
十二番	楠本正隆
十四番	河田景與
十五番	安場保和
十六番	細川潤次郎
十七番	伊丹重賢
十九番	岩村通俊
二十番	渡邊 驥

午前第十時開場
内閣委員 番外大藏權大書記官 戸田秋成

○議長 本日ハ議長他ノ公務ニヨリ本官代理ヲ爲シ第九十九號第二讀會ノ續會ヲ開ク然ルニ醫藥稅則ハ前會ニ於テ其第一條ヲ修正委員ニ附托セシモ猶未ク報告ニ至ラザレハ本則ハ姑ク開キ酒造稅則ノ末條ニ葡萄酒麥酒云々增加ノ修正既ニ成リ之ヲ各位ニ頒布セシ如クナレハ先ツ該案ヲ議決シ尋テ自家飲料ノ布告案ニ議及セントス但シ修正ノ成ルヤ報告後二日ヲ介シ更ニ開議スヘキノ規則ナレハ本案ハ急施ヲ要シ且其慣例ナキニアラス因テ直ニ之ヲ議スヘキヤ否ヤヲ衆議ニ決セントス修正報告案ヲ議スルニ同意者ハ起立セヨ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ヲ釀造スル者ハ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

○一番 戸田 秋成 修正案ニ「葡萄酒及麥酒ヲ釀造スルモノ云云」トアリテ他ノ洋酒製造ノ「ニ及ハス」是造石稅ヲ課セントスルノ意ナルカ果シテ然ラハ特ニ「葡萄麥」二種ノミヲ保護シ其他ハ保護セサルモノト認メテ可ナルカ如シ肯テ起草ノ意見ヲ問フ

○十五番 安場 保和 本按葡萄麥ノ二種ヲ掲クルモ猶他ノ洋酒類ヲ包括スルノ意ナリ

○一番 戸田 秋成 單ニ葡萄酒麥酒ト指名シテ他ノ酒類モ此内ニ含蓄ストハ認メ難シ如何

○十番 箕作 麟祥 既ニ二種ヲ掲ケハ他ノ酒類モ之ニ含蓄セルヤ明カナリ何トナレハ「セリー」「サンパン」等ノ洋酒モ亦葡萄酒ヲ以テ製造スルモノナリ何ソ悉トク其名稱ヲ掲クルヲ須井ンヤ然レモ其明瞭ヲ欲シ爲メニ一々之ヲ記スルハ本官等モ亦之ヲ妨ケサルナリ

○卅三番 渡邊 昇 本官ハ葡萄酒麥酒ノ二個ニシテ可ナリトス夫ノ「サンパン」「セリー」ノ如キハ吾國未タ製造スル者アルヲ聞カス若シ是等ヲ製造スルノ期ニ至ラハ更ニ之ヲ加ヘ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ修正增加案ヲ議スルニ決ス爰ニ其朗讀前ニ於テ聊カ陳告スヘキノアリ夫レ第二讀會ニハ一議官説ヲ出シ贊成者アレハ直ニ之ヲ問題トス而シテ尙別ニ修正説ヲ抱ク者ハ其問題未決中ニ於テ豫メ其旨ヲ陳述シ若シ其問題消滅セハ直ニ之ヲ提出シ又贊成者ヲ得ハ同ク問題トシ縱ヒ三說四說陸續提出スルモ此順序次第ヲ紊ラサレハ更ニ支障アルコトナシ蓋シ從來一ノ修正説出テ之ヲ決セシ上ハ良シヤ條中欠クルアルモ毫モ之ヲ動ス可カラサルノ慣例アリ惟フニ尙シ異説アラハ其問題未決中ニ之ヲ豫陳セサレハ終ニ修正ノ底止スル所ナキヲ以テナラン然レモ此法ニ依連シテ動カサレハ或ハ他ノ發言ヲ箝制セサルヘカラサルノ弊ヲ生センカ因テ今ヨリ後示ス所ノ如ク爲サントス例ヘハ原案ヲ不可トシ甲ノ修正一度出レハ乙ハ充分之ニ左袒セサルモ尙原按ニ優リタルヲ知ラハ先ツ之ニ同意シ該説未決中ニ他ニ修正ノ點ヲ豫述シ既ニ之カ可否ヲ決シテ後乙ノ前陳ノ如クセハ番ニ其妨ケナキノミナラス漸ヲ追テ改良ニ至ルヤ必セリ且豫メ其異見ヲ陳セハ決シテ好マサル所ノ原按ニ可決スルノ憂ヒナク讀會規則ニモ抵觸アルコトナシ各位更ニ此意ヲ詳了セラレヨ

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

テ可ナラン強テ是等モ亦二種中ニ包括スト云フハ穩當ナラ
ストス

○三番 神田 麥酒ト云テ專ラ「ビール」ノコナリト云ハ、可
ナレモ我邦從來麥釀ノ酒アリ近今迄府下日本橋邊ニハ日本
麥酒店アリシト覺フ仍テ本按麥酒ノ下ニ洋名ノ註解ヲ加ル
ヲ可トス

○卅三番 渡邊 賛成

○議長 三番ノ説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

○十番 巖作 三番ハ和洋麥酒ノ混合ヲ恐ル、トノ説アリト雖
モ此類ハ已ニ第三類ナル銘酒ノ部分ニ入ル、モノナレハ敢
テ其憂ナシトス且本文已ニ葡萄酒麥酒ト接續スレハ誰カ其
「ビール」タルヲ悟ラサランヤ若シ之ニ洋名ヲ加フルトハ
既ニ内閣委員ノ憂フル如ク却テ麥酒ハ只「ビール」一種ニ
限リ他ノ種類ニ及ハサルノ惑ヒアルヲ恐ル故ニ單ニ麥酒ト
シ他ノ洋酒モ此内ニ包括セシメテ可ナリ且又法律ハ目下實
地ニ其物ナシト云テ之ヲ設ケサルノ理ナシトス

○卅三番 渡邊 已ニ葡萄酒麥酒トアレハ麥酒ノ「ビール」タ
ルハ分明ナリト雖モ之ニ洋名ノ註解ヲ加フレハ尙更ニ明瞭
ニシテ敢テ支障ナキナリト十番ハ何ゾ其明瞭ヲ欲セサルヤ
○八番 山口 原接ハ不可ナリ修正説モ亦不可ナリ現行大藏省

題トナリ而シテ反復討論ノ末ニ至リ更ニ其賛成ノ取消ヲ求
ムルハ思フニ其權ナシト信ス此ノ如キハ各官ニ問フヲ須ヒ
ス直ニ問題ノ決ヲ取テ可ナラン

○議長 卅三番ノ請求ハ正シク議事條例第二十條ニ確當スル
ニアラスト雖モ議長ハ之ニ準シ衆決ヲ取ルヲ至當ナリトセ
リ

○十六番 瀧次郎 議長ノ演説ハ固ニ其當ヲ得タリトス十二番
ノ建議ハ或ハ其旨趣違ヘリト思考ス抑々此處分タル議事條
例第二十條ノ的例ニアラサルハ勿論ナリト雖モ此ノ如キハ
既ニ慣行アレハ其賛成取消ノ許否ハ之ヲ衆議ニ決スルヲ公
平ナリトス若シ其賛成消滅シ各官中又別ニ三番ノ議ニ同意
者アレハ復タ直ニ之ヲ問題トスルモ妨ナキナリ

○卅三番 渡邊 問題ト爲ル上ハ議場ノ公共ニシテ固ヨリ一人
ノ動議ニ依テ之ヲ更ユヘカラサルヘント雖モ既ニ前會ニモ
或議官ヨリ一條中及ヒノ字ヲ削ルノ議アリテ一議官之ヲ贊
成セシニ更ニ發議者ハ免許稅ヲモ削除セント云フニ至リ前
ノ賛成者ハ之ヲ賛成スル能ハスト云テ退ケリ本官カ三番ノ
説ニ於ケルモ亦然リ苟モ前議ヲ可ナリトシテ賛成シ後説ノ
不可ナルヲ以テ賛成セスト云フハ決シテ變説ニアラサル
ナリ

酒造稅則案、畜勸營業稅則案、自家飲料酒類製造限定案

達ニ麥酒トハ「ウヰル」「ホルトル」「ビール」トアリ然
ルヲ單ニ葡萄酒麥酒ニテ都テ洋酒ヲ包括スト云フハ亦誤レ
リ故ニ本官ハ問題ノ說消滅セハ更ニ現行法ノ意ヲ折衷シ之
ヲ修正シテ葡萄酒及麥酒ノ下ニ「ノ類」ノ字ヲ加ヘント欲
ス

○廿六番 柴原 三番ノ説ハ一理アリト雖モ現行法ニハ
葡萄酒ニモ亦洋名ヲ付セリ然ルニ本按唯麥酒ノミニ解ヲ付
スルヤ却テ其惑ヲ生セン故ニ寧ロ本按ヲ勝レリトス

○三番 神田 本官ハ葡萄酒ハ註解ヲ要セサルモ只麥酒ハ「ビ
ール」一種ニ限ラス現ニ本邦ニモ從來麥釀ノ酒アリテ是等
ハ必ス造石稅ヲ課スヘキモノナルヲ以テ之ヲ分明ニセント
スルノミ尤モ大藏省達ノ如ク之ニ假名ヲ付スルモ亦敢テ異
議ナシ

○卅三番 渡邊 本官ハ既ニ三番ノ説ヲ賛成セシモ今麥酒ハ
「ビール」一種ニ限ラズトノ言アルヲ以テセハ太テ前言ト
異ナルヲ覺フ因テ本官ノ賛成ハ更ニ取消サレンコトヲ乞フ
○議長 卅三番ヨリ既ニ三番ノ説ニ賛成セシモ其説ノ前旨ニ
違フヲ以テ更ニ賛成ノ取消ヲ乞ハント云ヘリ因テ議事條例
第二十條ニ照シ愛ニ如何ノ決ヲ取ラントス
○十二番 楠本 三番ノ發議ハ既ニ卅三番ノ賛成アルヲ以テ問

○廿六番 柴原 卅三番ハ前ニ誤リテ三番ノ説ヲ賛成シ後之ヲ
悔悟シテ其取消ヲ請フナリ此ノ如キハ往々慣例アルコトナレ
モ之方爲メニ議場ノ問題モ併テ取消サント云フハ甚タ不可
ナラスヤ

○八番 山口 是等ノ議ハ殆ト無用ニ屬ス只斷然議長ノ所見ニ
任シテ處分アラシコトヲ建議ス

○廿六番 柴原 八番ノ無用ト稱スルハ如何
○八番 山口 本官ハ廿六番ノ議ヲ無用ナリト指斥セシニアラ
ス畢竟是等ノ事ハ議長ノ特權ニ任シ速ニ處分アラシコトヲ欲
スルトノ意ヲ表セシ而已

○廿六番 柴原 本官ハ賛成者ノ變説ニヨリ併テ問題ヲモ消滅
セントスルハ不都合ナリトス仍テ議長ノ意見ヲ以テ公平ニ
裁制アラシコトヲ望ム

○議長 三番ノ發議ハ卅三番ノ賛成ヲ得テ問題トナリシモ卅
三番ハ既ニ其非ヲ悟リ更ニ賛成説ヲ取消サンコトヲ求ムルニ
方リ之ヲ許スヘント決セハ問題モ亦併テ消滅シ而シテ更ニ
三番ニ同意者アラハ之ヲ問題トシ一端緒ヲ開クハ當然ナリ
トス茲ニ卅三番ノ取消ヲ許スヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ三番ノ問題ハ消滅ス

○八番山口 豫メ陳辯スルカ如ク只「葡萄酒及麥酒」トスルハ都テ他ノ洋酒モ之レニ含有セリヤ否ヤ太タ不分明ナリ仍テ現行大藏省達ニ明記スル所ノ意ヲ承ケ「葡萄酒及麥酒ノ類ヲ製造スル者」ハ云々トナシ「ノ類」ノ二字ヲ挿入シ及ヒ「釀」ヲ「製」ニ改メント欲スルナリ

○十六番 潤次郎 贊成
○議長 八番ノ説ハ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○卅一番 玉乃 贊成
○卅三番 渡邊 贊成

○卅七番 伊丹 贊成
○十五番 安場 贊成

○十五番 保和 贊成
○三番 神田 贊成

○八番 山口 贊成
○八番 向芳 贊成

○三番 神田 贊成
○卅七番 伊丹 贊成

○十五番 安場 贊成
○十五番 保和 贊成

○八番 山口 贊成
○八番 向芳 贊成

○三番 神田 贊成
○卅七番 伊丹 贊成

○十六番 潤次郎 夫レ假名又ハ註解ヲ下スカ如キハ頗ル要用ノ點ニアラス且法文ニハ務メテ其之レナキヲ以テ体裁ヲ得タリトス若シ實地之ヲ了解セストセハ乃チ各廳ニ伺出ルモ可ナリ仍テ八番ノ説ノ如ク「ノ類」ノ字ヲ加ヘハ充分ナリトス

○十番 案作 八番ノ説ノ如ク「釀」ヲ「製」ニ作り且「ノ類」ノ字ヲ加フルハ錦上添花ノ美ヲ致セリ仍テ之ヲ贊成ス
○議長 八番ノ説ヲ可トスル者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ八番ノ修正ニ決ス
○書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

布告 按

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ一ケ年壹石 各種製造スルトキニ超ヘカラス若シ壹石ヲ超ルトキハ總テ酒造營業者ヲ以テ論スヘシ此旨布告候事 但管轄廳ヨリ臨時官員ヲ派出シ造酒ノ數ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

○十二番 楠本 本按ノ不可ナルハ前會以來屢々之ヲ陳シタル所尙當時欠席者ノ爲メ更ニ一言ヲ贅セントス抑々自家飲料

ト雖一二期一石ニ超ユヘカラスト爲スハ頗ル苛酷ナルヲ以テ其廢按説ヲ唱フルモ或ハ可ナランカ然レモ目ヲ一般ノ取締上ニ注クハ又之ヲ存置セサルヘカラサルモノアリ因テ其宜ヲ制シ茲ニ石數ヲ加ヘテ「三石」ト爲スヲ穩當ナリトス思フニ原按一石トアルハ一人ノ飲料ニ充ツヘキ目的ナランカ然レモ概シテ農家ノ狀況ヲ見ルニ其實三石ト爲スモ猶不足ナルカ如シ蓋シ三石以上ノ自釀ヲ要スルモノハ多クハ是レ豪農ニシテ資力アル者ナルヲ以テ是等ハ直ニ酒造家ニ就テ購求スルモ大ナル妨ケナカルヘシ故ニ之ヲ三石ト爲スヲ至當トス

○十七番 伊丹 重賢 本按一期一石ト云フハ蓋シ一戸ニ就テノ義ナラン夫レ現今自釀ヲ爲スモノ、實況ヲ觀ルニ其下等ノ者ニアラスシテ多クハ中等以上ノ農ニアリ然ルニ今一石ノ酒ヲ以テ之ヲ一年三百六十五日ニ通算スレハ一日纔ニ二合七杓許ニシテ好飲者一夕ノ飲料ニタモ足ラス而シテ一家三人乃至五人アルハ中等農者ノ常ナリトス然レハ則チ之ヲ三石ト爲スモ決シテ過當ノ料トハ爲サ、ルナリ仍テ十二番ヲ贊成シ併テ其理由ヲ陳フ

○議長 十二番ノ説ニ贊成者アルヲ以テ問題トス
○十五番 安場 十二番ハ修正ノ理由ヲ喋々スルハ其意本官ト保和

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

稍同シ然レモ所謂制限ノ結果ヲ豫想セハ恐クハ無効ニ販セシカ如何トナレハ自家飲料ノ如キハ例ヘハ茲ニ一石ヲ造リ其盡ントスルニ當リ又一石ヲ増釀セハ終ニ依然一石ノ量タルハ免レサレハナリ而シテ政府ハ嚴ニ之ヲ檢査セントスルモ徒ニ手數ヲ増スノミニシテ到底其取締ハ行届カサルヘシ之ニ加フルニ政府ハ人民ノ厨ニ立入ルトノ誹謗ヲ來スヤ必セリ本官固ヨリ本案ヲ不可トシ又十二番ノ説ニモ左袒スル能ハス別ニ大ニ修正ヲナサント欲スルノ腹稿アリ因テ此ニ其意旨ヲ陳ス

○廿六番 榮原 本官モ亦別ニ修正説アルヲ以テ原案修正説共ニ同意ヲ表スル能ハス十二番ノ問題消滅セハ更ニ提出スル所アラントス依テ豫メ其旨趣ヲ述ヘン元來自家飲料ノ事ヲ以テ酒造稅則ト共ニ太政大臣ヨリ布告スルハ太タ不可ナリトス近今証印稅烟草稅等其雜種稅ノ類々加ハルニ方リ是等モ亦堂々ト布告スルハ人民ハ政府ヲ見テ以テ唯課稅ニ汲々タリトノ感觸ヲ生スルヤ必セリ是レ太タ憂フヘキノ點ナリ仍テ本按ヲ酒造稅則ノ中ニ編成セハ大ニ穩當ナランカト思惟ス而シテ之ヲ編成スルニハ委員ニ命シテ修正スルニ如カサルナリ

○卅三番 渡邊 十二番ノ説ハ不可ナキニ似タレモ其修正ノ石

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

數稍々過等ナルヲ覺フ仍テ該問題消滅セハ更ニ本官ノ意ヲ陳述セント欲ス

○卅一番 玉乃 本官ハ略十二番ノ説ニ同意ナリ然レモ未タ其悉サハル所アルヲ以テ已ムヲ得ス之ヲ贊成スルヲ能ハス故ニ若シ問題消滅セハ意見ヲ提出セントス茲ニ其修正ノ意ヲ説カンニ石數ノ三石ハ十二番ノ説ニテ可ナリ尙本官ハ「酒類」ヲ「清酒」ト爲サント欲スルナリ因テ豫メ之ヲ陳スルヲ爾リ

○八番 山口 十二番増石高ノ説ハ不可ナリ夫レ一期三石トセハ之ヲ一年ニ割付スルニ一日凡一升未滿ニ當ルナリ苟モ一戸一日一升ノ自釀ヲ許シ却テ眞ノ造釀家ニ重稅ヲ課スルトセハ例ヘハ三千萬人中千五百萬人ハ自釀ニヨリ酒ヲ他ヨリ購求セスシテ可ナルモ猶千五百萬人ハ之ヲ他ニ購求セサルヘカヲサルヲ以テ間接ニ其重稅ヲ負擔セサルヲ得サルモノトス抑々稅ヲ自釀ニ課セサルハ只其取締ナリト認ムルハ本按ノ主義ニアラス獨リ北部嚴雪ノ國ハ其防寒ノ爲メニハ太夕必用物ト爲シ且酒造家ト距離遠隔ノ場所ニ於テハ容易ニ購求スルヲ得サルヲ以テ此地方ニ於テハ多少之ヲ許スヘキモ或ハ可ナリト雖モ尙一ヶ年十分ノ飲料ヲ許スカ如キハ不可ナリトス仍テ本官ハ本修正ノ成立セザランコトヲ望ム

○卅二番 友幸 贊成

○議長 十五番ノ説ハ贊成者アルヲ以テ問題トス
○外一番 秋田 十二番ノ修正既ニ消滅ニ歸セハ十五番ノ説ノ如キハ恐ラク其左祖者ナカルヘント思ヒシニ圖ラスモ問題トナリタル上ハ之ヲ説破セサルヘカラス抑々本按酒稅ヲ二圓ト爲シタルハ是レ純然タル増稅ナリ既ニ其増稅タル精神ヲ認可シ而シテ此ノ如キ反對説ノ提出アルハ無乃杜撰ト云ハンカ蓋シ自家釀造ニ制限ヲ立ツルハ固ヨリ増稅ノ爲メナリ既ニ増稅セハ自釀ニ制限ナカルヘカラス是レ相離ルヘカラサルノ理趣ナリ看ヨ現行法モ亦當時増稅ヲ爲セシモノナリ而シテ該法施行以來著ク自釀ヲ増加シ夫ノ新潟縣下ノ如キハ昨年中一戸ニシテ既ニ五十石以上ノ飲料ヲ増釀スル者アリ奥羽地方モ亦殆ト倍加セリ是ヲ以テ之ヲ看レハ今般増稅ヲ爲スヤ忽チ自釀ノ増加スルヤ必然ノ勢ナリ然レハ則チ自家飲料ヲ制限スルハ當ニ増稅ノ精神ナルノミナラス營業者ヲ保護スルノ點モ亦之ニ加ハレリ此ノ如キ理由ヘ能ク酒造稅則ヲ玩味セハ必ス得失了得スヘキナリ故ニ若シ斯ル修正説ノ行ハル、ニ至ラハ酒造稅則ハ全ク成立セサルモノナリ請フ茲ニ猛省アランコトヲ

○十五番 安場 保和 内閣委員ハ頻々駁議スレモ其自釀ニ制限ヲ立酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

○卅一番 玉乃 原按ノ如ク之ヲ一期一石トセハ一日僅々二合九杓許ナリ然ルニ民家ノ農事ニ於ケル夏耘秋種ノ時ニ至リテハ概シテ一村多衆ノ集合シ甲田乙畝相輪轉シテ之ヲ救收スルハ常ナリ而シテ相互其勞動ヲ謝スルハ皆自釀ノ村酒ヲ以テシ一日或ハ斗酒ヲ倒スハ珍ト爲サス本案纔ニ一石ノ自釀ノ如キハ實ニ數月ヲ出スシテ飲了セン依テ十二番ノ増加説ヲ可ナリトス

○議長 十二番ノ説ニ同意者ハ起立セヨ
起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ十二番ノ問題ハ消滅ス時既ニ午ヲ過クルヲ以テ一旦散會セヨ

午後零時十五分開場

午後第一時十二分開場

退席 卅一番 玉乃 世履

同 二十番 渡邊 驥

○議長 午前引續ノ會ヲ開ク

○十五番 安場 保和 午前十二番ノ説問題トナリシモ本官ハ石數ニ制限ヲ立ルハ太夕不可ナリトス仍テ「自家釀造ハ勝手タルヘント雖モ若シ自釀ヲ販賣スル者ハ酒家ト同ク課稅スヘシ」云々ノ意ヲ示サントスルナリ

ルカ如キハ政府モ亦自カラ其不是ナルヲ知ラン所謂人民ノ厨内ニ迄干涉スルハ豈聚斂ノ政タルヲ免レンヤ加フルニ實際之ヲ施行スルヤ縦ヒ二六時中檢査吏ノ巡廻アルモ到底之ヲ制止スル能ハス遂ニ是徒法ニ屬センノミ苟モ其徒法アランヨリハ寧ロ之ヲ自由ニ付スルノ公正ナルニ如カザルナリ今内閣委員ノ言ノ如ク已ニ酒ニ非常ノ稅ヲ増課セハ自釀ノ倍加スルハ或ハ然ラン然レモ其自釀ノ甚シキニ至ラザラシコトヲ欲スルハ則チ販賣ヲ禁止シテ充足レリトス蓋シ一利一害ハ素ヨリ法律ト雖モ免レサルモノナリ故ニ之ヲ重クシテ其利ノ多キヲ欲センヨリ如カス其害ノ少キヲ取ランニハ是本官カ此修正アル所以ナリ

○外一番 秋田 如今論者ノ陳述ニ依レハタトヒ本按ヲ施行スルモ取締不行届ニシテ到底其効ナク寧ロ制限ハ立テ難シト云フモノ、如シ然レハ則チ既ニ其取締ノ道ヲ得ハ論者モ亦之ニ同意ナルヤ明ナリ蓋シ之カ取締ヲ爲サント欲シ日々官吏ヲ派出スルモ或ハ其實際ニ漏ル、所ナシトスヘカラスト雖モ其便宜ニヨリ之ヲ取締ルノ法モ亦自カラ之レナキニ在ラス大抵人情ハ他人ノ爲メニ自己ノ利得ヲ害セラル、ヲ忌ムモノナリ而シテ自釀ノ多キハ必ス田舎農家ニ多ク故ニ其自釀ノ爲メニ該村或ハ隣里ニ在ル酒造營業者ハ直ニ之カ妨

害ヲ蒙ムルヲ以テ諺ニ蛇道蛇知ト云カ如ク互相注意ニ怠ラ
ス能ク其密賣多釀ヲ偵知スルモノナリ是所謂ルトモ吟味ナ
ル者ニシテ斯ル一種ノ便法ハ亦社會ノ賜ナリ豈一概ニ取締
リノ行届カスト云ヲ得ンヤ

○十五番 安場保和 内閣委員ハ今共吟味ノ諺ヲ引キ取締ヲ爲スヲ
得ヘント云フト雖モ我堂々タル政府ニシテ鄙劣ナル共
吟味等ニ依頼シ之ヲ法律ノ補翼トナスカ如キハ決シテ之レ
アラサルヲ信ス若シ誠ニ説ノ如クシハ本官ハ耳ヲ掩フテ聽
クニ忍ビス益 斯ル不當ノ法ヲ廢スルヲ欲スルナリ

○卅三番 渡邊昇 本官ハ又問題ニ反對ナリ抑々酒ハ無益有害物
ナレハ須ラク之ニ重稅スヘントハ乃チ本按ノ精神ナルヘシ
既ニ之ヲ以テ精神トセハ自釀品モ亦均ク其無益有害物タル
ハ一ナリ然ルニ賣品ノ一方ノミ重クシテ而シテ自釀ニ輕キハ
豈不公平ナラスヤ又或説ニ塞國ニテハ酒ハ必要物ナリト云
フモ是一地方ノ習慣ヲ以テ一般ニ寬典ヲ及ホサントスルモ
ノナリ此ノ如キハ輕重宜ク斟酌セサルヘカラス然レモ原按
ノ如キハ之ヲ充分ト爲サス因テ本官モ亦時機ヲ得テ一修正
説ヲ提出セントス

○三番 孝平 十五番ノ説ハ非ナリ夫レ本按ノ精神ハ一ニ増稅
ニアリ然ルニ獨リ自釀ノ制限ヲ寬ニセハ必ス營業稅ハ減シ

スルモノナルヘケレモ既ニ之ヲ人民ニ公示スル上ハ縱ヒ獨
立トナスモ或ハ附則トスルモ決シテ別異アルコトナシ然レモ
亦之ヲ酒造稅則各條ノ間ニ挿入セントスルハ太夕難シ如何
トナレハ若シ之ヲ挿入セハ讀者往々營業者ノ事トノミ看過
スルノ憂ヒナキ能ハサレハナリ仍テ衆目ノ標的トナサンカ
爲メ著ク其尾ニ付スルヲ可トス然ルニ本按末尾ニ營業者ヲ
以テ論スヘントアルハ乃チ造石稅ヲ取立ルノ意ナラシ此ノ
如キハ所謂罰則ノ文体ニテ一ノ布告中ニ之ヲ掲クルハ太夕
穩安ナラス故ニ之ヲ附則トシ一石以上ヲ釀スル者ハ總テ本
則ニ從フヘントノ意ニ爲サハ自ラ其文体ヲ得ンカ若シ修正
ニ決セハ冀クハ此意ヲ參考ニ供セラレンコトヲ

○卅三番 渡邊昇 廿六番修正ノ精神ハ可ナルモ更ニ修正委員ヲ
設ケテ之ニ附托スルヲ要セスト爲ス其故ハ茲ニ十六番ハ一
石ノ制限ヲ立ツヘント云ヒ廿六番ハ三石ニ増加スヘント云
ヒ其石數ニ差等アリト雖モ其精神ハ共ニ本按ヲ酒造稅則ノ
附則トナサントスルノ外ニ出テ本官ノ腹案モ同シ仍テ本
官ハ制限ヲ二石トシ其他ハ十六番ノ修正文ノ如クシテ決テ
取リテ可ナラントス此ノ如キハ固ヨリ修正ノ手數ヲ要セサ
ルナリ

○議長 廿六番ノ建議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造限定案

終ニ本按ノ目的ヲ達スヘカラサルナリ是レ恰モ本按ハ自釀
保護稅法ノ委トナルヘシ法律豈此ノ如クスヘケンヤ

○議長 十五番ノ説ニ同意者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ十五番ノ説ハ消滅ス

○廿六番 榮原和 本官修正ノ要旨ハ先ツ本按ヲ廢シ之ヲ酒造稅
則中ニ入レント欲スルナリ蓋シ本官ハ固ヨリ之ヲ三石トス
ルノ精神ニシテ且文字モ亦修正スル所アラントスルナリ然
レモ本按ハ頗ル重大ノ事ナルヲ以テ輕易ニ其説ヲ發スヘカ
ラス依テ之ヲ修正委員ニ附托セハ恐ラク取舍宜キヲ得テ適
當ノ按トナラント思惟ス因テ之ヲ建議ス

○十六番 細川潤次郎 廿六番ノ建議ヲ贊成ス本官ハ前ニ酒造稅則
第三十五條追加ヲ論スル時ニ方リ既ニ此自釀ノ按ヲ合併テ
其附則トシ稅則ノ尾ニ添ント云ヘリ然ルニ今廿六番ノ本按
ヲ廢シ更ニ酒造稅則中ニ入ル、カ爲メ修正委員ニ附托セン
トノ説ハ大ニ本官ノ意ニ適セルモノナリ只其之ヲ附托セハ
其修正ニ當リ或ハ委員ニ於テ疑惑アラシコトヲ恐レ此ニ豫メ
本官ノ意見ヲ概陳シテ其參考ニ供セントス抑々本案ノ如ク
自家飲料ノ一法令ヲ特立セシハ能ク直接ニ三千五百萬人ノ
腦裡ニ深入セシメンカ爲メ故ラニ太政大臣ノ名ヲ以テ布告

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ廿六番ノ建議ニ決シ四番 水本 五番 成美
東久世 廿六番 榮原和 委員ト爲ス然ルニ醫藥營業稅則及ヒ本
案モ亦共ニ修正ニ付セシヲ以テ其報告ヲ待テ後更ニ開議ス
ヘシ散會セヨ

午後第二時二十分閉場

元老院會議筆記 明治十三年九月十五日

○第百九十九號議案 酒造稅則布告按、醫藥營業稅則布告
按、自家飲料酒類製造限定案布告按

第二讀會 九月十四日

議長 佐々木高行
代理 日ノ續

出席議員

- 三番 神田孝平
- 四番 水本成美
- 五番 東久世通禰
- 八番 山口尙芳
- 九番 黒田清綱

十番 箕作麟祥

十二番 楠本正隆

十四番 河田景與

十五番 安場保和

十六番 細川潤次郎

十七番 伊丹重賢

十九番 岩村通俊

二十番 渡邊 驥

廿一番 鶴田 皓

廿四番 福羽美靜

廿六番 柴原 和

廿七番 津田眞道

卅一番 玉乃世履

卅二番 林 友幸

卅三番 渡邊 昇

戸田 秋 成

内閣委員 番外 大藏權大書記官

○議長 本日ハ議長他ノ公務アルニ依リ本官代理ヲ爲シ第百九十九號議案中釐釐營業稅則布告按第二讀會ヲ開ク然ルニ本按ハ内閣下附及修正ノ二按アリ慣例ニ違ヒ修正按ヲ以テ

午前第九時四十七分開場

確定マテ申立ニ不及此段相違候事ト之レアリ由テ前會釐釐ノ意義ヲ問ヒシニ内閣委員ハ只酒もとトノミ答ヘタリ夫レ酒もとハ元來釐釐ト水トヨリ成ル者ナレハ之ニ造石稅ヲ課スルハ決テ能ハサルコナルモ夫ノ酒釐ノ如キハ必ス之ヲ爲スヲ得ヘキモノナリ抑々原按ニハ製造受賣共課稅ヲ同フスト雖モ他ノ營業ト比準ヲ取レハ實ニ公平ヲ得サルモノアリ仍テ修正スルコト此ノ如シ

○十六番 潤次郎 委員ノ修正猶未タ盡サ、ルモノアリ故ニ本官ハ原按ト修正按ヲ折衷シテ更ニ「釐釐 釐造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ」

「釐釐營業稅金五拾圓」ト修正セントス是レ兩按ノ長ヲ採リ短ヲ舍ル者ニシテ其主義亦大同小異ナリ蓋シ其小異ナル所即チ大ナル理由ノ存スル所ナリ抑々稅ヲ製造人ニ課シテ受賣人ニ及ハサルハ本官ノ主義ナリ當ニ本官ノ主義ナルノミナラス乃チ酒造稅則改正ノ主義ナリ若シ夫レ稅ヲ受賣人ニ課スルトセハ行商及製造家派出ノ賣子ニモ之ヲ覃及セサル可ラサルニ至ラン果シテ然ラハ嚮ニ酒類ノ受賣小賣ニ課稅セント同ク民間ノ苦情ヲ攬發スルノミナラス遂ニ通稅ノ奸策ヲ媒シ隨テ良法モ徒法トナランコト恐ル是ニ由テ本按モ酒造稅則ト其精神ヲ同

酒造稅則案、釐釐營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

問題ニ付スヘシ

○書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

釐釐營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 釐釐 釐造酒類ヲ營業セント欲スル者ハ製造受ハ其旨管廳ニ願出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

釐釐製造營業稅 金五拾圓

釐釐受賣營業稅 金三拾圓

○十二番 楠本 正隆 本按ハ本官等ノ修正報告ニ係ルヲ以テ爰ニ聊カ主旨ヲ略陳セン凡ソ釐釐稅ノ事タルヤ初メテ明治六年ニ起リ中途之ヲ廢シテ今更ニ復舊セルモノナリ則チ明治六年大藏省達第六十七號ニ陸羽邊僻邑ニ於テ防塞ノ爲メ自飲ノ濁酒五升又ハ一斗位釐釐致シ候ニハ酒釐ヨリ釐成候テハ容易ニ無之ニ付釐釐屋ト唱ヘ酒釐ノミ釐造營業ノ者多ク有之右ノ者ヘハ清濁酒同様免許鑑札相渡稅金ノ儀ハ清濁造ノ半減收稅致シ全自飲ノ濁酒聊釐釐候者ハ免稅致シ有之就テハ各府縣トモ右釐釐營業ノ者有之候ハ、同様免許鑑札可相渡ニ付可申立尤甘酒又ハ釐釐ノミ營業ノ者ハ追テ一般ノ稅則御

シ單ニ製造家ニノミ課稅スヘキ者トナスヲ可トス

○十五番 安場 贊成

○議長 十六番ノ修正ハ替成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○卅三番 渡邊 昇 十六番ヲ贊成ス蓋シ稅ノ平均ナラサル可ラサルハ既ニ前會ニモ陳述セン如ク今酒造稅則ニ受賣小賣ノ稅ヲ廢シ獨リ釐釐ニ其稅ヲ收ムルハ則チ稅ノ不平均ナリ仍テ

十六番ヲ贊成シ尙本條中別ニ修正ヲ要スルノ點アルヲ以テ十六番ノ修正決着ノ上更ニ之ヲ提出スヘシ

○卅一番 玉乃 世履 十六番ノ修正ハ原按ノ製造受賣ノ別ナクトアルヲ附托委員ノ修正セシニ尙修正ノ釐釐受賣稅金三拾圓ヲ削除スルニ在ルカ

○十六番 潤次郎 更ニ朗讀セン「第一條 釐釐 釐造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ 釐釐營業稅金五拾圓」ト此ノ如キナリ

○八番 山口 尙芳 贊成セント欲スルニ亦以テ疑點アリ其旨管廳ニ願出ノ下ニ「一個所毎ニ」ノ五字ハ加ヘサルヤ且其精神ハ例ヘハ東京ニ本社ヲ置キ佐賀秋田ニ支社ヲ置クモ其免許稅ハ同ク五拾圓ナリヤ

○十六番 潤次郎 八番ノ問ニ答フルハ甚ク之ヲ苦ム何トナレ

ハ酒造稅則第一條ニ於テ本官ハ免許鑑札ヲ付與スルハ場所ニ在ラスシテ人ニアルヲ以テ「一個所毎ニ」ノ字ヲ削ルヘシト主張シ八番ハ反對說ヲ主持シ終ニ原案ニ決セリ今八番ハ前意ニ由リテ之カ問ヲ發セシナラン蓋シ此疑問ニ答フルハ内閣委員ニ辯明ヲ移サ、ル可ラスト雖モ既ニ機會ヲ失スルヲ以テ更ニ說ヲ爲サントス惟フニ本條ハ一ヶ所ノ字ナキニヨリ法律ノ裏面ヨリ見解ヲ下セハ場所ノ多少ヲ問ハサルモ其精神ハ酒造稅則第一條ト同一ナラン蓋シ法律ハ其主義ヲ二三ニスヘキ理ナキニヨレハナリ

○卅一番 玉乃 世履 十六番ノ受賣稅ヲ廢スルノ修正ハ大ニ立接ノ旨ニ背ケリ何トナレハ製造人ト受賣人トハ其利益ノ減スルニ從ヒ亦其稅ノ減セサルヲ得サル者ナレハ受賣人ノ稅ヲ出スハ即チ間稅ニシテ其實製造人之ヲ出ス者ナリ然ルニ原案製造人受賣人共ニ五拾圓ヲ出スノ規則ナレハ之ヲ比例スレハ即製造人百圓ヲ出スノ理ナリ修正委員ノ報告按ハ既ニ受賣稅ヨリ二拾圓ヲ減シテ之ヲ三拾圓トナセシニ又更ニ三拾圓ヲ廢スルニ至レハ遂ニ製造稅ヲ半減スルノ理ニシテ本按ノ精神ハ全く崩壞セン故ニ本官ハ之ヲ贊成スルコト能ハサルナリ蓋シ製造人受賣人ニ稅ヲ課スルハ多ク米ヲシテ廢センメサルカ爲メナリ若シ米ヲ廢スル者ニ課稅スルヤト問ヘハ

ハ其物品ヲ多少製造人ヨリ買受ケ之ヲ賣ル者ナラン既ニ買受ケテ賣ル者ヲ受賣ト云ハ、其賣額ノ多少ハ行商居賣何ノ擇ハン此意ヲ擴充セハ僅ニ一擔石ヲ賣ル者モ五拾圓ノ税金ヲ收メサル可ラス是レ獨リ苛刻ナルノミナラス酒造稅則ニモ背馳シ間稅ヲ廢シテ直稅ト爲スモノナリ惟フニ直稅ノ人心ニ感スルノ深厚ナルハ固ヨリ各位ノ知所ナラン然ラハ則チ同按中ニ法律其主義ヲ二三ニシ一ハ直稅トナシ一ハ間稅ト爲スハ何ノ理由ナリヤ若シ夫レ切ニ受賣人ニ課稅セント欲スルノ意ナラハ寧ロ造石稅ヲ課スルヲ可トス況ヤ受賣ノ字義タル慢然區域ナキ者ナレハ世人ハ必ス政府ハ何ノ爲ニ受賣ノ字ヲ下スヤヲ咎ムルノ恐アルヲヤ

○十六番 細川 潤次郎 卅一番ハ醬麴ハ米ヲ糜スル者ニシテ天下ノ大經濟ニ關スルニ由リ多稅ヲ課スルモ不可ナシト說ケリ此論ヤ從來五州ノ通論ニシテ本邦幕政ノ間野中謙山等モ大ニ之ヲ主張セント雖モ今ニシテ之ヲ見レハ論旨業已ニ陳腐ニ屬セリ夫レ目下米價高貴ノ原因ヲ繹スルニ輸出入ノ不平均紙幣ノ落價及ヒ人民日一日ヨリ奢侈ニ赴キ米ヲ常食スル者ノ多キ米ヲ海外ニ輸出スルモノ夥シキ等其因枚舉ニ遑アラサルナリ今若シ酒類ヲ一切禁斷セハ或ハ可ナルモ苟モ然ラズシテ徒ニ醬麴受賣ニ課稅スルモ決シテ其影響ナキヲ知ル

乃チ有害無益ノ物ニ貴重ノ食料ヲ費シ其レヲシテ高價ナラシムルカ爲ナリ能ク本按ヲ分析スルキハ前陳ノ理由ハ必ス釋然タラン修正ハ不可ナリ

○廿六番 柴原 本條ハ自家飲料ヲ制スルノ法按ナレハ受賣稅ハ之ヲ廢スルヲ要セス蓋シ酒類ニ受賣小賣稅ヲ廢スルハ僻邑邊陲ニ不便少カラサルヲ以テナリ此事ニ就テハ本官職ニ地方ニ在ルノ日意見ヲ大藏卿ニ呈セシヨリ當時ハ之ヲ採用スル所ナラサリシモ今日既ニ公論トナリテ之ヲ廢スルニ至レリ然レモ東京ノ待合船宿業等ニ其小賣稅ヲ課スルカ如キハ乃チ之ヲ府會ノ決議ニ任シテ可ナリ要スルニ本按受賣稅ヲ廢スルトハ當ニ政府増稅ノ目的ニ背クノミナラス奢侈物ニ重稅ヲ課スルハ世ノ保護ナレハナリ

○十五番 安場 保和 廿六番ハ請賣小賣稅ノ事ハ之ヲ府會ノ決議ニ任スルモ可ナリト論スレモ本按ハ則チ國稅ナリ豈地方稅ニ關センヤ且酒類ノ受賣小賣ニ於テ其不便アルヲ知ラハ醬麴又何ソ之ヲ擇ハンヤ若シ廿六番等ノ說ノ如クセハ世ノ奸商輩ハ種々ノ口實ヲ飯リテ連稅ノ道ヲ求メ合途ニ行ナレサルニ至ラン

○八番 山口 尚芳 十六番ヲ贊成ス但字句ハ第三讀會ヲ俟テ更ニ修正センノミ修正委員ノ報告按ニ受賣稅ノ目アリ抑々受賣ト

況ヤ内閣ノ意モ多ク酒造ニ在リテ醬麴ニアラサルヲヤ若シ内閣ノ意醬麴ニアラハ何ソ之ニ造石稅ヲ課セサルヤ到底受賣稅ノ取舍ヲ以テ全國ノ經濟ヲ說クハ或ハ不經タルヲ免レサラン又廿六番ハ醬麴受賣ニ課稅セサレハ増稅ノ目的ニ背クト論スレモ本按既ニ造酒家ノ自造ニ掛ル醬麴ニ課稅セサルヲ見レハ修正ノ意必スシモ起草ノ目的ニ背クニアラサルヲ知ルヘシ

○卅一番 玉乃 世履 十六番ハ本官カ說ヲ評シテ陳腐ナリト駁スレモ是レ決シテ然ラス試ニ見ヨ今日米價ノ騰貴ハ極點ニ達スルニ方リ酒ヲ飲ンテ飢ヲ忍フ者アリヤ飢ヲ凌テ酒ヲ忍フ者アリヤ是レ言ハスシテ其關係ヲ判然セシムヘシ夫レ這般酒稅規則ノ改正タル其意自カラ米價ノ騰貴ヲ救フノ一ニ居レリ之ヲ病者ニ譬ヘンニ同ク是病ナリト雖モ其原因ヲ尋ヌレハ亦種々ノ併合ヨリ成ル今之ヲ療スルハ例ヘハ糸ヲ治ムルト同ク先ツ其一原素タル緒ヲ治メ漸次ニ之ヲ救ハサル可ラス米價ヲシテ低價ナラシムルモ其病原ハ酒ニ在リ若シ酒ヲ治メスンハ其全部ノ快復ヲ願フハ所謂木ニ縁テ魚ヲ求ムルカ如シ又酒ヲ嚴禁スルノ精神トセハ或ハ可ナラントノ論アリ其然リ實ニ之ヲ禁斷スルノ精神ナリ例ヘハ彼ノ阿片ノ如シ元來是レ毒物ナルヲ以テ我邦之ヲ嚴禁スルモ支那ハ猶之

ヲ默許シテ到底我カ酒ヲ飲テ勞ヲ慰スルト一般ノ弊風ヲナセリ今酒ト飯トハ孰レカ阿片ニ類スル乎ト問ヘハ其酒ナルヤ問ハスシテ知ル可シ是等ノ理由ナルヲ以テ其受賣人ニ至ル迄悉皆稅ヲ課スルハ即チ其製造人阿片ニ似タル毒物ヲ製造賣販スルヲ以テ彼ノ遊女ノ制ト同ク有害無益ノ者ハ不得止之ヲ營業セシムルモ其實漸次衰滅ニ就カシムルノ精神ニアリ誰レカ米ヲ全國ノ大經濟ニ關セスト云フヤ

○十番 眞作 十六番述フル所ノ精神ハ之ヲ首肯セサルモ其修正ノ文字ニ至テハ切ニ贊成ス夫レ酒造場ハ一ヶ所トシテ明了ニ之ヲ示シ本按ハ一期トアリテ箇所ノ事ナシ元來免許ハ人ニ與フル者ニシテ場所ニ與ハサル者ナルヲ本官之ヲ確信ス惟フニ從前酒類ハ一種拾圓ニシテ改正ハ壹箇所五十圓タリ是レ内閣委員ノ言ノ如ク前後ノ關係アルニヨリ場所ニ與ヘスシテ人ニ與ヘハ或ハ増稅ノ主義ニ戻ル可シト雖モ醫麴ニ至テハ全ク之ト異ナリ現ニ十二番ノ期讀セシ文中ニアルカ如ク明治六年ニ半分ヲ取り爾後無稅ナル者ニ今更メテ徵稅スルヲ以テ稅額ノ増減ヲ生スルノ理ナシ但本按一ヶ所ノ文字ナキニヨリ一人一免許證札ヲ得テ或ハ奥羽全部ニ製造場ヲ開クモノアルモ知ル可ラスト雖モ是レ止ムヲ得サルナリ

○議長 十六番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ十六番ノ修正ニ決ス時已ニ午ヲ過ク一旦散會セヨ

午後零時二十分開場

午後第一時開場

○議長 午前引續ノ會ヲ開ク

○卅三番 渡邊 本按釀造酒類云々ノ脚註ハ不可ナリ修正委員ノ說ヲ聽クニ醫麴ハ清酒ノもとニ限ルカ如シ果シテ然ラハ判然「清酒ノもと」ト記スヘシ否ラスンハ濁酒ノもとモ亦之ニ容ルモノト誤解スルノ恐アリ仍テ釀造酒類云々ハ「清酒ノもと」ト修正スルヲ可トス

○廿七番 眞道 贊成

○議長 卅三番ノ修正說ハ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外 一番 秋成 卅三番ノ修正ハ蓋シ醫麴ノ意義ヲ謬ルニ起因セリ何トナレハ醫麴ハ獨リ清酒ノもとノミニ非ス清濁ノもとモ併セテ之ヲ言フ即チ清酒ノもとヲ乾元ト稱シ濁酒ノもとヲ腐元ト稱シ兩者共ニ醫麴製造家ニ於テ製セリ故ニ本按ニ「釀造酒類云々」ト「類」ノ字アルハ是醫麴ニ清濁二種アルカ爲メナリ但腐元ハ其購求者多カラサルニ依リ醫麴製

造家ト雖モ常ニ之ヲ造リ以テ其需用者ヲ缺ツニ非ス會々入ノ依頼ニ應ジテ之ヲ造ルモノタルノミ

○卅三番 渡邊 内閣委員ハカラシメントクサレモトノ兩種共ニ醫麴製造家ニ於テ販賣スト云ト雖モ九州地方ノ如キハ麴屋ニテ「クサレモト」ヲ販賣スル者アリ是等ハ味噌醬油ノもとト類別シテ課稅スルカ其繁雜言フ可ラス若シ夫レ此ノ如クンハ本按ハ益々修正セサルヲ得サルナリ

○外 一番 秋成 麴ヲ探偵調査シテ之ニ課稅スルニ非ス自釀家等ノ委託ニ依リ麴屋ニテ「クサレモト」ヲ造ルハ稅ヲ付セス只醫麴營業者ニ課稅スルニ在ルナリ

○卅三番 渡邊 内閣委員ノ說ノ如クンハ麴屋ニテ人ノ委託ヲ受ケ「クサレモト」ヲ造ルハ無稅ニシテ醫麴製造者ノ之ヲ造ルハ稅アリト云フカ如シ豈偏頗ノ法律ナラスヤ此ノ如クハ本官ハ愈々前說ヲ固クセリ

○議長 卅三番ノ修正說ニ同意者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルニ依リ卅三番ノ修正ハ消滅ス以下條項簡單ナルヲ以テ適宜ニ三四ヶ條ヲ連帶シテ決議ニ付ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ

酒造稅則案、醫麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年

十月中管廳ヘ届出ヘシ

○十五番 安場 第四條「毎年十月中」ノ五字ヲ削除スヘシ

○十番 眞作 贊成

○議長 十五番ノ修正說ハ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○八番 山口 十五番ノ修正ハ一理アルモ尙未タ盡サ、ル所アリ何トナレハ本按ノ精神ハ何時其届出ヲ爲スモ可ナリト言フニ非ス蓋シ其期限迄ニ其届出ヲ爲サシメ以テ石數調査ノ便ニ供セントスルニ在ルノミ然レハ本按ノ如クンハ新規營業者ニ對シテ恐ラクハ不都合アラン例ヘハ一月ニ免許ヲ受ル者等ニ至リテハ其届出ヲ如何シテ可ナラン是十五番ノ動議因テ起ル所以ナルヘシ然レハ其說ニ從ヘハ又何時其届出ヲ爲スモ可ナルカ如シ故ニ本官ハ本按起草ノ旨趣ト十五番修正ノ精神トヲ折取シ本按ニ但書ヲ添加シテ、但新規免許ヲ受ル者ハ其時々届出ヘシトセントス猶十五番修正消滅スル如クンハ更ニ之ヲ辯セン

○十五番 安場 保和 本官ノ旨趣ハ八番ノ修正說ト異ナルニ非ス故

五六五

ニ其説ノ如クナルモ敢テ異議ナシトス

○十六番 細川 本官ハ猶少ク異存アリ既ニ見込ノ石數トアラハ或ハ其増減アルヘシ故ニ酒造稅則第廿五條但書ノ精神ト其文例トニ則トリ「但石數ノ増減ハ其時々届出ヘシ」ト

ノ但書ヲ加ヘ仍本文ナル「其一期中」ヲ「其節」云々「見込ノ石數毎年云々」ヲ「見込ノ石數ヲ管廳」云々ニ作ラントス仍テ目下ノ問題ニハ不同意ナリトス

○十番 巖作 本官ハ十五番ノ修正説ニ同意セント雖モ猶八番十六番ノ修正説等漸次明備ヲ盡セルヲ以テ敢テ前説ヲ固執セサルナリ

○卅一番 玉乃 本官ハ第三條ニ係リ修正説アルニ依リ目下ノ問題決議ニ至ルヲ俟テ之ヲ辯セントス乃チ例ニ從ヒ預シメ一言ス

○議長 十五番ノ修正説ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルニ依リ十五番ノ修正説ハ消滅ス

○卅一番 玉乃 第三條「一期中何月」ヲ「何時」トスルヲ可トス何トナレハ第二條ニ「十月一日ヨリ云々九月三十日迄ヲ以テ一期トス」トアリ又第四條ニ「毎年十月中云々」トアリ十月中ニ石數ヲ届出ントセハ新夕ニ免許ヲ受ルハ十月

前ニアラサレハ不都合ナルヘシ然ルニ本條ニハ「何月ニ新規免許」云々トアルヲ以テ十月ニ之ヲ受ルモ猶妨ケナキカ如シ故ニ「何月」ヲ「何時」ニ改テス可シ

○議長 卅一番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○八番 山口 本官ハ前ニ陳述シタル旨趣ニ依リ本條ニ「但新規免許ヲ受ル者ハ其時々届出ヘシ」トノ但書ヲ加ヘ仍ホ且本文届出ノ下「ヘシ」ノ二字ヲ削除シ之ニ填スルニ「其石數ノ増減ハ其時々届出ヘシ」トノ十四字ヲ以テセントス此ノ如クセハ届出ノ文字重複スルニ由リ或ハ別ニ一條ヲ設置スルモ可ナルカ如シト雖モ一條中ニ包括セハ更ニ簡便ナリト思考スルヲ以テ此ニ修正ヲ提出スルヲ爾リ

○議長 八番ノ修正説ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○十六番 細川 本官ハ八番ト其旨趣同一ナレモ文字上違フ所アリテ之ヲ賛成スルヲ能ハサリシ乃チ本文「其一期中」ヲ「其節」云々「見込ノ石數毎年」云々ヲ「見込ノ石數ヲ管廳」云々ニ作り且但書ヲ加ヘテ「但石數ノ増減ハ其時々届出ヘシ」ニ作ラントス其理由ハ前ニ陳述シタルヲ以テ此ニ賛セス

○十七番 伊丹 賛成

○廿四番 福羽 賛成

○議長 十六番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○八番 山口 十六番ノ修正ハ「毎年十月中」ノ五字ヲ削除シ其届出ニ期限ヲ設ケサルカ如シ敢テ其故ヲ問フ

○十六番 細川 酒造稅則第廿五條ニ「免許ヲ受タル者ハ其節云々」トアリ乃チ彼ニ則トリ本按「一期中」ノ三字ヲ「節」ノ一字ニ改作スルニ因リ「毎年十月中」ノ五字ヲ削除シ之ニ「ヲ」字ヲ填入シタルナリ敢テ期限ヲ設ケサルニ非サルナリ

○八番 山口 十六番ノ修正説ハ本官ノ前説ヲ善美ニシ毫モ間然スヘキナシ仍テ之ヲ賛成ス

○議長 十六番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ十六番ノ修正ニ決シ更ニ第二第三條本按ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルニ依リ本按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

酒造稅則案、釀造營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳

ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セン時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

○議長 本按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ本按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ釀造賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戸外ニ掲出スヘシ

第二章 罰令

第九條 免許鑑札ヲ受ケス釀造營業スル者ハ科料トシテ其營業稅ニ倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

○十六番 細川 此ニ一條ヲ増補セントス酒造稅則第廿三條ニ「免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス」トアリ彼已ニ然レハ釀造營業免許鑑札ト雖モ亦然ラサルヲ得ス而シテ本按若シ此條ヲ掲ケスンハ人民ノ其鑑札ヲ貸借スルモノアルモ因テ罰

スヘキ途ナントス故ニ該全文ヲ移シ來リテ之ヲ「第九條」トシ第二章ノ甫メニ填入シ現今ノ「第九條」ヲ「第十條」其「第十條」ヲ「第十一條」ト改メ且本條ハ酒造稅則ニ於ル如ク禁令ノ部ニ入ルヘキモノナルヲ以テ此第二章「罰令」ノ上ニ「禁令」ノ二字ヲ加フルヲ可トス

○卅二番 幸 林友 賛成

○議長 十六番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十番 贊作 十六番ニ問フ免許鑑札貸借云々ノ一條ヲ增補スルハ固ヨリ不可ナシト雖モ酒造稅則ニハ第三十條アリテ鑑

札ヲ借受ケ又ハ之ヲ貸與セル者ヲ罰スルノ法ヲ示シ前ノ第廿三條ト相應セリ然ルニ此ニ其貸借云々ノ一條ヲ掲ケ而シテ其罰令ノ明文ヲ載セサルハ稍足ラサル所アルカ如シ知ラス十六番修正ノ意ハ果シテ何ニ在ルヤ

○十六番 細川 十番ノ質疑ニ答ヘン原來本規則ハ酒造稅則ノ精且密ナルカ如クナラス彼ニハ造石稅アレ此ニハ之ナ

キ等其權衡モ亦相同シカラス然レレ已ニ此禁令アレハ固ヨリ其罰令ナカル可ラス乃チ本按第十條ニ「其他ニ違反云々」トアルヲ以テ該條ニ問ヒ其罰ヲ課スル是レ本官ノ意見ナリ

○卅一番 玉乃 世履 十六番ヲ賛成ス原來本按ハ酒造稅則ニ比スレ

元老院會議筆記 明治十三年九月十六日

○第百九十九號議案 酒造稅則布告案、醫藥營業稅則布告案、自家飲料酒類製造限定限布告案

第二讀會 九月十五日ノ續

議長 佐々木高行 代理

出席議員

- 一番 楠田英世
- 二番 東久世通禧
- 三番 山口尙芳
- 四番 黒田清綱
- 五番 箕作麟祥
- 六番 楠本正隆
- 七番 福岡孝弟
- 八番 河田景與
- 九番 安場保和
- 十番 細川潤次郎
- 十一番 伊丹重賢
- 十二番 岩村通俊
- 十三番 渡邊 讓
- 十四番
- 十五番
- 十六番
- 十七番
- 十八番
- 十九番
- 二十番

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造限定限案

ハ其文モ簡略ニシテ其法モ亦嚴ナラサルヲ多シ乃チ目下十番ノ質疑ノ如キモ罰法ハ十六番ノ說ノ如ク第十條ニ據テ處分シテ可ナリトス

○議長 十六番ノ修正說ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ十六番ノ修正ニ決シ更ニ第十條第十一條ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ本按ニ決ス

○番一 秋成 引續自家飲料酒類云々ノ第二讀會ヲ開カレンヲ企望ス

○議長 内閣委員ノ請求ニ同意者ハ起立セヨ

起立者一人

○議長 少數ナルニ依リ内閣委員ノ請求ハ消滅シ明日午前第九時ヨリ自家飲料酒類製造限定限布告按ノ第二讀會ヲ開クヘシ散會セヨ

午後第二時三十五分閉場

- 廿二番 大給 恒
- 廿六番 柴原 和
- 廿七番 津田 眞道
- 廿八番 大久保 一翁
- 廿九番 伊集院 兼寛
- 卅二番 林 友幸
- 卅三番 渡邊 昇
- 内閣委員 番外 大藏權大書記官 戸田 秋成
- 午前第九時四十分閉場

○議長 本日ハ議長他ノ公事アルニヨリ本官代理ヲナシ第百九十九號議案中自家飲料酒類製造限定限布告案修正報告案ノ第二讀會ヲ開ク各位例ニ遵ヒ發議スヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

自家飲料酒類製造限定限布告按修正

附則

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スル者ハ一ケ年三石 各種製造スルトキニ超ヘカラス若シ三石ヲ超ルトキハ其酒類ヲ沒收シ三拾圓ヨリ少カラス六拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

○廿六番 柴原 本官ハ修正委員タルヲ以テ一應改刪ノ理由ヲ

述ノ或論者ハ本按ヲ以テ直ニ酒造稅則中ニ編入スヘシトノ
議アリ然ルニ既ニ前會ニ於テ十六番ノ陳述セシ如ク其單行
ヲ須ヒサルハ固ヨリ然リト雖モ之ヲ本則中ニ編入スルハ亦
穩安ナラス如カス酒造稅則ノ附則トナスノ適當ナルニハ
乃チ本官等カ之ヲ附則トナシテ報告セシ所以ナリ蓋シ原按
ニ摠テ酒造營業者ヲ以テ論スヘシトアルハ是ナラス然ラハ
則チ其違犯者ハ之ヲ本則ニ從フヘシト爲サンカ是亦然ラサ
ルモノアリ何ソヤ若シ本則ニ從フヘシト爲サハ營業免許鑑
札及造石稅ヲモ徵課セサルヘカラサレハナリ今本按ニ其酒
類ヲ沒收シ三十圓ヨリ少カラス六十圓ヨリ多カラサルノ罰
金ヲ科スヘシトセシハ乃チ本則第廿七條ニ照準セント欲シ
テナリ蓋シ三十圓ハ免許鑑札ニシテ六十圓ハ其二倍ノ罰金
トス論者或ハ言ハン其罰ヤ輕ニ過クルヲ如何ト是亦決シテ
然ラサルナリ既ニ其酒類ヲ沒收シテ更ニ罰金ヲ科ス何
ノ輕キカ之レアラシク然レモ尙進シテ器械ヲ併セテ沒收セサ
ルモノハ乃チ苛酷ナリトノ誹リヲ免レンカ爲メナリ且ヤ一
石ヲ三石ト修正セシハ或ハ酒造家ノ專賣權ヲ殺クニ似タリ
ト雖モ前會ニモ該石數ニ就テ多ク議論ノ紛出セシモ亦其少
ニ過ルヲ徵スルニ足ルヘシ惟フニ原按一石ト定限ヲ立テシ
ハ慣習ノ久シキ倏然禁止スルニ忍ビサルノ情實ヨリ成レル

シ論者ノ言ノ如クセハ其止ムヲ得スシテ自家飲料ヲ許スノ
主趣ニ戻リ却テ之ヲ勸奨スルモノト云ハサルヲ得ス是レ本
官カ本按ヲ目シテ酒造稅則ノ精神ニ背馳スト云フ所以ナ
リ
○番一 番 秋 田 茲ニ修正按ヲ見ルニ一石ヲ三石トシ罰文モ亦
改削セリ是皆不完全ノ者ナルヲ以テ一々之ヲ辯駁セサル可
ラス夫レ三石ノ說ハ會テ十二番ノ發論ニ係リ既ニ問題ト
ナリシモ遂ニ消滅セシモノニシテ再ヒ之ヲ議場ニ上スヘカ
ラサルモノトス夫ノ歐米各國ニ於テモ斯ル成規ノ決シテ之
アラサルヲ信スト雖モ既ニ議場ノ問題タル上ハ到底之ヲ論
破セサルヲ得ス蓋シ三石ノ不可ナル所以ハ遠ク其理ヲ求ム
ルヲ要セス則チ酒造稅則ノ精神ヲ明了シ既ニ之ヲ可認セハ
毫モ異議ナキノ理ナリ何トナレハ本案全体ノ原則ハ皆一石
ヲ以テ限リトセリ然ルニ其原則タル稅則ハ之ヲ認可シテ獨
リ自家飲料ノミ可認スヘカラストナスハ何ノ理由ナリヤ試
ニ思ヘ目下改正ノ稅則ニヨレハ清酒濁酒共ニ格別ノ増稅
ヲナセシニ只自家釀造ノミ三倍ノ寬裕ヲ與ヘントスルハ更
ニ其趣向ヲ知ラサルナリ蓋シ酒稅ヲ增加セハ酒價モ亦昂貴
セサルヘカラス酒價既ニ昂貴セハ自家釀造ノ數增加スルニ
至ルヤ自然ノ理勢ナリ是レ前年一圓ノ酒稅ヲ定メシ時ニ方

酒造稅則案、營業營業稅則、自家飲料酒類製造定限案

モノナリ既ニ情實ヨリ成レルモノトセハ之ヲ擴充シテ三石
ト爲スモ背テ不可ナキヲ信スレハナリ

○八番 山口 本按ハ不是ナリ抑々原按ヲ穩當ナラスト爲スハ
其單行律タルヲ以テナリ敢テ石數定限ノ如何ニ由ルニ非ス
然ルニ修正委員ハ今定限ノ石數ヲ更メテ三石トセリ是寔ニ
要用ナリト爲サス當ニ不用ナルノミナラス又以テ酒造稅
則制定ノ精神ニ背馳スルモノト言ハサルヘカラス蓋シ今回
酒ニ重稅ヲ課スルハ一ハ以テ政府財政ヲ救濟スルカ爲メニ
シ一ハ其有害無益ナルカ爲メニスルナリ既ニシテ此稅ヲ
課スレハ又之カ保護ナカルヘカラスト爲スハ該稅則ノ精神
ニシテ酒造家ニ專賣營業ヲ許ス所以ナリ但夫ノ農家等ニ在
テハ自家飲料ノ爲メ酒ヲ釀造スルハ古今ノ常ナリ然ルニ今
忽カ之ヲ嚴禁シ一勺ノ自釀ヲモ許サストナスハ誠ニ忍ヒ
サルモノアリ依テ特ニ仁慈ヲ以テ石數ヲ限リ其釀造ヲ許サ
ントナスハ乃チ原按ノ主趣ニシテ其制限ヲ一石ト定メタル
ハ蓋シ全國ヲ通シテ其石數中人ノ容量額ナルヲ以テナリ論
者或ハ言フ既ニ一石ヲ允ス三石何ソ許スヘカラサランヤト
是決シテ否ラス其富者ニ在テハ二石若クハ三石ト雖モ猶不
足ト爲スヘキモ此ノ如キハ其數實ニ少ナシ今其少ナキモノ
ヲ以テ多キモノ、標準ト爲スハ豈法ヲ立ルノ途ナランヤ若

リ著シク自釀ヲ倍從セシヲ以テ明証ト爲スニ足ラン苟モ増
稅ノ目的ヲ達セントセハ嚴ニ自家釀造ヲ制止セサルヲ得ス
乃チ營業ト自釀トハ自カラ痛痒相關スルモノナレハナリ但
我今日ノ景況ヲ洞觀セハ斷然舊習ヲ斥ケテ之ヲ禁止スルニ
忍ヒサルモノアリ仍テ其制限ヲ壹石ト定ムルハ所謂中正至
當ナリト確信セリ若シ夫レ之ヲ三石トシ一日始ト一升ノ比
例ニ至ラハ酒造規則ハ寧ろ徒法タルニ過ス又罰則ニ六十圓
トアルハ本則第二十九條ナル稅額ニ二倍セントノ意ナルヘ
シト雖モ彼ハ既ニ酒類沒收ノ事アリ自家釀造ニ至テハ其犯
則發覺ノ時既ニ其料ヲ飲レセハ將ク如何スヘキ此ノ如キハ
決シテ其取締ヲ立ヘカラサルナリ之ヲ要スルニ本按ノ如キ
ハ全ク無用ノ修正タレハ斷然之ヲ廢滅スルニ如カサルナ
リ

○廿六番 柴原 內閣委員ハ一旦消滅セシ石數ハ再起スルヲ得
スト駁スト雖モ本官固ヨリ之ヲ了知セサルニアラス然レモ
前會ニ於テ十二番ノ一石ヲ三石ト爲スノ動議ハ本官乃チ之
ニ同意スト雖モ他ニ不是ト認ムルモノアルヲ以テ全体ニ左
袒セサリシ然ルニ其說已ニ消滅シテ後更ニ本官ノ意見ヲ陳
ヘ以テ特別ノ建議ヲナシ十六番モ亦贊成セリ然レハ則チ此
修正案ハ十二番ノ說ニ似テ非ナルモノナリ決シテ消滅ノ議

ヲ再發セシニアラス

○十二番 楠本 原來自家飲料ニ稅ヲ課スルハ本官ノ最モ不可トナス所ナリ然レモ亦已ムヲ得サルノ情義アルヲ察シ前會既ニ之ヲ三石ト修正セシモ不幸ニシテ其說遂ニ消滅セリ今委員ノ修正ヲ閱スルニ適マ本官ノ心ヲ得タルヲ以テ大ニ之ヲ贊成ス何トナレハ本則ヲ以テ斷然自釀ノ禁ヲ立ルモノトセハ敢テ之ヲ問ハス苟モ之ヲ許スニ於テハ三石或ハ五石トスルモ何ノ妨ケアラシ全體人民自ラ酒ヲ造リ自ラ之ヲ飲ムモノニ對シ稅ヲ課スルカ如キハ政府ニシテ無用ノ干渉ト云フヘシ若シ原按ノ如クシテハ假ヒ一石ヲ許スト云モ其實飲酒ヲ禁スト一般ニシテ本官素ヨリ其可ヲ知ラス故ニ寧ロ三石トシテ聊カ自由ヲ與ントスルナリ

○外 一番 戸田 十二番ノ本案ヲ贊成スルハ乃チ前日ノ發議者ナレハ素ヨリ怪ムニ足ラス其石數ノ不可ナルハ既ニ陳辯セシヲ以テ更ニ喋々セス只本按ニ罰金六十圓トセシハ第廿九條ノ稅額ヲ二倍シタルモノトセハ其語病如何ハ之ヲ咎メサルモ原按ノ旨意ハ制限ヲ過クル時ハ乃チ營業者ト一般ニ見做スト云フニ過キス然ルニ本按ニハ沒收シ云々トアルモ既ニ其釀料ヲ消盡シタル時ニ方リ之ヲ處分スルハ將タ何ニ由ラントスルヤ但第廿九條ニハ但書ヲ添テ其處分法ヲ詳ニス

テ可トスト云フト雖モ本官ハ亦其多キニ過ルヲ覺フ故ニ其中庸ヲ擬ミ之ヲ二石トセハ大ニ適當ヲ得ヘシ

○議長 卅三番ノ說ハ贊成者ナキヲ以テ消滅ス

○十六番 細川 本官ハ原按ノ一石ニ復スルヲ可トス其他ハ卅三番ノ所見ト大差ナシ蓋シ増稅ハ素ヨリ欲セサル所ナレ

モ酒造管理ノ爲メ且財政ノ困難ニ際シ之カ増稅ヲ徵スルモ亦已ムヲ得サルモノナルヲ奈何セン仍テ之カ爲メ其中正不偏ノ制限ヲ擇メハ乃チ原按ノ如ク之ヲ一石トナスヲ適當トス然レモ之ヲ單行ノ布告トスルハ穩安ナラス修正按モ亦不備ナルヲ免カレサルヲ以テ其酒類以下本按ノ文ヲ刪リ「酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノ爲メ酒類ヲ製造スル者ハ一ケ年一石 各種製造スル者ハニ超ヘカラス若シ一石ヲ超ル時ハ總テ本則ニ從フ可シ」ト修正セントス此ノ如ク修正セハタトヒ名ハ附則ナルモ全ク罰則ヲ主トスル單行法律ナリ若シ之ヲシテ不可ナリトセハ寧ロ十五番ノ說ノ如ク太政大臣署名シテ以テ天下ニ公布スルヲ優レリトス故ニ本官ハ自カラ信ス本修正ノ如キハ附則ノ名アリテ其實稅則ニ相離レ

○廿二番 大給 贊成

○議長 十六番ノ說ハ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

酒造稅則案、醬麴營業稅則、自家飲料酒類製造定限案

ルモ本按ハ又之ヲ須ヒス豈不完全ナル法按ナラスヤ

○十五番 安場 自家ノ飲料ニ至ルマテ太政大臣ヨリ單行ノ布告ヲ以テ之ヲ取締ルハ大ニ干渉ニ過ルノ嫌ヒアルヲ以テ本按ノ如ク修正セシモノナルヘシト雖モ能ク之ヲ熟考スルニ寧ロ依然トシテ太政大臣ノ布告ト爲スヲ可トス何トナレハ酒造稅則ノ如キハ專ラ釀造家ニ必用ノモノナルモ敢テ一般人民ニ適實ナラス然ルニ其適實ナラサル法令ノ附則トシテ之ヲ頒布セハ人民或ハ之ヲ輕々ニ看過シ恐クハ自釀ノ規則ヲ知ラサルニ坐スルアラシ抑現今ノ人民タル其一般ノ布告ヲ周知スルモノハ極テ稀ナリ故ニ本按ノ如キハ一層鄭重ヲ加ヘ單行ノ布告トシ能ク觸目セシムルヲ最モ緊要ノ事トスルナリ

○議長 十五番ノ說ハ贊成者ナキヲ以テ消滅ス

○卅三番 渡邊 本按「若」以下ハ罰例ナルモ之ヲ實際ニ徵セハ大ニ障礙アルヲ覺フ仍テ本官ハ制限外ニ釀造セント欲スルモノハ都テ營業者ト同一視スルノ法ニナサントス乃チ「酒類云々」以下ヲ削除シ代フルニ「總テ本則ニ從フヘシ」ト爲ントス何トナレハ夫ノ塞國ノ如キハ自家ニテ幾百石ヲ釀造セント欲スルモノハ其營業規則ニ從ハシメテ毫モ妨ケナク則チ之カ便利ヲ與フルモノナリ又或說ニ三石ヲ以

○八番 山口 贊成

○一番 楠田 贊成

○議長 十六番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 半數ナルニ由リ議長之ヲ判決シ即チ十六番ノ修正ニ

決ス

○一番 戸田 本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ例規ニ拘ハラズ本

日午後引續第三讀會ヲ開レンコトヲ希望ス

○議長 內閣委員ノ請求ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者五人

○議長 少數ナルニ依リ內閣委員ノ請求ハ消滅ス

○一番 戸田 定規ニヨレハ第三讀會ハ第二讀會ヨリ二日間

ヲ隔ツヘキナレモ前陳ノ如ク本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ明

日直ニ開場アランコトヲ企望ス

○議長 內閣委員ノ請求ニ應シ明日第三讀會ヲ開クニ同意ノ

者ハ起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルニヨリ明日第三讀會ヲ開クヘシ散會セヨ

午後零時第二十分閉場

元老院會議筆記 明治十三年九月十七日

○第一百九十九號議案 酒造稅則布告按、醬麴營業稅則布告按、自家飲料酒類製造定限布告按

第三讀會

議長 佐々木高行 代理

出席議員

一番	楠田英世
二番	神田孝平
三番	水本成美
四番	東久世通禧
五番	本田親雄
六番	山口尙芳
七番	黒田清綱
八番	箕作麟祥
九番	楠本正隆
十番	福岡孝悌
十一番	河田景與
十二番	安場保和
十三番	細川潤次郎

十七番	伊丹重賢
十八番	渡邊 驥
十九番	鶴田 皓
二十番	大給 恒
廿一番	福羽美靜
廿二番	柴原 和
廿三番	津田真道
廿四番	大久保一翁
廿五番	伊集院兼寛
廿六番	玉乃世履
廿七番	林 友幸
廿八番	渡邊 昇
廿九番	戸田秋成

内閣委員 一番外 大藏權大書記官

○議長 本日ハ議長他ノ公務ニテ欠席ニ付本官代理シ第百九十九號議案第三讀會ヲ開ク例ニ依リテ發議スヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

布告 按

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行シ從前ノ

酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

○八番 山口 布告按ノ題號ニ「酒造稅則」トアリ然ルニ本規則ハ一般酒造營業ノ手續ヲ示スモノニシテ則チ第一條ニハ

其營業ヲ爲サントセハ免許鑑札ヲ受クヘキヲ掲ケ第二條ニハ酒ノ種類ヲ分ケテ其製造シ得ルモノヲ載スルカ如ク廣ク酒造ノ順序ヲ述ヘ獨リ稅ノ事ノミニ止ラサルナリ然ルニ單ニ稅則トセハ名實自カラ相副ハサルモノアリ依テ之ヲ「酒造規則」ト修正セントス此ノ如クシテハ稅率ハ無論此中ニ含有シ酒造ニ關スル事ヲ一般ニ總括シ得テ可ナラント

ス

○廿六番 柴原 贊成

○二十番 渡邊 贊成

○四番 水本 贊成

○卅三番 渡邊 贊成

○廿八番 大久保 贊成

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

○議長 八番ノ修正說ハ五名ノ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス
○十六番 細川 八番ノ修正ハ至極穩當ナルカ如シ然ルニ本按若シ稅ノ字ヲ廢スルニ至ラハ凡テ牽連スルモノハ同一ニ爲スヘキヤ即チ彼ノ醬麴營業稅則ノ如キハ如何
○八番 山口 已ニ之ヲ酒造規則トスレハ醬麴ノ稅則モ亦之ニ準スヘシト雖モ該按ハ猶未問題タルニ至ラス仍テ其時機ヲ待テ更ニ之ヲ述ヘント欲スルナリ

○廿四番 福羽 本官モ規則トスルハ同按ナレモ只酒造規則ト云フハ其意味足ラサルカ如シ今試ミニ之ヲ修正セハ或ハ酒造營業規則トナスンハ不可ナリトス故ニ此修正ノ行ハレシヨリハ寧ロ原按ノ勝レルニ如カス

○卅一番 玉乃 八番ノ修正ノ如キハ之ヲ略說スレハ酒ノ製造方法ト云フカ如シ良シヤ之ヲ酒類ノ法律ナリトスルモ稅ノ字ヲ省クハ收稅ノ事ハ果シテ此裡ニ含ムヤ否ヤ先ツ題號ニ就テ疑惑ヲ生スヘキヲ恐ル到底本按ハ收稅ヲ目的トスルモノナレハ稅ノ字ハ存セサル可ラス夫ノ酒造取締規則ノ如キトハ自カラ同シカラサルナリ

○八番 山口 異論者ノ說ハ甚ク解シ難キモノアリ抑々酒造規則ナル者ヲ公布セハ一般ノ酒造營業者ハ果シテ如何ナル手續ヲ以テ酒ヲ造ルヲ得ヘキヤトノ注意ヲ以テ先ツ第一條ヲ

見レハ願出免許鑑札ヲ受クルノ手續ヲ示シ相次テ造石敷ノ事酒類ノ件納税ノ項及ヒ禁令罰則等ニ至ル迄細大漏スナク乃チ之ニ準據セハ以テ業ニ就クヲ得ヘキナリ然ルニ只稅則ト單稱セハ或ハ單ニ收稅ノ項ノミナランカト疑ヒ自カラ此等ノ注意ヲ欠クノ恐レアリ且他ノ造船規則銃獵規則ノ如キ往々稅ノ字ヲ用ヒス規則ト爲スノ類アリ仍テ本官ハ之ヲ收稅法ノミトセス汎稱シテ酒造規則トセントスル所以ナリ

○卅三番 渡邊 廿四番ハ酒造ノ下ニ營業ノ二字ナクシハ不可ナリト雖スト雖モ之ヲ加フレハ其規則ハ只營業者ノミニ止マリ他ノ自釀者等ニハ及ハサルカ如ク其意味却テ狹隘ニ陥ラン依テ本官ハ營業ノ字ヲ入ル、ヲ須ヒス八番ノ說ノ如ク可決センコトヲ欲ス

○廿七番 津田 原按ニテ可ナリ全体本按ハ何ノ爲メニ成立スルモノナルヤ只收稅ヲ以テ目的トナスノミ既ニ此目的タル上ハ酒稅ヲ徵スルノ旨意ヲ明表スルヲ可トス若シ稅ノ字ヲ廢セハ其何ノ爲メナルヲ知ラス誠ニ迂濶ナル法律ト云ハサル可ラス

○五番 東久世 本官モ亦原按ヲ可トス若シ修正ノ如クセハ從前ノ制ニ抵觸セリ夫ノ車稅則煙艸稅則等ノ如キ之ト同一類ノ者ハ皆稅ノ字ヲ揭ケ而シテ單ニ規則ト稱スルモノハ概子

第二條 酒類ヲ分チテ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒

清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒

燒酎其他蒸溜シタルモノヲ云フ

三類 再製酒

銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

○廿四番 福羽 修正ヲ要スルモノアリ一類ノ註ニ清酒濁酒其他云々トアリ思フニ濁酒ニ對シ清酒同様ノ稅ヲ課スルハ寧ロ甚シトス清濁豈分別セザランヤ仍テ「濁酒」以下ヲ刪除シ單ニ「清酒」トナサントス

○議長 廿四番ノ修正說ハ賛成ナキヲ以テ消滅シ原按ニ同意者ハ起立セヨ

起立者廿四人

○議長 多數ナルヲ以テ原按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付 金貳圓

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造宅限案

稅ヲ徵セサルモノナリ八番ノ說ハ不可ナリ

○十二番 楠本 八番ハ他ノ鳥銃規則等ノ例ヲ擧ケテ自說ヲ維持スト雖モ彼等ハ收稅ヲ目的トスルノ規則ニアラスシテ專ラ取締方法ヲ主トスルモノナリ故ニ修正ハ不可ナリ

○外一番 秋成 些細ノ文字ナレハ孰レニ決スルモ大ナル支障ナシト雖モ如今五番ノ說ノ如ク收稅ヲ以テ目的トナスノ規則ハ渾テ稅則ト慣用セリ殊ニ本按ト類似ナル煙艸稅證券印稅ノ如キモ亦皆稅則トアリ彼是參酌セハ一般慣例ニ從フヲ可ナリトス但慣例ト云フハ或ハ酒類稅則トスヘキ說アルヘケレハ既ニ第二讀會ニモ辯明セシ如ク從來ノ受賣小賣稅ヲ廢シ專ラ製造者ノミニ賦課スルノ稅則ナレハ之ヲ酒造ト改メサルヲ得サルナリ併セテ之ヲ辯明ス

○廿二番 大給 原按ヲ可トス内閣委員ハ何レニテモ支障ナシト云フモ決シテ然ラス一字ノ變換大ニ本體ニ關係スルモノアリ八番ノ修正ハ不可ナリ

○議長 發議盡クルト認ム八番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者七人

○議長 八番ノ修正說ハ小數ナルニヨリ消滅シ即チ原按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

二類壹石ニ付 金三圓

三類壹石ニ付 金四圓

○十五番 安場 修正ヲ要ス本條ハ已ニ第二讀會ニ於テモ議論沸騰シ遂ニ稅額ノ事ハ當時内閣委員ノ說明ニ依テ財政上已ムヲ得サルニ出シ所以ヲ詳悉スルニ至レリ然レモ今僅カニ酒稅ヲ增加シテ財政ノ困難ヲ補ハントスルモ決シテ其鴻益ナカラントス之ト反シ造酒家ハ現行ノ稅額ニ倍數ヲ加ヘラル、ヲ以テ豈其苛ニ堪ユベケンヤ仍テ彼此斟酌シ衷ヲ折シテ以テ一類ノ造石稅ヲ「一圓五十錢」トナサントス蓋シ内閣委員ハ數々酒類受賣小賣ノ稅ヲ廢シタレハ舊法ニ比シテ大ニ寬苛ナシト明言スト雖モ只概算ヲ以テ之ヲ推スモ從前五百萬圓ノ者ヲ一千萬圓トセハ政府ノ歲入ハ現ニ増スアルモ造酒家ニ至リテハタトヒ他ノ小賣受賣稅ヲ廢セラル、モ何ノ別ニ大ナル影響アラシヤ自カラ苦シムハ是必然ノ勢ナリ是故ニ之ヲ舊ノ如ク一圓トスルモ猶不可ナシト雖モ枉テ五割増ヲ政府ニ許シ及ヒ他ノ二類三類等ハ大ニ人民日常ニ差響キナケレハ原按ニ從ヒ只熱心ニ一類ノ五十錢ヲ減セント欲スルナリ

○十二番 楠本 贊成ス今詳細ニ區別シテ之ヲ云ヘハ濁酒ナルモノハ俄カニ清酒ト稅ヲ同フスルヲ得ス之ヲ同様ニ賦課ス

ルハ頗ル簡便ナルニ似タリト雖モ其製方ノ煩簡ハ姑ク措キ
已ニ世ニ飲酒ヲ許ス上ハ本按ノ如キハ誠ニ不完全ノ者ト云
フヘシ然ルニ今ヤ政府ハ財政困難ナリトテ俄然此ノ如キ重
稅ヲ課スルハ寧ろ顧ミサルノ甚キモノトス然レモ先ツ簡便
ヲ以テ一様ニスルヲ是トセハ其間ヲ斟酌シ減シテ一圓五十
錢トスヘキナリ是レ聊カ政府ノ内情ヲモ酌量スレハナリ依
テ十五番ノ修正ヲ可トス

○廿六番 柴原 贊成ス已ニ同議者ヨリ其理由ヲ述ヘシ如ク舊
法濁酒稅三十錢ヲ以テ直ニ二圓トスルハ幾ト七倍ノ數ヲ加
フルモノナリ故ニ第二讀會以來數多ノ減額說出テタレモ悉
ク行ハレサリシハ本官ノ常ニ憾ム所タリ然レハ清濁酒分離
說ヲ述ヘンカ委員其實檢ニ窮スト云フ其道ノ者ニシテ之ヲ
檢セハ或ハ難カラサルヘント雖モ暫ク其情ヲ量リ之ヲ同一
ニスルモ可ナリ已ニ同一ニスレハ豈減スル所ナカラサルヘ
ケンヤ仍テ十五番ノ修正說ヲ可トス

○三番 神田 贊成
○十番 巖作 贊成
○廿一番 鶴田 贊成

○議長 十五番ノ修正說ハ五名以上ノ贊成者アルヲ以テ問題
トス

スト雖モ元來議政官ト行政官トハ自ラ其趣ヲ異ニスル所ア
リ行政官ハ動モスレハ自己一方ノ都合ノミヲ計ルト雖モ議
政官ハ又他ノ人民ノ地位ヲ察セサル可ラス是本官カ官庫ノ
困難ヲ感ミ又民ノ情實ヲモ考ヘ五ニ折衷シテ之ヲ發議セン
モノナリ且第二讀會ニ於テハ第二類第三類共ニ五十錢ヲ減
セント欲セシモ今ヤ已ニ一步ヲ退キ其最モ甚キ者ノミニ就
テ之ヲ論セリ然ルニ委員ハ之ヲ情理ナシト云フ抑々何ノ言
ソヤ本官不肖ト雖モ豈意ヲ計算ニ留メサランヤ修正ノ出所
ハ決シテ無算ニアラサルナリ

○卅三番 渡邊 十五番ノ說ハ不可ナリ全体本案ノ起草ハ財政
困難ニ原スト説クト雖モ本官ハ以爲ラク然ラス是レ收稅ノ
理ニ基クモノニシテ早ク已ニ此起草アリシト信ス財政ヲ救
フノ道豈茲ニ要センヤ但本官モ亦清濁酒ノ區別ヲ立シ
テ欲スレモ實地檢査ノ煩シキヲ察セハ亦之モ同一ニセサ
ルヲ得ス已ニ之ヲ同一ニシテ而シテ輕易ニ五割ヲ減スルハ
不可ニアラスシテ何ソヤ況ヤ他ノ二類三類トモ平均ヲ失ス
ルニ於テヤ論者ハ他ノ二類ハ一類ノ如ク日常ニ要用ナラ
サレハ本按ノ如クスト云ト雖モ他ノ味淋ノ如キハ又樞要品
ニアラスヤ畢竟本按ノ起因ハ日已ニ久ク充分ニ經由シ來ル
モノト信スルヲ以テ收稅ノ理ニ於テ之ヲ修正スルハ不可ト

酒造稅則案、釐金營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

○外一番 秋成 此問題ハ會テ第二讀會ニ方リ十五番ノ提出シ
タル所ニシテ其不可ナルハ其時已ニ之ヲ辯駁スト雖モ尙當
時欠席者ノ爲メ單簡ニ其非ナル所以ヲ述ヘントス十五番自
カラ云ハスヤ本按ノ起草ハ政府財政ノ困難ヲ救フカ爲メナ
ルハ已ニ命ヲ聞ケリト此一言早ク自カラ其說ヲ擲取セシモ
ノナリ全体今回ノ酒稅改正タル一方ニ於テ其受賣小賣ノ稅
ヲ廢止スルニ至ラハ又彼是相償フ所ナカルヘカラサルヤ知
ル可シ且ヤ一石ニ就テ論スルキハ其稅額倍數ニ上ルト雖モ
實施取引ニ於テハ一升僅カニ一錢ノ差ヲ見ルノミ加フルニ
從來ノ制ハ其稅ノ寬ナルヨリ小額ノ酒造家大ニ起リテ大酒
造家ニ競争ヲ生シ之カ爲メニ有名ノ造酒者ハ轉々困却スル
所アリシ之ニ反シ新法ノ出ルヤ其重租ニ窮シスル造酒者ハ
皆旗ヲ倒シテ閉店スルニ至リ却テ大酒造家ノ幸福トナルヘ
シ此理ヲ以テ推セハ本按ノ二圓タル名ハ高稅ニ似タルモ其
實ハ決テ大損失トハナラサル可シ十二番ノ說ノ如キニ至リ
テハ最モ論理ナシトス蓋シ清濁酒共ニ一様ニスルハ不可ナ
リ因テ濁酒稅ハ減スヘント云ヘハ猶聞クヘント雖モ之ヲ減
シテ清酒ニ及ホスハ未タ論理ノアル所ヲ知ラサルナリ

○十五番 安場 内閣委員ハ本官ノ修正說ニ對シ已ニ財政ノ困
難ヲ知了シ而シテ却テ減額論ヲ主張スルハ情理ナシト說破

ナスナリ

○廿四番 福羽 本官ハ已ニ第二條ニ於テ清濁酒ヲ分別セント
ノ說ヲ爲セリ而シテ其言遂ニ行ハレサルハ太タ遺憾トスル

ニ本條ニ至リ猶又其收稅ヲ同一ニセントスルハ豈額容スヘ
ケンヤ然ルニ十五番ハ清濁酒ヲ區別スルハ實地困難ナレハ
凡テ本額ヲ減シテ一圓半トナサント云フ本官之ヲ聞キ頗ル
満足ノ思ヒアリ何ソ圖ラン内閣委員ハ原按ヲ支持シ縱ヒ二
圓トスルモ他ニ障害ハナカルヘシ當ニ之レナキノミナラス
大造酒家ハ却テ繁昌ヲ致スヘシト是レ何ノ言ソヤ看ヨ田舎
ニ至リテハ各自其近所ニ小酒造家ノ多キヲ以テ爲メニ日常
ノ便利ヲ得ルニアラスヤ若シ之ヲシテ倒レシメハ所謂酒屋
ヘ三里ノ數アラシメ恰モ舊幕時代ノ株ヲ定メテ商家ヲ限ル
ノ姿トナリ其不幸ヲ促シ愁聲ヲ來スハ期シテ待ツ可シ又卅
三番ハ本按改正ハ財政困難ニ源スルニアラストノ想像說ヲ
提起シ十五番ニ當ラントス是レ論スルニ足ラサルノ說ナリ
且一類ノミヲ減シテ二三類ニ及ハサルハ不平均ナリト云フ
ト雖モ已ニ二三類酒ハ日常欠クヘカラサルモノニモアラサ
レハ之ニ重稅スルハ稅法ノ理ニ適ヒ加フルニ清濁酒ニ減ス
ルモノヲ彼ニ多クセハ則チ徵收ノ稅數ヲ平均シ財政ノ困厄
ヲ救フノ一助タリ何ソ不平均ト云フヲ得ンヤ故ニ十五番ノ

説ハ可ナリ

○一番 補田 本問題ハ頗ル關係ノ大ナルモノナリ元來本按ノ稅額ヲ苛ト云ヒ不苛ト云フハ抑々何ノ點ヨリ發スルモノナルヤ西洋諸國ノ如キハ皆之ニ重キ開稅ヲ課シ到底奢侈物無用品トシテ多ク之ヲ徵ス固ヨリ世ノ常稅ト同シカラス例ヘハ佛國ノ如キ葡萄酒ニ稅セントスレハ先ツ其葡萄酒ノ地稅ヲ高クシ釀所ニ嚴課シ又製所ニ苛賦シ及ヒ賣店ニ重稅ス之ヲ總計スレハ決シテ二圓乃至三四圓ノ比例ニアラサルナリ又財政困難ヲ引用スルノ説アリト雖モ今日ハ決シテ然ラス但政事繁劇ニ至レハ收稅隨テ増サ、ルヲ得ス之ヲ増サスンハ政治施シ難シ試ミニ明治元年ヨリ同八年ニ至ルノ歲出入表ヲ見ヨ八期ニシテ既ニ四億ニ出入ス西洋諸國ノ歲出入ハ一期ニシテ三億ノ數アリ今日ノ日本政府モ豈稅ニ増加スル所ナカラサルヲ得ンヤ本按ノ如キハ素ヨリ當然ノ事ニシテ苟モ僅々五十錢左右ノ事ヲ云々スヘキニアラス況ヤ本額ハ人民ノ開稅ナレハ酒造營業者ニ於テハ別ニ困却スルニアラサルヲヤ

○八番 山口 尙芳 本修正ノ説ニ多數ノ贊成者アルハ誠ニ怪ムヘン十五番云ク議政官ハ行政官ト事爲動モスレハ反對スルコトアリト然レモ已ニ卅三番一番等ノ述ルカ如ク能ク其大休ヲ願

○卅一番 玉乃 世履

十五番ノ修正説ハ誠ニ愛民ノ善良心ヨリ發スルモノニシテ本官ノ宿論モ將ニ動搖セントス然レモ之ヲ熟思セハ其説ハ善良ニ過キテ遂ニ自カラ倒ル、モノト一般所謂宋襄ノ仁尾生ノ信タルヲ免カレサルナリ斯ク冒頭ニ説破セハ稍々過激ナルカ如シト雖モ其問題已ニ勢力アルヲ以テ之ヲ駁スルハ亦相應ノ言ナカラス例ヘハ茲ニ父トシテ子ニ錦衣玉食ヲ與ヘタキハ良心ノ然ル所ト雖モ家貧ニシテ成スヲ得ス若シ強テ之ヲ爲サントセハ自カラ無理ヲ爲シ遂ニ分散ノ辱ヲ取ルニ至ラン我政府ハ固ヨリ未タ分産ノ時機ニ至ラスト雖モ又困苦ノ時節ナリ夫ノ米價ノ如キ今年ハ既ニ豐穰ナルニ之ヲ昨年ニ比セハ大ニ騰貴シ紙幣ヲ以テ之ニ代ヘハ實ニ其甚シキヲ致セリ此ノ如キハ畢竟米類ノ拂底ナルニ依レリ素ヨリ其濫用ヲ抑ヘサル可ラス今ヤ楮幣下落シ金銀騰貴ス之ヲ救濟スルハ先ツ歲入ヲ増多シ無用品ニ加稅スルノ外ナキナリ此時ニ方リ猶五十錢ヲ減セント欲スルハ乃チ善政ニ失スルモノニアラスシテ何ゾヤ蓋シ錦衣ヲ衣セ玉食ヲ食セシムルノ時モ亦必ス之レアララン然ルニ今強テ之ヲ爲サント欲スルハ彼我共ニ溺レテ遂ニ分散ノ憂ヲ見ルアラシノミ

○三番 神田 孝平

本官ハ本條ニ對シ別ニ修正説アリ免許稅ノ上ニ酒造稅則案、醬麵營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

ミサル可ラス看ヨ我地租改正ニ依リ租額ハ六百八十萬圓ヲ減スルニアラスヤ而シテ明治三年ノ頃ハ米價一石三步ニ出入シ當時尙一千二百萬石ヲ得タリ今ヤ依然其平均相場ヲ存スルニヨリ終ニ其半額タモ收得スルコト能ハス實ニ是レ前見ヲ誤リシモノ、如シト雖モ政府ハ其改正ノ期ニ臨ムモ已ムヲ得ス之ヲ据置カサルヘカラサルモノアリ故ニ之ニ代ルニ煙草酒稅等ヲ以テスルハ亦至當ナリトス蓋シ夫ノ煙草ノ如キハ從來無稅ナリシニ突然現行ノ重稅ヲ以テスルモノノ不平アルヲ聞カス況ヤ已有ノ酒稅ヲ倍增スルハ事尙輕キニ於テヤ且現時ヲ以テ舊幕ノ時代ニ比セハ事物ノ改進皆然ラサルハナク從テ國用多キヲ要スルハ自然ノ理勢ナリ此時ニ方リ猶減稅ノ議ヲ主持スルハ所謂古ノ人ニシテ大休ヲ願ミサルモノト云フヘシ寧ロ此レハ止ムヘシ彼レハ廢スヘシト論斷スルノ淡泊ナルニ如カサルナリ已ニ第二讀會ニ於テ充分ニ討論アリシ如ク夫ノ請賣小賣稅ヲ廢スルト彼是加減セハ多ク軒輕ナキニ於テハ本案ノ増額ト云フモノハ本官却テ尙少シトスルナリ莫稅ノ如キ已ニ彼カ如シ是レ豈行ハレサランヤ十五番ノ説ノ如キハ畢竟社會ノ大勢ヲ顧ミスシテ益益財政ノ困難ヲ促スモノト云フヘシ改進ノ路上ヲ塞クモノトハ夫レ此ノ如キノ謂ナル乎本官ハ憂慮ニ堪ヘサルナリ

「每一期」ノ三字ヲ加ヘントス由テ豫シメ之ヲ述フ

○議長 發議盡ルヲ以テ十五番ノ修正説ニ決ヲ取ラン之ニ同意者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 十五番ノ修正説ハ少數ニヨリ消滅ス

○三番 神田 孝平 本官ノ「每一期」ノ字ヲ加フヘントノ主意ハ更ニ贊述セサルモ各位之ヲ明ニセン但本條ノ意ハ必ス一期ニ

定マルモノナルヘン然ルニ一期ノ字ハ初メテ第四條ニアルヲ以テセハ本條ハ恐ラクハ之ヲ省略セシモノナランカ且醬麵營業稅則ニモ現ニ此字アリ乃チ本條ニ之ヲ加ヘサレハ未タ整備ナラストス

○十番 藤作 贊成ス固ヨリ其每一期タルヤ知ルヘシ故ニ之ヲ分明ニスルハ要用ナリトス但第九條ト或ハ抵觸スルカ如シト雖モ是レ其時ヲ待テ論明スヘシ

○十七番 伊丹 重賢 贊成

○議長 三番ノ修正説ハ贊成議員ニ缺クルヲ以テ消滅ス即チ原按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス時已ニ正午ヲ過ク吃飯ノ爲メ一旦散會スヘシ

午後零時十五分開場

午後零時五十五分開場

○議長 午前引續ノ議ヲ開ク第四條以下ニ就テ發議スヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ

一期トス

第五條 免許ヲ請フ者ハ毎年九月三十日迄ニ管廳ニ願出ヘ

シ右期日ヲ過クレハ免許セサル者トス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳

ニ差出シ書換ヲ乞フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ

キハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第二章 納税 造石検査

第八條 免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ三月三十一日迄検査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期 七月三十一日限

四月一日ヨリ六月三十日迄検査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ皆造検査濟石數ニ係ル稅額并前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類

ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未濟ノ酒類へ検査濟ノ酒類又ハ古酒買入酒

等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘ

シ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第十四條 検査未濟ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製スル第

二條中一類ノ酒ヲ二類ニスル時ハ造石稅ハ其變製シタル酒

類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査濟ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ檢

出其容量ノ検査ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もとヲ販賣スルヲ許サス

第二十二條 郡テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ許サス

第二十三條 検査未濟ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消

糜スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒^糖器^機ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ

置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出

再封ヲ請フヘシ

○番 一 番 戸田 第廿五條ノ末文ノ「請ク」ハ「受ク」ト修正

外 一 番 秋成 第廿五條ノ末文ノ「請ク」ハ「受ク」ト修正

セリト覺フ今書記官之ヲ「請フ」ト朗讀スルモ惟フニ是レ

誤讀ナランカ

○十六番 細川 否一旦受ノ字ニ改メシモ内閣委員議場不在

ノ間本官ノ動議ヲ以テ請フト可決セシナリ

○議長 他ニ發議ナシ本按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

查濟ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造

石稅ヲ納ムヘシ

但シ變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製

成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ

直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ

應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シ

タル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納

ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ニ同意者ハ起立セ

ヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒

類ヲ問ハス其仕込タル酒も及其他仕込米及ヒ營業ニ關ス

ル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳へ申

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共ニ届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許税額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第廿九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 造酒石數ノ検査ヲ受ケスシテ賣捌キタル時ハ

ノアルヲ見ルノミ然ルニ彼ハ自家商業ノ景氣ヲ修飾スルカ爲メニシテ彼是固ヨリ同一ノ談話ニアラス苟モ己ノ身代ヲ舉ケテ人ニ示スハ或ハ其人ノ榮譽ヲ缺クノミナラス特ニ煩雜ニシテ爲メニ營業ヲ妨クルノ恐れアリ須ラク之ヲ删除スヘシ

○議長 廿四番ノ修正説ハ賛成者員ニ滿タサルニ依リ消滅ス即チ第二十六條ヨリ第三十一條ニ至ル原按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但未製成ノ酒類もともろト雖モ隠蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違犯スル者ハ壹圓ヨリ少ナカラス三拾圓ヨリ多カラサル

酒造税則案、醫藥營業税則案、自家飲料酒類製造定限案

其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但未製成ノ酒類もともろト雖モ隠蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

○廿四番 福羽 二十八條ニ異議アリ本官ハ前會出席セザリシニ依リ如何ナル議アリシヤヲ知ラスト雖モ該條ニ「戶外ニ掲出」云々トアリ製造ノ石數ヲ戶外ニ掲示スルハ是レ検査官ノ爲メニハ頗ル便利ナルヘシト雖モ故ラニ其賣品高ヲ世上ニ公示スルハ他ノ營業ト平ヲ失スルモノアリ而シテ單ニ之ヲ検査ノ目安トセハ或ハ造酒高ノ偽ヲ掲クルモ亦知ル可

ラス要スルニ斯ル些事ニ干渉スルハ恐ラク得策ナラサルヘシ仍テ本條ハ删除スルヲ可トス

○十二番 楠本 賛成ス如今廿四番ノ言ノ如ク是レ検査ノ爲メニハ便利ナルヘケレモ翻ツテ其商人ノ地位ニ換ツテ考察ヲ下セハ如何ソヤ苟モ僅々一石斗升ノ額ヲ揭示スルハ自己ノ身代ヲ世ニ公表スト一般誠ニ不快ナラスヤ之ヲ他ノ商業ニ就キ其類ヲ求ムルハ只夫ノ媚門ニ寫影ヲ牌表ト爲セシモ

罰金ヲ科スヘシ

罰金ヲ科スヘシ

○議長 發議ナシ本按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

附則

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スル者ハ一ヶ年壹石各種製造スルトキハ其總數ヲ合算スニ超ヘカラス若シ壹石ヲ超ルトキハ總テ本則ニ從フヘシ

○廿六番 柴原 本則ニ就テハ第二讀會ニ於テ本官等修正ノ員ニ膺リ原按ノ一石ヲ三石トシ尙末文ニ詳細罰文ヲ掲ケシモ不幸ニシテ今朗讀ノ如ク改削スルニ決セリ熟思スルニ自家飲料ノ收税ヲ一石ト限ルハ頗ル酷薄ニシテ窮窟ニ堪ヘサルナリ依テ彼是ヲ折衷シ更ニ之ヲ「二石」トセハ五ニ偏重偏輕ノ憂ナク乃チ完全ナル法按ヲ得ヘシト信ス且己ニ末文ハ凡テ本則ニ從フヘシト改削セシ上ハ禁令罰例共ニ酒造税則ニ全從セサルヲ得ス寧ロ過嚴ト云ハサル可ラス故ニ石數ヲ寬メテ二石トセハ稍々其宜キヲ得ン

○十二番 楠本 本官ハ原ト之ヲ三石トスルノ持論ナレモ已ニ行ハレサル上ハ寧ロ原按ニ勝ルノ説ニ從ハサルヘカラス仍

テ廿六番ヲ賛成ス

○十七番 伊丹 賛成

○十番 鑛作 賛成

○廿一番 鑛田 賛成

○廿九番 伊集院 賛成

○卅三番 渡邊 賛成ス本官前會ニ於テ既ニ此説ヲ發セシハ實ニ鄙野田舎ノ情狀ヲ斟酌セシ故ナリ然ルニ之ヲ採ラスシテ

一石ニ超ユルキハ本則同一ノ罰ヲ加フト爲ス豈苛酷ナリト云ハサル可シヤ蓋シ今之ヲ二石ト爲スハ或ハ只一ト三トヲ折衷セシモノ、如ク論擧スヘケレモ翻テ實地人民生計上ニ

考察ヲ加フレハ二石ノ制限ハ最モ今日ニ適當ナルモノトスルナリ

○議長 廿六番ノ修正説ハ定規ノ賛成アルニ依リ問題トナス

○廿四番 美靜 本官ハ修正説ニ同意スルヲ能ハス蓋シ其意ハ稍々人民酒造ノ法ヲ寬ニスルニアリ然ルニ夫ノ自家醸造ハ眞ニ無用ノ如ク斥論スト雖モ田舎ニテハ之カ爲メニ便益ヲ享ルコト太タ少ナカラス若シ今ニシテ突然之ニ法度ヲ加フルキハ其迷惑ハ實ニ云フヘカラサルモノアリ故ニ本官ハ僅カニ其字句ノ修正ニ止マラス全ク之ヲ削除セントス請フ試ニ之ヲ述ヘン抑々本按ノ如キハ自釀者ニシテ若シ斗升ノ酒モ

ルヲ以テ見ルニ倫シ第四五讀會ヲ經過スルモノトセハ必ス原按ノ如ク一石ニ歸着ス可キヲ信ス蓋シ論ハ推究スルニ從フテ適當ノ地ニ達スルモノナリ故ニ此説ニ對シテハ亦多言ヲ以テ之ヲ駁スルヲ要セサルナリ

○卅三番 渡邊 八番ハ會議日ヲ追フテ石數ヲ減スト云フト雖モ本官ハ依然二石ヲ主張シ今尙之ヲ變セサルナリ蓋シ此石數ノ如キ一ト云ヒ二ト云フモ言語上ニテハ瑣々タル者ノ如シト雖モ其差實ニ倍半ナレハ之ヲ實行スルニ方レハ決シテ容易ナルモノニアラス之ヲ弘ク一般農家ノ自釀ニ當テ、推考スルハ其一石ノ差ハ寬苛大ニ情感ヲ異ニス然レモ之ヲ三石トスルハ遂ニ原按ノ精神ヲ害シ實地又放恣ニ過クルヲ以テ彼是宜キヲ制セシ石數ナレハ決シテ朝三暮四ノ説ニアラストス

○一番 楠田 本官ハ前會ニ於テモ原按ヲ賛成セリ蓋シ内閣委員ノ言ニ一石ノ比例ハ全國ノ實際ニ就テ立按セリト云フヲ信セシニ依リシナリ已ニ政府カ實際ニ比例シテ宜キヲ制セシモノヲ席上ノ推察揣摩ノ臆説ヲ以テ之ヲ動かカスハ非ナリトス一石ハ乃チ其當ヲ得タルモノナリ

○四番 水本 本則ハ本官前ニ修正ノ員ニ膺リ之ヲ三石トスル當時已ニ其非ヲ悟リ全ク其意見ヲ異ニスト雖モ多數ニ從フ

酒造稅則案、醫藥營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

之ヲ他ニ賣ルコアラハ本則ニ由テ處分ヲ爲スハ勿論ナリト雖モ或ハ一石乃至二石以上ノ多釀ヲナスモノアリテ之ヲ營業者ト看認ムルキハ乃チ僅々三石ノ酒モ亦彼ノ第二十八條ノ場合ニ從ヒ之ヲ戸外ニ掲ケ但賣物ニアラスト附箋ヲ加ヘテ公示セサルヲ得サルニ至ラン此ノ如キハ最モ自家飲料ヲ製スル田舎人ノ便益ヲ妨クルモノトス故ニ廿六番ノ修正説消滅セハ本官ハ其刪除説ヲ提出セント欲スルナリ

○十五番 安場 本官モ廿四番ト異其按ヲ同フス依テ廿六番ノ説ニ同意スルヲ能ハス

○九番 黒田 廿六番ノ修正ハ一ヲ「二」ニ改ムルノミナル耶

○廿六番 柴原 然リ

○一番 戸田 本問題ヲ駁スルニハ多言ヲ要セサル可シ已ニ

外 秋成 酒造稅則第三條ヲ可決セハ本按ノ原則ハ一石ヨリ動かカス可

ラサルモノナリ且既ニ附則トセハ皆本則ニ從フヘキハ明々

白々タルニ彼ヲ可トシテ是非トスルハ素ヨリ原則ニ背ク

モノニシテ最モ法理ニ於テ不可ナリトス

○八番 山口 前會以來石數ニ對シテハ之ヲ削除ト云ヒ又三

石ト云ヒ二石ト云ヒ修正ノ諸説紛出セシニ遂ニ皆破レタル

ヲ以テ今ヤ全力ヲ二石論ニ集メ茲ニ問題トナリタルモノナ

リ已ニ第二讀會ニハ三石ヲ主持シ第三讀會ハ二石ニ減シタ

ノ例ニ依リ遂ニ默從セリ抑々立法官ト雖モ行政官ト雖モ法律ノ目的ヲシテ善ナラシメンコトヲ務ムヘキハ言ヲ俟タサルナリ本按改正ノ目的タルヤ行政官ハ財政ノ困難ヲ救フノ本旨ニシテ他品ニ稅スルハ忍ビサルヲ以テ先ツ無用品タル酒類ニ増稅セントスルノ仁政ニ出ツ然レハ則チ那ノ自家醸造ノ如キハ全ク禁止スルモ亦不可ナシト雖モ從來ノ慣行一時ニ禁斷スルヲ慙ミ一石以內ノ自釀ヲ許セハ一家生計上ニ於テ大ナル差支ナカルヘシトスル慈善ノ法按タルヲ知ルヘシ已ニ一石以內ノ自釀ヲ許スヲ以テ仁政トセハ或ハ之ヲ二石トシ又三石トスルモ別ニ著シキ仁政トモ稱シ難シ此反對ノ點ニ於テ自家飲料ヲ禁止セハ乃チ實際便如何ト顧思セヨ思ヒ半ニ過ン已ニ一年間ノ飲料ヲモ自釀スルモノハ其財產上決シテ遠ク二石三石ヲ購求スルニ差支ユルカ如キモノニアラス然レハ則チ貧民等ノ困却スルヤ否ヤニハ痛痒相感セサル所ナリ況ヤ已ニ一石以內ノ寬許ヲ得ルニ於テヤ故ニ原按ニテ可ナリトス

○十六番 細川 四番ノ説ハ實ニ老練者ノ言ニ背カス其適實

ナル寔ニ感スヘキナリ本則ノ如キハ本官固ヨリ充分ノ法律

トハ思及セサルモ今諸説ヲ參考スレハ四番ノ説尤モ心ヲ得

タリトス請フ其故ヲ述ヘン原來本則ヲ以テ酒造稅則ニ加フ

ルキハ則チ撞着ノ嫌ヒナキニ非ス之ヲ以テ推セハ自釀ハ全ク禁止セサルヲ得サルカカ如シ然ルニ本按之ヲ禁セスシテ幾分ノ餘裕ヲ與フルモノハ蓋シ已ムヲ得サルナリ看ヨ本按ハ已ニ廢稅ナリシ營麴スラ尙多ク營業稅ヲ課シ及ヒ現行ノ酒稅ヲ倍ス彼等已ニ然リ豈之ヲ少シトセンヤ故ニ本按ノ精神ヲ舉ケテ全ク否ナリトセハ其說或ハ聽クヘント雖モ已ニ其精神ヲ可トシテ之ノミヲ酷ナリト云フハ解セサルノ甚シキモノトス試ニ思ヘ近來歲入ハ次第ニ多キヲ加ヘサルヲ得サルノ時ニ當リ其之ヲ補フハ將ク何物ヲ以テセンヤ苟モ酒類ヲ除カハ恐クハ他ニ物ナカラントス若シ他品ニ増稅セシカ反對論者ハ尙且之ヲ非難スヘシ仍テ本官ハ彼是推考シ本按ハ尙寬ナリ附則ノ如キモ却テ不充分トスル所ナリ然ルニ今問題ノ如ク之ヲ制限ヲ二石トセント云フハ蓋シ一石トセハ自造者迷惑ストノ旨ナルヘン若シ之ヲ二石トシテ迷惑セストノ確証アラハ本官モ亦或ハ之ニ從ハンカ内閣委員已ニ云ハスヤ北國ニ於テハ數十石ヲ自釀スルモノアリト然レハ之ヲ三石トナスモ四石トスルモ自釀者ノ迷惑ハ皆一ナリ況ヤ四番ノ說ニ自釀者ノ如キハ皆郡村ノ富豪ナレハ一般貧民ノ迷惑ニ關スルコト少ナシト明解アルニ於テヤ本官深ク此說ニ感スルヲ以テ其驥尾ニ附シ併セテ問題ヲ駁ス

○廿六番柴原和 自家釀造ヲ禁セスシテ之ニ餘裕ヲ與フルハ仁政ナリトノ說アルハ抑々何ノ言ソヤ若シ仁政ヲ主張セハ全ク酒稅ヲ免スルヲ宜シトス獨リ酒稅ノミナラス地租モ雜稅モ共ニ免スヘシ斯レ實ニ取ルニ足ラサルノ說ナリ又一番ハ内閣委員ノ說明ヲ偏信シテ實際適切ノ法按ヲ破ル可ラスト云フト雖モ本官ハ之ニ反シ委員ノ說ヲ以テ迂濶最甚ノ空論トナスナリ又四番十六番等ハ自釀者ハ富人ノ家ニ多ケレハ其稅ノ如何ハ貧民ノ迷惑トナルノ憂ナシト云フト雖モ夫ノ濁酒ノ如キハ概シ貧民ノ自用スル所ナリ已ニ之ヲ製スルニ二圓ノ稅ヲ課ストセハ其迷惑ハ何ソ少カラシヤ反對者ニ於テモ人民ノ迷惑タルコトハ已ニ自カラ明言シ且困苦ヲ訴フルノ徒之カ爲メニ出ルコトハ覺知セシニアラスヤ故ニ務メテ其患ノ減センコトヲ欲シ此修正說ヲ提出セシナリ

○議長 發議盡クルヲ認ム廿六番ノ修正說ニ同意者ハ起立セヨ
起立者九人
○議長 少數ナルヲ以テ廿六番ノ修正說ハ消滅ス
○廿四番福羽美壽 本官ハ此附則ヲ刪ラント欲ス其意ハ已ニ前陳セシカ如シ且苟モ人民自家ノ飲料ニ對シ干涉シテ之ニ制限ヲ立ツルハ大ニ其自由ヲ壓抑シ法理ニ於テ穩カナラサル所

ナリ已ニ酒造稅則ト題シ其商業者ノ酒造ニ稅スルノ本則ナルニ假ヒ附則ト爲スモ一家私用ノ者ト併セ載ルハ豈不都合ナル法度ナラスヤ然レモ全ク之ヲ刪除セハ亦後患ヲ免カレサルヲ以テ之ニ換フルニ別ニ一條ヲ加ヘ「酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノ爲メ酒造シ若シ販賣スル者アレハ總テ營業者ヲ以テ論スヘシ」ト記入セント欲ス到底本官修正ノ主意ハ政府ハ人民ノ私事ニ干涉スルヲ不可ナリトシ人民モ亦其私物ヲ公賣スルニ於テハ許スヘカラスト云フニ外ナラサルナリ

- 十五番安場保和 贊成
- 議長 廿四番ノ修正說ハ贊成員ニ充テサルニヨリ消滅シ乃チ原按ニ決ス
- 書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

營麴營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨
布告候事

營麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

酒造稅則案 營麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

第一條 營麴釀造酒類ノもとヲ製造營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ
第一條 營麴營業稅 金五拾圓
第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス
第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

○八番山口尙芳 大抵律文ハ同一ナラシコトヲ欲ス本則第一條モ酒造稅則第一條ニ準ヒ冒頭ニ「凡ソ」ノ字ヲ加ヘ製造ノ下ニ「シテ」ノ二字ヲ入レ願出ノ次ニ「製造場一箇所毎ニ」ノ八字ヲ挿入スルヲ可トス是營ニ酒造稅則ト文ノ相等キヲ得ルノミナラス製造場云々ノ添加ヲ爲サスハ或ハ一人ニシテ多數ノ製造所ヲ所持スルモノノ營業稅ヲ納ムレハ足レリト誤解シ立按ノ主義ニ戾ルモノアルモ亦認ユヘカラサルニ至ラン仍テ之ヲ分明ニ揭示スルハ兩全ノ道ナリトシ各位ノ贊成ヲ得テ可決センコトヲ希望ス

- 三番神田孝平 贊成
- 五番東久世通達 贊成
- 二十番渡邊驥 贊成

○一番 楠田 贊成

○十六番 細川 贊成

○議長 八番ノ修正説ハ定規ノ賛成者アルニヨリ問題トナス
ハ則チ美ナリト雖モ元來酒ト醬麴トハ其營業ノ體質同シカ
ラサレハ其收税ノ法モ亦一概ニ同フス可ラス蓋シ醬麴ハ那
ノ酒類ノ如ク廣ク營業スルヲ得ルノ類ニアラス然ルニ之ニ
課スルニ酒類全様ノ重税ヲ以テスルハ太ク穩妥ナラス仍テ
原按ヲ可トス

○廿六番 柴原 本官モ原按ヲ可ナリトス其故ハ今十五番ノ言
ノ如キノミナラス此製造者タルヤ彼ノ酒造家ノ如キ大ニ會
社等ヲ興シ廣ク天下ニ分店支社ヲ設クルノ類ハ實地ニ於テ
萬アル可ラス且八番ハ本條ノ冒頭ニ凡ソノ字ヲ加ヘントス
ルハ當ラス何トナレハ醬麴ハ醬麴ト單稱シ夫ノ酒類ノ如ク
各類併稱スルモノニアラサレハナリ今故ラニ文字ヲ均齊セ
ントシテ却テ本意ヲ害スルハ不可ナリ

○八番 山口 廿六番ハ凡ソノ字義ヲ講スト雖モ醬麴モ亦一種
尙芳
ニ止マルモノニアラス之ヲ加フルハ敢テ不可ナリ蓋シ是文
字ノ穿鑿ニ涉レハ強テ之ヲ争フヲ須ヒスト雖モ製造場一ヶ
所毎ノ文字ヲ加フ可ラスト云フニ至ツテハ默止ス可ラサル

起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ八番ノ修正ニ決ス又第二條第三條本
按ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其節該一期中販賣見込ノ石數
ヲ管廳ヘ届出ヘシ
但石數ノ増減ハ其時々届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日
等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢
査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳
ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時
ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

○議長 發議ナキヲ認ム本按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

酒造稅則案、醬麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

モノアリ畢竟十五番廿六番等ハ目今我人民ヲ以テ正人君子
トシテ立論スル者ノ如ク己ニ法網ヲ巧避シテ私業ヲ營ムノ
奸商黠賈ナシトセハ固ヨリ法文ハ明瞭ナラサルモ可ナリト
雖モ今日ノ法ヲ制スル豈此ノ如クスヘキモノナランヤ己ニ
法ヲ定ムレハ其逃路モ亦之ヲ豫防セサルヘカラス

○卅一番 玉乃 八番ヲ賛成ス本官ハ初メヨリ「製造請賣ノ別
世履
ナク」トアル割註ヲ除クハ太ク不同意ナリシモ遂ニ衆議刪
除ニ決セシ上ハ默從スルノ外ナシト雖モ醬麴製造營業稅ニ
至リテハ必ス其箇所トニ取立シコトヲ欲ス且既ニ酒ハ箇所
ニ稅シテ醬麴ハ否ラストナスハ法理ノ背馳焉ヨリ甚キハナ
シ前會ニ於テハ十六番モ亦己ニ箇所ニ取ルノ意見ナリト云
ヘリ本官素ヨリ其然ルヘキヲ信セリ到底故造ヲ以テ法文ヲ
シテ不具ニ陥入ラシムルハ立法官ノ爲サ、ル所ナリ故ニ八
番ヲ賛成ス

○十六番 細川 今卅一番ノ陳述ノ如ク本官ハ素ヨリ箇所ニ
取ルノ意見ナレハ前會ニ於テ大略其意ヲ陳セシニ當時己ニ
紛議アリシモ今ヤ幸ニ八番ノ發議アリテ卅一番又本意ヲ助
ケラル思フニ反對論者モ今ニ於テ更ニ當時ノ言意ヲ解了セ
シナラン到底法文ハ同一ナルヲ要スルノミ

○議長 發議盡ルヲ認ム八番ノ修正説ニ同意者ハ起立セヨ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醬麴賣捌所ト書シタル標札ヘ

免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醬麴ヲ營業スル者ハ科料トシ其
營業稅一倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名
等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹
圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

○十番 繁作 茲ニ第十條ト第十一條トノ間ニ一ヶ條ヲ添加セ
麟祥
ントス其故ハ第二讀會ニ於テ十六番ノ修正ニ依リ禁令及ヒ
第九條ヲ加ヘシニ基ケリ己ニ之ヲ加フレハ其罰條ナカルヘ
カラス且法文ノ同一ナルヲ欲ストハ前會以來ノ輿論ナリ旁
旁以テ酒造稅則第三十條ノ文ヲ茲ニ移シ來リ新ニ「第十一
條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第十條ニ據テ處分シ之ヲ
貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘ
シ」トシ今ノ「十一條」ヲ「第十二條」トシ此冒頭ニ「前
明條」トアルヲ「前二條」ニ作ラントス或ハ酒稅罰則ヨリ
過重ナリトノ異議アルヘケレモ是レ器械沒收等ノ事ナキヲ
以テ亦偏重ノ憂ナシトスルナリ

- 四番 水本 贊成
- 十七番 伊丹 贊成
- 廿六番 柴原 十番ニ問フ「前二條」ト云フハ或ハ前「三」條ノ心算ニアラスヤ

○十番 英作 更ニ明瞭ナルヲ覺ユ仍テ前言ハ誤リナルヲ諒セラレンコトヲ乞フ

○廿六番 柴原 贊成

○卅二番 友幸 贊成

○十五番 安場 贊成

○議長 十番ノ修正説ハ贊成議員ニヨリ問題トナス

○一番 楠田 十番ノ修正説ハ頗ル理アルカ如シト雖モ其事ヤ重大ナレハ輕易ニ決シ難シト思フ仍テ該按ヲ頒布シ衆官熱考ノ後更ニ確定決議會ヲ開カレンコトヲ建議ス

○十六番 細川 潤次郎 十番ノ説ハ可ナリ一番ハ事重大ニ涉ルト云フト雖モ只事情ノ雜錯セシノミニシテ決テ容易ニ定メ難キ

モノニアラストス蓋シ本官ハ前會ニ於テ禁令及ヒ第九條ヲ加ヘシ時ニ方リ已ニ此精神ヲ抱ケリ其已ニ當時ニ在テモ此意ヲ抱キシコトヲ証センニ其借受者ノ罰ハ之ヲ免許鑑札ヲ受ケサルモノト同一ニ論セントセリ乃チ五拾圓ノ二倍百圓ノ罰ナリ貸與者ノ罰モ亦然リ即チ其貸與ノ鑑札ハ無効トシテ

起草ノ意ハ酒ヲシテ營麴ヨリ賤シカラシムルモノニアラス只他ニ造石稅アルヲ以テ之ヲ廉ニセシノミ然ルニ其罰則ニ當リテ却テ其輕重ヲ反對スルハ法理ニ於テ權衡ヲ失スルモノトス而シテ原按ハ文面同シカラレモ法ノ平均ハ能ク相持ス若營麴營業者ニ造石稅ヲ荷ハセサレハ修正ノ如キハ不可ナリトス

○八番 山口 尙芳 本官モ修正説ヲ贊成セントシテ能ハサルモノアリ然レモ又卅一番ノ説ト同シカラス修正説ニ依レハ貸借者

共ニ金額同一ナリ借者ノ百圓ヲ罰科セラル、ハ已ニ明ナリト雖モ之ヲ貸借セシ者モ其鑑札乃チ五十圓ニ價スルモノト併セテ其免許稅相當ノ者ト云ヘハ乃チ五十圓ナレハ合計百圓ヲ徵收セラル、ノ計算ナリ此ノ如キハ修正者ハ兩箇ヲ分別スト云フト雖モ結局是レ一ニ歸ス故ニ之ヲ明示セハ終ニ却テ其意ヲ達スルヲ得サルニ至ラン原按乃チ可ナリ

○十番 英作 卅一番八番ノ駁議ハ其旨ヲ異ニスト雖モ其歸スル所文字ハ平均ヲ得ルモ法理權衡ヲ失フト云フニ過キス然レモ已ニ論者ノ可ト揚言スル原按第九條免許鑑札ヲ受ケス

シテ營業スルモノ、罰科ハ乃チ二倍ヲ徵スルノ明文アルニアラスヤ已ニ之ヲ可トシテ本官ノ修正ヲ不可トスルハ何ノ理由ナルヤ且酒造ノ罰科ニハ別ニ製造諸器械ヲ沒收スル等

酒造稅則案、營麴營業稅則案、自家飲料酒類製造定限案

之ヲ取上ルナリ此理由ナルヲ以テタトヒ十番ノ説ノ如ク之ヲ明揭セサルモ其意ハ已ニ本官ノ修正中ニ含蓄セリ而シテ其議出レハ寧ロ之ヲ明示スルヲ可トス蓋シ事ニ錯雜ナルカ如キモ決テ重大ト云フヘキモノニハ非ラス

○議長 一番ニ問フ建議ノ精神ハ本會之ヲ決セスシテ確定會ヲ開カントスルカ將タ一旦決シテ後更ニ確定決議ニ付セントスルニ在ルカ

○一番 楠田 英世 本官ハ本會ニ之ヲ決シ猶確定會ヲ開カント望ム今十六番ノ説ニ依テ稍々其意ヲ了解シタレモ本官ハ第二讀會ニ欠席セシヲ以テ首尾詳知スルニ苦シム各官中或ハ同感ノ人アラン依テ建言セシナリ

○廿二番 大給 恒 實際ニ於テ借受營業者ハ免許鑑札ヲ受ケサル者ヲ以テ論スルハ無論トスルモ十番ノ修正ハ頗ル錯雜ナルカ如キヲ以テ明カニ衆聽ニ洞達セシムルハ緊切ノトトス仍テ更ニ書記官ノ之ヲ朗讀センコトヲ望ム

○書記官 森山 茂 十番ノ修正説ヲ朗讀スルヲ以テ略シテ載セスルヲ以テ略シテ載セス

○卅一番 玉乃 世履 本官ハ之ヲ贊成セントシテ能ハサル所アリ其文字ハ那ノ酒造稅則ト能ク對照スルヲ得レモ却テ法理ノ合サルモノアリ彼ニ倍數ノ罰金ト云フハ營業稅三十圓ノ倍數乃チ六十圓ナルモ是ハ五十圓ノ倍數乃チ百圓ナリ全本按

ノ附加刑アレハ彼是平均シ百圓ノ罰金ハ必スシモ偏重ナリト云フヘカラス又八番ノ論旨アル鑑札ヲ取上ケ及ヒ其相當罰金ト云ヘハ合セテ百圓ノ科料ナリトハ已ニ酒造稅則ニ於テモ然ルニアラスヤ畢竟本官ノ修正ハ酒造稅則ニ比準セシモノナレハ已ニ彼ヲ可認シタルモノニシテ是ヲ不同意ト述ルハ遂ニ理會シ難ク本官ハ駁論ノ起ル毎ニ太夕怪訝ニ堪ヘサルナリ

○卅三番 渡邊 昇 十番ハ新タニ九條ヲ加入シタレハ十一條モ亦之ヲ加ヘサルヲ得スト云フハ論理ニ於テ誤レリト云フヘシ若シ明文ノ罰例ナクハ互ニ貸借シテ業ヲ營ムヲ得ト思フ可キモ實際ニ於テハ決シテ他ノ物ヲ借テ之ヲ爲スヲ得ヘシトスルモノハアラサルナリ縦ヒ之レアリトスルモノニ向テ二倍ノ罰金ヲ徵スルハ重シトス則チ之ヲ問フハ末條ナル本則違犯者ト看認テ可ナルノミ

○四番 水本 成美 本官ノ十番ヲ贊成セシハ頗ル其説ノ當ヲ得タリト信スレハナリ原來原按ハ酒造稅則ニ比シテ大ニ不充分ナリシニ先ツ十六番ノ九條追加ニ依テ其美ヲ致シ今又十番ノ修正ヲ添ヘテ善ヲ悉シタルモノトス卅一番八番等ノ駁論ハ偶マ誤レリ克ク前後ヲ熟思セハ必ス修正セサルヘカラサルノ理由ヲ悟了セン

○議長 發議盡クルヲ以テ決ヲ取ラン十番ノ修正説ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十一人

○議長 少數ナルヲ以テ十番ノ修正説ハ消滅ス

○十六番 細川 些細ノ事ナレモ之ヲ内閣委員ニ問ハントス

第十條中「料トシ」ノ下ニ「テ」ノ字ヲ加ヘサレハ文辭

ヲ爲サ、ルカ如シ思フニ是脱字ナランカ

○外 秋成 然リ全ク脱字ナリ各位之ヲ領セラレヨ

○議長 第八條以下末條ニ至ル迄原按ニ同意者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ原按ニ決シ乃チ第三讀會ハ爰ニ畢リ之ヲ確定決議ト看做シ例ニ遵ヒ上奏セン散會セヨ

午後第四時閉場

○右は明治十三年九月一日内閣より下附。同月十七日の會議に於て本案酒造稅則及醬麴營業稅則に修正を加へ而して自家飲料製造定限を酒造稅則の附則となすへきに決す。然るに本案は頗る急施を要するを以て直に上奏ありたき旨内閣委員の請求に依り院議の摘要書を附せず同月十八日之を上奏す。同月廿七日第四十號第四十一號を以て布告。

第二百號議案

金札引換公債證書發行條例改定案

元老院會議筆記 明治十三年九月二十日

○第二百號議案 金札引換公債證書發行條例改定ノ儀布告按 第一讀會

第二百一號檢視ノ後之ヲ開ケ

議長 山口尙芳 代理

出席議員

- 一 番 楠田英世
- 二 番 津田出
- 三 番 神田孝平
- 四 番 水本成美
- 五 番 東久世通禧
- 六 番 本田親雄
- 七 番 黒田清綱

金札引換公債證書發行條例改定案

○大藏省 十三年八月十七日

酒類稅則ハ去ル明治八年第二十六號ヲ以テ布告セラレ候以來數回ノ改正ニ係リ逐次其序次ヲ得タリト雖モ其後歲月ヲ閱ミスルニ循ヒ實際不適ノモノアリテ大ニ改正セサル可カラサルナリ既ニ過ル十年以降酒造檢査及ヒ收稅上監査トシテ毎歲租稅局員ヲ各地方ニ派遣シ親シク營業ノ實況ヲ審査シ將來改良ノ適法ヲ考究スルニ第一酒類請賣營業稅ヲ廢シ現行酒類稅則ヲ酒造稅則ト更メ營業稅ヲ酒造免許稅釀造稅ヲ造石稅ト更正シテ課稅ノ酒類ヲ三種ニ分チ各種稅率ヲ定メ其納稅ヲ三期トシ又免許請願及ヒ酒類皆造ノ期限ヲ設クル等最モ改正ノ要領ニシテ其他管理上稅則ニ正條ヲ掲グルモノ一ニシテ止マス幾ント現行稅則ノ全体ヲ一變シ本則ヲ分ツテ四章三十四條トナシ乃チ別紙御布告案并稅則改正案トモ取調致候其改正ノ要スル理由ハ則チ別冊意見書ノ通改正稅則每條ニ就テ之ヲ具陳ス而シテ此改正ヲ實行スルヤ酒價ニ騰貴ノ影響ヲ與ヘ爲メニ營業人ニアラサル者各自酒類ヲ製造シテ自用ニ供スル者愈盛ニシテ勢ヒ酒稅ノ歲入ヲ減少ナラシムヘク故ニ之ヲ管理スルノ方法ナクシテハ釀造ノ基本ナル醬麴營業ニ屬スルヤ又知ルヘカラス依テ自用酒製造ノ基本ナル醬麴營業ニ課稅ヲ與シ就テ自用酒石高制限ヲ設クルノ意見ヲ以テ別紙醬麴營業稅則并自用酒石制限方御布告案及ヒ理由書共取調併セテ致進達候右ハ至急御決裁ノ上本年十月ヨリ御施行相成度此段上申候也(別冊參照) (法規分類大全一・租稅門雜稅一ノ一〇)

- 十 番 箕作麟祥
- 十一番 楠本正隆
- 十二番 福岡孝弟
- 十三番 河田景與
- 十四番 安場保和
- 十五番 伊丹重賢
- 十六番 中村弘毅
- 十七番 渡邊驥
- 十八番 鶴田皓
- 十九番 大給恒
- 二十番 福羽美靜
- 廿一番 柴原和
- 廿二番 津田眞道
- 廿三番 大久保一翁
- 廿四番 伊集院兼寬
- 廿五番 中島信行
- 廿六番 玉乃世履
- 廿七番 林友幸
- 廿八番 渡邊昇
- 廿九番 河瀬眞孝
- 三十番
- 卅一番
- 卅二番
- 卅三番
- 卅四番